

文部科学省委託事業

# 新時代に対応した高等学校改革推進事業 (普通科改革支援事業)

第3年次 実施報告書



令和7年3月

長崎県立松浦高等学校



(巻頭言)

## 新しい普通科としての生徒の学び・教員の学び

長崎県立松浦高等学校 校長 舟越 裕

### 1. 昨年度からの課題について

3年間に及ぶ研究指定事業が終了します。まずは、関係者の皆様にお礼を申し上げます。過去2年の巻頭言では、各年次の取組における課題と、その改善方策(案)を示してきました。昨年度の冊子では、①中学校や地域への説明不足による生徒募集の苦戦、②「地域科学科とは何か」という点についての目線合わせが十分にできていない、という2つの課題を挙げていました。ここでは、3年目の取組の中で、どう取り組んできたか紹介しておきます。

①については、「まつナビ・プロジェクト」において、生徒たちの研究が評価されて長崎県のビジネスコンテストに出場したことをはじめ、質の高い研究が行われた結果、地域からの認知も進み、2年連続で本校への志願者増という結果となりました。また、地域への周知という点では、松浦市小・中学校長会への参加や中学校での単独の学校説明会の開催など、本事業の1年目から本校に勤務する中高連携・地域連携担当のコーディネーターの貢献が大きかったと言えます。

②については、従来から設置していた教員の「活性化ミーティング」の中で、年間指導計画の見直し、ルーブリックの改善等で、教員が主体性を発揮する場面が増え、目線合わせも進んできました。また、「探究」活動に対する教員の伴走支援については、長崎大学藤井佑介准教授、長崎県立大学バロリ・ブレンディ講師及び研究室の学生、産業能率大学杉田一真教授をはじめとした**大学の方々、そして数多くの地域の方々に支援**をいただきました。さらに、「活性化ミーティング」には今年度採用のコーディネーターも参画し、生徒の支援に加えて教員の探究活動へのサポートでも大きな役割を果たしていただきました。

### 2. 本事業終了後について

#### (1) コーディネーターの雇用について

課題克服に向けた取組において、本校では**コーディネーターが大きな役割を果たしています**。コーディネーターの育成・活用・雇用の継続については、文部科学省も本事業の柱の1つとして掲げています。本校で勤務している上記2名のコーディネーターについては、本事業終了後も1名は松浦市の「松浦高校支援事業」で、もう1名は総務省の「地域力創造アドバイザー事業」の活用によって雇用を継続することが内定しており、コーディネーターの定着の在り方の好事例になると考えています。さらに、コーディネーターが学校と大学や地域の人材とを結び付けるハブ人材として、うまく回り始めたという実感を強く持っています。

#### (2) コンソーシアムの維持・発展

コンソーシアムは「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の研究指定を受けた令和2年度から構築されており、本研究指定事業でもカリキュラム開発や地域連携の在り方について数多くの助言をいただき研究開発の推進に大きく貢献いただきました。また、**令和7年度から実施する学校設定科目「松浦学」**の開設に向けて、昨年度から「地域素材を活用した授業づくり」に取り組んでおり、こちらについてもコンソーシアムの構成メンバーである長崎大学教育学部を中心に支援していただいています。

このように、本校にとって欠かすことのできない組織であり、次年度以降はこのコンソーシアムを軸に、**コミュニティ・スクールとしてより地域に開かれた学校として再スタート**を切る予定です。これまで受けてきた様々な支援をベースに、本校地域科学科の取組を一層充実させていきたいと考えています。引き続き、ご支援のほど、よろしくお願いたします。

# ＝新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）目次＝

## 巻頭言

### 第1章 事業の概要

1	本校の概要	1
1-1	所在地	1
1-2	設定課程および在籍生徒数	1
1-3	学校経営方針	1
1-4	令和6年度グランドデザイン	4
2	事業構想（ビジュアル資料）	5
3	令和6年度実施計画の概要	6
3-1	3カ年の実施計画の概要	6
3-2	令和6年度の計画の内容	7
3-3	事業の進捗状況の定期的な確認や改善計画	9
3-4	成果の普及のための計画	10
3-5	管理機関の役割と実施計画	10
4	先進的な教育の取組の概要	12
5	地域科学科	13
5-1	設置の目的	13
5-2	令和6年度における活動の重点項目	15
5-3	先進的な教育の取組～まつナビ・プロジェクト～	17

### 第2章 事業の内容（実施計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

1	実施計画Ⅰ	19
1-1	活動目標	19
1-2	実施計画	19
1-3	1年生の活動実績	19
1-4	2年生の活動実績	23
1-5	3年生の活動実績	30
1-6	地域素材を活用した授業実践	32
1-7	自己評価	34
1-8	松浦高校における事業の管理	37

1-9	3年間の総括【実施計画Ⅰ】	38
2	実施計画Ⅱ	39
2-1	活動目標	39
2-2	実施計画	39
2-3	運営指導委員会	39
2-4	コンソーシアム会議	40
2-5	学校外の組織等との協働	42
2-6	まつナビ支援金制度	43
2-7	コーディネーターの活動とその成果と課題	46
2-8	新学科設置の関係者への説明及び成果普及のための活動実績	50
2-9	国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組	51
2-10	他の事業との関係	52
2-11	3年間の総括【実施計画Ⅱ】	53
3	実施計画Ⅲ	54
3-1	活動目標	54
3-2	実施計画	54
3-3	活動内容	54
3-4	3年間の総括【実施計画Ⅲ】	59
<b>第3章 管理機関の役割</b>		
1-1	管理機関による活動実績	60
1-2	管理機関における事業全体の成果検証、評価	61
<b>第4章 事業検証</b>		
1-1	今年度と3年間の目標設定についての検証	64
1-2	今年度の成果と課題	80
<b>第5章 新時代に対応した普通科改革の継続に向けて</b>		
		81
<b>参考資料</b>		
		86

## 第1章 事業の概要

### 1. 本校の概要

#### 1-1 所在地

〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免738-1

#### 1-2 設定課程および在籍生徒数（令和7年3月1日現在）

	1年	2年	3年	計
地域科学科	45	36	26	107
商業科	24	25	22	71
合計	69	61	48	178

#### 1-3 学校経営方針

##### 1 校訓

「自己開拓」に全力を注ごう  
正しい人間関係をきずいていこう  
よき市民性を身につけよう

##### 2 スクールミッション（教育方針）

###### <どのような生徒を育成するのか：社会的役割>

- (1) 校訓「自己開拓」の精神のもと、基礎学力を高め、主体的に考え粘り強く行動できる人材を育成します。
- (2) 持続可能な地域や社会の担い手として、豊かな人間性や協働性を備えた人材を育成します。

###### <どのような教育を目指すのか：教育理念>

- (1) 不断の授業改善に基づき、学力をはじめとする生徒一人ひとりの多様な資質・能力の育成を目指します。
- (2) 生徒一人ひとりの進路実現を図るため、地域・大学等との協働による探究的な学びや、部活動をはじめとする様々な活動を通して、キャリア形成力や人間力を高める教育を目指します。

###### <学校の特色、強み、魅力（独自の教育）等：今後の方向性>

- (1) 松浦市唯一の高等学校として、地域社会のニーズや生徒一人ひとりの進路希望に応えられる多様な教育活動の展開を図ります。
- (2) 文部科学省研究指定事業の成果を生かし、地域・大学等との協働や県内外の高校との連携による探究的な学びの一層の充実を図ります。

### 3 スクールポリシー

#### <育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーションポリシー）>

- (1) 将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間を育成します。  
(キャリア形成力)
- (2) 社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることができるなど、品性を備えた人間を育成します。(責任言動力)
- (3) 地域や社会の課題解決や発展に貢献しようという意欲を持つ人間を育成します。  
(ふるさと貢献力)

#### <教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー・学びの方針）>

- (1) 将来の目標を実現させるため、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善及び ICT の積極的な利活用を推進します。
- (2) これからの社会を生き抜くために必要な課題解決能力や協働性、ふるさとを大切にする姿勢などを育成するため、地域の企業や大学等と連携・協働しながら「まつナビ・プロジェクト」や授業での探究学習の充実を図ります。
- (3) 「ルーブリック」や「ポートフォリオ」を活用した学習活動の振り返り等を通じて、自己調整力やキャリア形成力の育成を図ります。

#### <入学者受け入れに関する方針（アドミッションポリシー・求める生徒像）>

- (1) 高い志や将来の目標を持ち、その実現に向けて取り組もうという意欲が高い生徒を募集します。
- (2) 高校生活（学習、部活動、学校行事等）に積極的に取り組み、他者と協力して行動しようという意欲が高い生徒を募集します。
- (3) 地域や社会の課題解決に貢献したいという意欲が高い生徒を募集します。

### 4 重点目標

#### (1) 学びあう学校づくり（授業の充実・進路希望の実現）

- ①各教科において、「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、学習の基礎基本となる知識・理解の徹底を図るとともに、論理的思考力、コミュニケーション力、ICT利活用を育成する。
- ②ルーブリックやポートフォリオ等を積極的に活用しながら観点別評価の充実に取り組み、生徒の資質・能力を多面的に評価することで、生徒が主体的に学びに向かう姿勢を育成する。
- ③入試情報や検定や就職に関する情報の収集・分析・発信に取り組み、生徒が自らのキャリアを主体的に考えることができるように支援する。

#### (2) 支えあう学校づくり（生徒指導の充実と教育相談の推進）

- ①生徒の人権に配慮し、支援や配慮が必要な生徒には柔軟に対応し、全教職員で情報共有を図るとともに、関係機関と速やかに連携をとりながら支援・指導にあたる。

②自他の命、健康・安全を守ることを最優先とし、社会の一員としての責任感を持たせ、相手への思いやりのある言動を心がけさせるなど、品性を備えた人間を育成する。

**(3) 伸ばしあう学校づくり（多様性を認めあい、人間性を育む教育活動の推進）**

①すべての学校教育活動を通して、生徒の主体性、積極性、協働性を養う。

②各教育活動の目標を明確にした上で、生徒自身が目標実現に向けたプロセスを自己評価し、自らの成長を実感することができるよう支援・指導にあたる。

**(4) 「まっナビ・プロジェクト」（生徒の「資質・能力」の育成）の充実**

①地域・大学・中学校等と連携して「まっナビ・プロジェクト」の充実を図り、未来の地域社会の担い手となる人間を育成する。

②生徒の「自分事」としての課題研究活動と各教育活動の連携を図り、課題解決能力をはじめとする多様な資質・能力を育成し、生徒のキャリア形成を図る。

③普通科改革の先駆的な取り組みを県内外に発信し、「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築を進めるための体制・運営の研究を進める。

**(5) 中学校・地域社会・保護者との連携**

①学校ホームページ、学校だより、SNS、保護者へのメール配信などを通じて、学校から最新情報を発信し、本校への理解を促進する。

②学校説明会、オープンスクール、情報発信等の広報体制の改善を図り、生徒募集活動の充実によって志願者の増加を図る。

**(6) 教職員の「ワーク・ライフ・バランス」の推進**

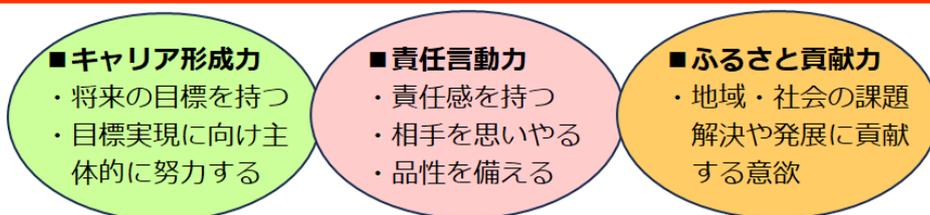
① 教員間の協働性を高め、持続的な教育活動が展開できる職場環境づくりを推進する。

#### 1-4 令和6年度グランドデザイン

令和6年度の松浦高校のグランドデザインは以下のとおりである。将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間になるための「キャリア形成力」、社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることができるなど、品性を備えた人間になるための「責任言動力」、地域や社会の課題解決や発展に貢献しようとする意欲を持つ人間になるための「ふるさと貢献力」といった力を身に付けた生徒を育てる。この実現のために、キャリア形成につながる学びの充実を図り、生徒一人ひとりの進路実現をかなえていく。

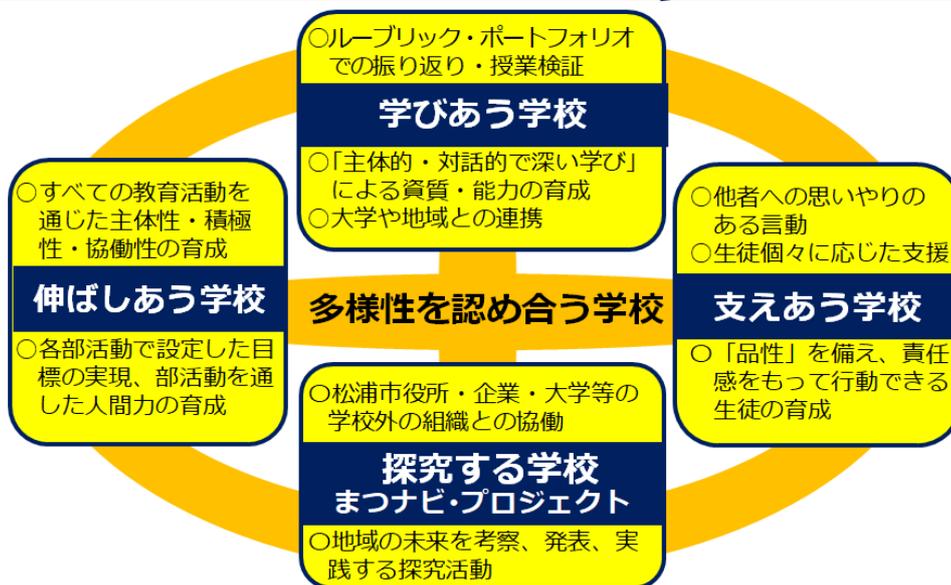
### ～未来の地域イノベーション人財の育成～ 令和6年度 松浦高校グランドデザイン

このような力を身に付けた生徒を育てます



キャリア形成につながる多様な学び

普通科改革による学びの充実



松浦市からの支援による学びの充実

補習・模擬試験・英検・商業検定補助、航路代・部活動強化・まっナビ支援等

一人一人の志望に応じた進路実現

- 地域科学科**  
 国公立大学・私立大学・専門学校への進学、公務員、民間企業への就職
- 商業科**  
 国公立大学・私立大学（**商業科枠での進学可能!**）、専門学校への進学、民間企業への就職



### 3. 令和6年度実施計画の概要

#### 3-1 3ヶ年の実施計画の概要

地域科学科（地域社会学科）における令和4～6年度の実組の実効性を高めるため、取組の目的・目標及び教育活動を通じて生徒が獲得することを目指す「資質・能力」を踏まえ、次のⅠ～Ⅲの実実施計画及び各年度における実施計画を策定。

##### (1) 実施計画

- Ⅰ 育成を目指す「資質・能力」に基づき、教科等を横断する学びを含む、生徒の自己有能感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発
- Ⅱ コンソーシアムを中心とした、中学校と高等学校の学びの連携・交流及び高等学校と大学・企業等の連携による、SDGsを踏まえた地域課題解決型探究活動及びキャリア形成力の涵養活動を組織的に支援する体制の構築・運営の充実
- Ⅲ 県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築と、地域・学校活性化を目標とした学びを進める体制・運営の研究開発

##### (2) 各年度における実施計画

###### ○令和4年度

- 計画Ⅰ 各教育活動ルーブリック評価規準作成・実践・改善
- 計画Ⅱ 中高・高大職連携の推進とその効果等の検証に基づく連携・協力体制の在り方を含む改善
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワークの構築・交流の開始

###### ○令和5年度

- 計画Ⅰ 生徒のキャリアプランの作成状況を踏まえたルーブリック評価規準の検証・改善及び各教育活動への反映
- 計画Ⅱ 令和4年度の検証等を踏まえた支援体制の充実と生徒の探究活動等への支援の検証・改善
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワーク参加校における生徒間の協働活動の推進、教員間の情報共有

###### ○令和6年度

- 計画Ⅰ 地域科学科1回生のキャリアプランの実現に向けたプロセスの検証等による総括、次年度以降の計画策定
- 計画Ⅱ 地域・学校活性化に向けた、3年間の生徒支援の検証等による総括、次年度以降の計画策定
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワークの3年間の取組の検証等による総括、次年度以降の計画策定

3-2 令和6年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資質・能力を身に付けさせるためのルーブリック評価規準やポートフォリオ活用に関する生徒への説明・運用開始(全体)</li> <li>○外部機関のアセスメント・レディネス調査実施(全体)</li> <li>○地域素材を活用した授業計画の作成 →教科横断型授業、各教科の学習内容と探究活動とを往還する学習</li> <li>○職員研修(全体)</li> <li>○進路別探究活動のテーマ設定(3年)</li> <li>○班別探究活動の本格化(2年)</li> <li>○中学校の活動の振り返り(1年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルーブリック・ポートフォリオの活用 →学びアドバイザーとのルーブリックの確認</li> <li>○外部機関のアセスメント →管理機関との結果の共有</li> <li>○職員研修(ルーブリック等、外部機関のアセスメント、地域素材を活用した授業づくり) →大学及び管理機関からの指導・助言</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路別探究活動の継続(～3年7月)</li> <li>○班別探究活動の継続(2年) →課題分析・解決能力の育成</li> <li>○探究スキル(課題発見)育成講座、地域の魅力について知るための松浦未来講演会の実施(1年) →探究スキル、ふるさと貢献力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2年探究活動→コンソーシアムを通じて大学及び地域人材等に支援依頼</li> <li>○探究スキル育成講座 →大学との連携、外部講師招聘</li> <li>○松浦未来講演会 →松浦市役所・まつうら高校応援団加盟各事業所との連携</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コンソーシアム会議・運営指導委員会 →職員へのフィードバック</li> <li>○班別探究活動の継続・中間発表準備(2年) →課題分析・解決能力、プレゼン力</li> <li>○「Matsuura 仕事図鑑」作成(1年) →ふるさと貢献力、必要なスキル育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コンソーシアム会議・運営指導委員会 →研究開発及び事業推進体制への指導助言</li> <li>○班別課題研究 →長崎大学生や長崎県立大学生・外部審査委員・地域等の人材からのフィードバックによる研究</li> <li>○仕事図鑑 →地域の人材活用</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域高校」との連携・協働研究ミーティング(全体)</li> <li>○進路別探究活動のまとめ(3年)</li> <li>○中間発表会(2年) →課題分析・解決能力・プレゼン力</li> <li>○フィールドワーク(2年)及び仕事図鑑インタビュー(1年) →ふるさと貢献力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域高校」との連携 →外部機関及び連携高校とのミーティング内容の調整</li> <li>○中間報告会 →大学生・外部審査委員・地域等の人材からのフィードバック</li> <li>○フィールドワーク、仕事図鑑作成のためのインタビューの支援 →コンソーシアム等との連携</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人・班別の取組のとりまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要に応じて外部諸事業所と連携</li> </ul>

9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路別探究活動のまとめ（3年）</li> <li>○フィールドワークの成果を生かした班別探究の継続（2年） →課題分析・解決能力</li> <li>○仕事図鑑報告会（1年） →資料作成力、プレゼン力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仕事図鑑報告会 →インタビュー対象者の招待</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路別課題研究論文作成（～12月）</li> <li>○課題研究発表会準備（2年） →課題分析・解決力・プレゼン力</li> <li>○研究テーマ設定及び研究活動構想（1年） →自ら学び行動する力</li> <li>○地域の伝統芸能見学（1年） →ふるさと貢献力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プレ構想発表会（1年） →大学生・地域人材からのフィードバック</li> <li>○伝統芸能見学 →見学先との調整</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題探究発表会（2年）・発表会見学（1年） →課題分析・解決能力、プレゼン力</li> <li>○東京フィールドワーク準備（2年）</li> <li>○研究活動班の始動（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題探究発表会 →長崎大生や長崎県立大学生および外部審査委員への評価方法の説明</li> <li>○東京フィールドワーク →訪問先との調整</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京フィールドワーク（2年）</li> <li>○「地域高校」との連携ミーティング・生徒交流会（2年）</li> <li>○各研究活動班でのテーマ設定（1年） →課題分析力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京フィールドワーク →訪問先との調整</li> <li>○「地域高校」との交流会 →連携校との調整、会場との調整</li> <li>○必要に応じて外部諸事業所と連携</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間の取り組みを振り返るアンケートの実施・ポートフォリオの作成（全体）</li> <li>○3年間の総括（3年）</li> <li>○課題探究のまとめ（2年）</li> <li>○インターンシップ準備（2年）</li> <li>○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケート等 →結果の分析及び管理機関との共有</li> <li>○インターンシップ→各事業所との調整</li> <li>○班別構想発表準備・フィールドワーク →各事業所との連携</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コンソーシアム会議・運営指導委員会（全体）</li> <li>○インターンシップ準備（2年）</li> <li>○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コンソーシアム会議・運営指導委員会 →アンケート等の分析結果に基づき、課題研究活動や事業の検証を行い、次年度の計画を立案</li> <li>○インターンシップ→各事業所との調整</li> <li>○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク →各事業所との連携</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インターンシップ（2年）</li> <li>○フィールドワーク（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インターンシップ→各事業所との調整</li> <li>○フィールドワーク →各事業所との連携</li> </ul>

### 3-3 事業の進捗状況の定期的な確認や改善計画

地域科学科における事業の進捗を管理するとともに、計画Ⅰ～Ⅲを中心に進める事業の質的な向上を図るため、PDCA サイクルに基づく組織マネジメントを校内外の組織をつなげて推進する。その際、成果指標（アウトカム）設定の考え方等に基づき、事業の成果と課題を検証する。

#### (1) 定期的な確認や改善を図る組織及びその活動内容

##### ①校内プロジェクトチームによる地域科学科・活性化ミーティング

- ・成果目標を踏まえて、研究開発の進捗管理を行い、計画・方法等の改善を図る。

##### ②コンソーシアム会議

- ・定期的なコンソーシアム会議における、松浦高校との連携の内容・方法等に関する意見等を踏まえ、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討する。

##### ③運営指導委員会による検証・改善

- ・定期的な運営指導委員会による、成果目標を踏まえた事業の検証及び指導助言等により、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討する。

#### (2) 成果指標（アウトカム）設定の考え方

##### ①計画Ⅰにおける成果指標

- ・生徒個々のキャリアプランを踏まえた、進路希望の実現率（％）

##### ②計画Ⅱにおける成果指標

- ・課題研究発表会等において、審査員等から地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（％）

##### ③計画Ⅲにおける成果指標

- ・育成したい資質・能力（課題分析・解決能力、コミュニケーション力、ふるさと貢献力）に関するルーブリック評価規準の5段階の到達度における生徒自己評価の平均値

#### (3) その他

##### ①生徒、保護者、教職員等アンケートの実施

- ・地域科学科の取組に関する理解度、満足度等のアンケート調査の結果分析に基づき、事業計画の改善を図る。

### 3-4 成果の普及のための計画

次の(1)～(3)により、成果の普及を図る。

#### (1) 小・中学校及び地域等への成果普及

- ①松浦高校の Web ページ、または SNS 上に専用のカテゴリを作成し、生徒の活動状況を随時更新する。
- ②松浦高校の生徒が、小・中学校を訪問し、児童・生徒向けに課題探究活動の成果を発表する。

#### (2) 県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワーク間の成果共有・成果普及

- ①立命館宇治中学・高等学校の WWL コンソーシアムに2年前から加盟している。また、今年度は、NPO 認定法人カタリバ主催の「学校横断型探究プロジェクト」に参加し、全国の参加校とお互いの活動や成果を発表することで全国レベルの普及につなげる。

#### (3) 教員向けの成果共有・成果普及

- ①実践報告発表会等において地域への貢献度が高いと認められる生徒のプロジェクトを共有するため、ホームページや SNS への掲載・発表動画配信や関係各校への報告書等の送付により、広く情報発信を行う。

### 3-5 管理機関の役割と実施計画

#### (1) 実施体制や事業の管理方法

本事業の管理・指導・支援は、長崎県教育庁総務課県立学校改革推進室（令和4年度）及び高校教育課（令和5、6年度）が行うこととする。

- ①管理機関は、本事業の運営に関して指導助言に当たる運営指導委員会を設置するとともに、地域課題解決型学習を組織的に支援するコンソーシアムとの連携協力体制を整備する。また、その連携協力が円滑に行われるよう、連絡調整を担うコーディネーターを松浦高校に配置する等、取組の支援を行う。
  - ・運営指導委員会は、学識経験者や行政職員等、専門的見地から指導助言に当たる第三者により組織し、事業の目的・目標を踏まえた地域科学科の研究内容について客観的に検証及び指導助言を行う。
  - ・コンソーシアムは、松浦市、大学、地元企業・経済団体、小・中学校等、豊富な実践と高い見識を持つ方々により構成し、幅広い視点から専門的な指導と助言を受けられる体制を築く。
  - ・コーディネーターには、管理機関、松浦高校、コンソーシアムと将来の地域ビジョン・求める人材像等を共有でき、地域の実情や魅力・課題に深い見識を有する方を指名する。
- ②管理機関は、運営指導委員会と連携しながら、定期的に松浦高校を訪問し、教育課程編成、学校設定科目、カリキュラム・マネジメント、ルーブリックによる評価及び授業改善への指導助言等を行うとともに、コンソーシアムの更なる充実や、「地域に根ざし

た高等学校」ネットワーク構築に向けて必要な支援を行う。そして、進捗状況を把握した上で事業全体を管理し、事業の検証・改善への提案を行う。

- ③地元松浦市や松浦高校と連携しながら各種メディア等における広報活動を行い、地域科学科における教育活動や「資質・能力」について、中学生、保護者、地域住民への周知及び理解促進を図る。また、松浦高校を普通科改革のモデルケースとして、実践報告発表会等を通して他校への普及を図る。

## (2) 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

管理機関は、松浦高校、コンソーシアム会議及び運営指導委員会と連携し、事業全体の成果検証及び評価を行う。

### ①松浦高校と連携した検証・評価

- ・生徒の目標達成度合いについて、管理機関、学びアドバイザー等により評価を行い、取組の成果を検証する。検証した結果は、運営指導委員会に報告する。
- ・広報活動により、地元中学生や保護者に対して、地域科学科の設置目的や、「資質・能力」についての理解促進が図られたかどうかを検証する。

### ②コンソーシアム会議と連携した検証・評価

- ・探究活動への研究支援及び生徒のキャリア形成への支援の充実に向けた取組の検証及び評価を行う。

### ③運営指導委員会と連携した検証・評価

- ・コンソーシアム会議等から報告された検証結果も踏まえ、事業全体の成果検証及び評価を行う。
- ・成果検証及び評価の結果について、コンソーシアム会議等に対してフィードバックを行う。
- ・定期的な運営指導委員会による事業の検証及び指導助言等を踏まえ、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討し、以後の計画等に反映させるとともに、次回会議でその内容を報告する。

#### 4. 先進的な教育の取組の概要

##### (1) 松浦高校普通科（令和4年度まで）の特色

- ①松浦高校は、長崎県松浦市内にある唯一の高等学校であり、普通科・商業科の併設校である。
- ②入学者の減少を受けて、平成25年度から、松浦市による、松浦高校の生徒を対象とした就学支援制度が創設された。また、翌26年度には、それまでの普通科に加えて、中学生の多様な進路希望への対応を図るため商業科が併設され、普通科2クラス（定員80名）、商業科1クラス（定員40名）となった。

##### (2) 地域科学科の導入

- ①令和3年6月に策定した「長崎県立高等学校教育改革第9次実施計画」により、松浦高校のこれまでの取組の成果や国の普通科改革に係る制度改正等を踏まえ、地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的の学びに重点的に取り組む地域科学科（地域社会学科）を、令和4年4月から普通科改革として導入した。

##### (3) 先進的な教育の取組～まつナビ・プロジェクト～

- ①平成29年度から、松浦市と協働して、ふるさとを大切にする姿勢を身に付けることを目指して、松浦高校2年生が地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動～「まつナビ」～が開始された。
- ②令和元年度までの3年間で取り組んだ「まつナビ」を進化させた新たな地域課題解決型学習が「まつナビ・プロジェクト」であり、令和2年度から令和4年度まで文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究指定校となった。

##### ③「まつナビ・プロジェクト」

松浦高校と松浦市が協働で取り組んできた高等学校2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、3年間の連続性のある探究学習に進化させたもの。生徒の課題解決能力を高めること等を目指して次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し研究開発を実施した。

- Ⅰ 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高等学校3年間の地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発
- Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

## 5. 地域科学科

### 5-1 設置の目的

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科を設置する必要性

#### ①松浦高校を取り巻く状況

- ・長崎県は若者の流出や人口減少が著しく、地域を担う人材不足が深刻化している。そのため県内の多くの地域において、高等学校と地元自治体等が協働して地域活性化に資する人材の育成に取り組んでおり、今後その取組をさらに充実させるため、学校間の活動の連携を深めるネットワークづくりを進めることが求められている。
- ・松浦高校は、令和3年度に60周年を迎えた松浦市内にある唯一の高等学校（普通科・商業科設置）であり、地域社会の未来を担う人材の育成が期待されている。
- ・松浦市からは、就学支援制度の創設（平成25年度～）、地域課題解決型学習「まつナビ」への支援（平成29年度～）、文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究開発（令和2年度～令和4年度）において、継続的多角的な支援が行われている。
- ・市内中学校の保護者を含む地域の方々からは、自ら学ぶ姿勢を身に付け、基礎学力を高めることで生徒一人ひとりの進路希望の実現を図ることが求められている。特に大学進学に向けた教育活動の充実を望む声が強い。また、生徒一人ひとりが責任ある言動ができるなどの「人間力」の育成や、県内外の高校生との交流を深めたり、部活動の活性化を進めたりすることによる、「活力ある」学校づくりが求められている。

#### ②地域科学科を設置する必要性

- ・松浦高校のこれまでの取組の成果や国の普通科改革に係る制度改正等を踏まえ、地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的学びに重点的に取り組む学科を設置する。
- ・県内の「地域に根ざした高等学校」の先行モデルとして導入し、取組の成果の普及を図る。
- ・地域科学科においては、前述の内容を踏まえ、以下の①～③の取組の推進が必要である。

① 生徒個々のキャリアプランの作成をすすめ、そのプランに基づく進路希望の実現

② 松浦高校と近隣の中学校及び大学等との協働による地域活性化への貢献

③ 県内外の「地域に根ざした高等学校」との連携等による参加高等学校の活性化

(2) 学際領域学科又は地域社会学科における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

①目的 地域社会の未来を担うリーダーの育成

～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～

②目標

- 1 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現
- 2 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献
- 3 県内外の「地域に根ざした高等学校」との連携等による学校活性化

③育成を目指す人物像及び育成を目指す資質・能力（以下、「資質・能力」。㉑～㉔）

- 1 将来の目標を持ち、その実現に向けて努力を続ける人物（キャリア形成力）
  - ㉑「働くこと」に関する情報の取捨選択を含むキャリアプランニング力
  - ㉒自ら学び、行動する力
  - ㉓課題分析・解決能力（課題発見、データ分析、論理的考察、計画性等）
  - ㉔コミュニケーション力（傾聴・対話・プレゼンテーション）
- 2 責任感があり、相手を思いやる言動ができるなど、品性を備えた人物（㉑責任言動力）
- 3 ふるさとを大切に思い、その発展に貢献しようとする意欲を持つ人物（㉒ふるさと貢献力）

④地域科学科における教育（概要）

「資質・能力」をもとに、次の1～5の教育活動の関連性を強める。また、各教育活動のルーブリック評価規準を明示し、生徒が各教育活動における取組の自己評価を行い、その改善を図ることができるようにする（指導と評価の一体化の推進）。

- 1 松高キャリア・プランニング
- 2 まつナビ・プロジェクト（「地域高校」ネットワークの構築・協働研究を含む）
- 3 一人ひとりの生徒のキャリアプランを踏まえた普通教科の学びの充実
- 4 生徒の自己有能感を高めるための主体的な活動（生徒会活動、ボランティア等）
- 5 生徒の「責任ある言動」を伸ばす活動（部活動等）

⑤「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」と並行した取組について

- ・上記「②目標1」では、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」研究開発単位Ⅰにおける「カリキュラムの研究開発」をさらに進め、育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための指導と評価を一体的に行うカリキュラム開発を推進する。
- ・上記「②目標2」では、コンソーシアムにも入る長崎大学・長崎県立大学等との連携（大学生との交流も含む）により生徒の学びの充実を図る。また、コーディネーターの設置により松浦市内の中学校との連携も強化し、中学校の「ふるさと教育」と「ま

つナビ・プロジェクト」をつなげる中高連携により教育活動の充実を図る。

- ・上記「②目標3」では、普通科改革に取り組んでいる県内外の高等学校とのネットワーク構築を進め、連携校間の研究開発の共有による教員の資質・能力の向上及び生徒間交流による生徒の資質・能力の向上に取り組んでいく。

## 5-2 令和6年度における活動の重点項目

### (1) 主な教育活動

#### ①松高キャリア・プランニング

- ・「自分の将来」について考え、決断し、その実現に向けた実践につなげる教育活動
- ・ルーブリックによる評価を活用した各教育活動における定期的な自己評価（振り返り）と「松高ポートフォリオ」への記録・検証・取組の改善

#### ②まつナビ・プロジェクト（「地域高校」ネットワークの構築・協働研究を含む）

- ・地域課題探究学習により、「課題分析・解決能力」、「ふるさとを大切にする姿勢」を育成
- ・松浦市、長崎大学、長崎県立大学をはじめとする学校外の組織等との協働
- ・「地域に根ざした高等学校」のネットワークを構築した上で協働研究等を実施

#### ③一人ひとりの生徒のキャリアプランを踏まえた普通教科の学びの充実

- ・生徒一人ひとりのキャリアプランを踏まえ、地域素材を活かした新たな教科・科目の取組
- ・まつナビ・プロジェクトとの関連を深めることなどによって「課題分析・解決能力」等を伸ばす学びの推進

#### ④生徒の自己有能感を高めるための主体的な活動の推進

- ・生徒会が中心となった行事等の企画・運営
- ・生徒有志による校則見直し委員会発足及び主体的なルールメイキング活動
- ・特別活動などにおける生徒の自発的な活動の充実

#### ⑤生徒の「責任ある言動」を伸ばす活動

- ・特別活動等における、生徒相互が「支え合い、伸ばしあう学び」の推進
- ・各部活動で設定した目標に基づく、「人間力」向上に向けた活動の推進

#### ⑥商業科との連携による教科横断的な取組

まつナビ・プロジェクトは、地域科学科と商業科との合同で実施する。地域課題探究学習を進める上で必要な課題分析・解決能力等は商業科の「情報処理」や「マーケティング」等の内容でも取り扱っており、その内容を地域科学科と商業科とが共有することで、教科横断的なカリキュラムの開発にもつなげていく。

## (2) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

### ①連携・協力体制構築の考え方

コンソーシアムを中心に、まつナビ・プロジェクトでの探究活動や地域の中学生・高校生のキャリア形成力育成につながる取組への支援の充実を図る。また、生徒の多様な探究活動等への助言等が可能な地域の諸団体や人物に支援を依頼するなどして、協力体制の強化を図る。

### ②連携・協力体制構築における重点項目

#### 【令和4年度】

- ・ふるさと学習を起点とした中高協働学習や、高等学校、大学及び地元企業等の連携（以下、「高大職連携」）によるSDGsを踏まえたまつナビ・プロジェクトの探究活動及び中・高校生のキャリア形成力育成活動への支援の充実を図る。
- ・コンソーシアムによる効果検証等に基づき、校内の「活性化ミーティング」に「学びアドバイザー」や関係機関の担当者に定期的に参加してもらい、持続可能な組織の在り方を含む連携・協力体制の改善を図る。

#### 【令和5年度】

- ・令和4年度の検証及び令和4年度末に創設した「まつうら高校応援団」との連携に基づき、地域との連携・協力体制の充実と生徒の探究活動へのより効果的な支援を進め、連携・協力体制の改善を図る。

#### 【令和6年度】

- ・地域・学校活性化に向けた中高協働学習・高大職連携をはじめとする松浦高校と連携組織等との3年間の取組の検証等による総括、令和7年度以降の連携・協力体制等の在り方について検討する。

### 5-3 先進的な教育の取組～まつナビ・プロジェクト～

#### (1) まつナビ・プロジェクトとは

平成 25 年度、松浦市内唯一の高校である松浦高校への入学者の減少などもあり、松浦市による、松浦高校の生徒を対象とした就学支援制度が創設された。当時は 2 年生全員を複数の研究班に分け、松浦市役所職員が班毎のファシリテーターとなり、学年担当教職員とチームを組んで生徒の課題研究を支援する体制で始められた。平成 29 年度からは、松浦市と松浦高校が協働して、学校の魅力を高めることなどを目指した、地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動が始められた。これが「まつナビ」である。

令和 2 年度からは 3 年間を見通したカリキュラムに変更した。また、同年度から令和 4 年度までの 3 年間、文科省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究指定校となった。

さらに、令和 4 年度 4 月より新しい普通科である「地域科学科」が開設されると同時に、「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」の研究指定校となり、令和 4 年度については、文部科学省の 2 つの事業の指定を受けることになった。

年度	学校改革の動き
H23	○松浦東高等学校閉校（松浦市内の高校が 1 校となる）、創立 50 周年
H25	○生徒数の減少により普通科が 1 学年 4 学級から 3 学級（定員 120 名）に ○ <b>松浦市による就学支援制度開始</b>
H26	○商業科を新設し、普通科 2 学級・商業科 1 学級となる（定員 120 名）
H29	○ <b>地域課題探究学習「まつナビ」（2 学年の総学での取組）</b> スタート
R2	○文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」研究指定（～R 4 年度） ※ <b>3 年間のカリキュラム開発＝「まつナビ・プロジェクト」</b>
R4	○ <b>普通科を地域科学科に改編</b> ○ <b>文部科学省「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」</b> 研究指定（～R 6 年度）
R6	○文部科学省「高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校DX加速化推進事業）」採択

(2) 年間実施内容

以下の表は、本事業対象の地域科学科1～3年生におけるまつナビ・プロジェクトの年間実施内容である。

事業項目	実施日程（令和6年4月1日～令和7年3月31日）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
<b>カリキュラムや教育方法等の検討・開発・実施</b>												
カリキュラム開発会議 （活性化ミーティング）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
外部講師による講座		●	●	●		●	●	●				●
フィールドワーク	●	●	●	●	●	●				●		●
産業能率大学 主体的／協働 的学習者育成プログラム		●					●	●				
<b>関係機関との連携協力体制の構築・維持</b>												
運営指導委員会		●									●	
コンソーシアム会議		●									●	
先進校視察／学校訪問(来校)			●		●	●	●		●	●	●	
松浦市との意見交換会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
<b>コーディネーター</b>												
コーディネーター大内康仁氏	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コーディネーター馬庭亜由氏	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
<b>新学科設置に向けた説明会等の実施</b>												
説明会（中学生・保護者）			●	●	●							
オープンスクール				●				●				
<b>成果発表・成果普及</b>												
構想・中間・最終発表			●				●				●	
県の研究報告会における成果普及											●	
連携校との生徒間交流会（「カタリバ学校横断型探究」含む）							●	●	●		●	
SNS やHP での情報発信	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
<b>成果検証</b>												
高校魅力化評価システム						●		●				
校内(独自)アンケート調査										●		

\* 実際の活動については、「第2章」で説明する。

## 第2章 事業の内容（実施計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

### 1. 実施計画Ⅰ

#### 1-1 活動目標

生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現

#### 1-2 実施計画

生徒の自己有能感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発

#### 1-3 1年生の活動実績

##### (1) 探究性を高めるための活動【実施計画Ⅰ】

###### ① データ研修会

○日時：令和6年5月15日（水）14:00～15:40

○目的：データやものの価値の見方について学ぶ。

○内容：まっナビ・プロジェクトにおける探究スキル向上のための「さまざまなデータの見方やそれを活用するための研修」

○講師：長崎県教育庁高校教育課 指導主事 長尾 和弘 様



■ データ研修会

###### ② 松浦再発見研修会（松浦市）

○日時：令和6年5月29日（水）12:55～14:45

○目的：松浦市で活躍する方々に直接話を聞くことで、松浦の企業への興味・関心を高める。また、課題研究テーマ設定を行うためのテーマ設定力を身につける。

○内容：令和4年3月に設立された、「まっくら高校応援団」のうち9事業者に参加してもらいブース形式の講演会を行った。

○講師：近江鍛工、法知園、エミネントスラックス、エンマキグループ/西日本魚市、中興化成工業、住商エアバッグシステムズ、九州電力、みやだデザイン合同会社、九州液化瓦斯福島基地(株)



■ 松浦再発見研修会

③『まつうら仕事図鑑』

○日程：令和6年度6月～

○目的：・仕事に対する理解を深め、自らのキャリアプランニングの一助とする。

- ・地域の方々へのインタビューを通して、コミュニケーション力を身に付ける
- ・地域課題を発見し、調べることで、課題研究のテーマ設定力を高める。
- ・将来は松浦に貢献したいという気持ちを醸成し、将来的なふるさと貢献力を高める。

○内容：1年生が、グループごとに松浦市で働くの方々へのインタビューを行い、仕事の魅力や働く意味などをまとめた冊子を作成する。

■スケジュール

	日付	内容	目的や留意事項
1	4～5月	<b>前年度の仕事図鑑配布</b> 作成する成果物のイメージを膨らませる。	前年度にインタビューした事業所は対象から外す。
2	6/26 (水)	<b>仕事図鑑スタートアップ講座</b> 松浦市やまつうら高校応援団などから講演いただくことで、これまで知らなかった地域を知り、インタビュー先の候補が広がった。その中から3～4名の班単位でインタビュー先を決定する。	各クラスで分かれた班でインタビュー先を検討。担当教諭とも面談を重ねて、訪問先を決定する。
3	7/3 (水)	<b>写真の撮り方講座／記事の書き方講座</b> 地元の写真のスペシャリストを招いて、写真の撮り方講座を行う。写真は一人一台配布されているタブレットPCで撮影する。記事は長崎新聞社の記者による講座を行う。	これからの活動で疑問や不安なことをまとめておき、質疑応答の時間には、積極的に手をあげる。
4	7月上旬 ～中旬	<b>アポイント取り</b> 最初は各クラスの担任・副担任で趣旨・内容説明と7月23日の取材が可能かのアポイント取りを行う。	趣旨説明はしっかり生徒へ行う。依頼文書の送付先(担当者?責任者?代表者?)を訪ねておく。
5	7/17 (水)	<b>取材計画／模擬インタビュー</b> 何を聞いてどのようにまとめるかを班で考え、インタビューや写真係、記録などの係を決めて、実際に各班の担当教員を前に模擬インタビューを行う。	班員で、交代で役割のロールプレイングを行ってみる。その後役割分担を決める。
6	直前	<b>リハーサル</b> 各班でリハーサルを進める。	担当教員をモデルにリハーサルを行い、記録や写真の撮り方などを研究する。
7	7/23 (火)	<b>一斉取材</b> インタビュー開始10分前までには、現地でスタンバイを済ませる。①バインダー ②筆記用具 ③タブレット ④名札 ⑤インタビューシートを忘れずにもっていく。	引率なしで生徒(班員)のみの活動になる場合もあるので、しっかり挨拶をして、和やかな雰囲気をつくる。
8	7月下旬 ～ 9月中旬	<b>まつうら高校応援団による支援</b> 応援団に入っただいている事業所のうち、記事をまとめたり、レイアウトを考えるプロフェッショナル(専門家)に生徒の活動に入ってもらうなど、アドバイスをもらいながら、校正をすすめる。	来校していただける日は後日連絡する。ここまでで困っていることや不安に思っていることをまとめておく。
9	9/18 (水)	<b>原稿提出</b> 夏休み期間中に Microsoft teams でやり取りを進め、原稿をこの日に提出する。	夏休み中に、応援団のアドバイザーに相談に行ってもよい(必ず担当教員の許可を得ること)
10	2月末	<b>成果物完成</b> 地域のデザイン専門会社にデザインを委託し、成果物として完成させる。	地域の実情を踏まえた視点からのアドバイスを取り入れ、修正していく。



■ 7月23日一斉インタビュー

## (2) 主に主体性を高めるための活動【実施計画 I】

### ①外部講師によるワークショップ

産業能率大学による研修会

○日時：令和6年5月20日（月）主体的学習者育成プログラム

令和6年10月28日（月）協働的学習者育成プログラム

○目的：これから課題研究テーマ設定を行う1年生が課題や研究テーマの見つけ方を学び、その後の探究を進めるためのスキルアップを図る。

○内容：主体的学習者育成プログラム

世の中の事象を、問題意識をもって観察し、観察によって得られた事実を多様な視点から解釈する活動を体験する。

協働的学習者育成プログラム

多様な背景や価値観をもつ人々と関係を構築する力や支援・援助する力、情報や考え方を共有する力などを身につける。

○対象：1年生向け

○講師：産業能率大学経営学部 杉田一真 教授



■杉田教授による講義



■ワークショップ

### ②プレ構想発表会（仮テーマ設定）

○日時：令和6年10月16日（水）14:05～15:40

○目的：これから本格的にはじまる課題研究テーマ設定について、現時点で生徒が考える研究の対象・目的・方法等について確認する機会とする。また協働して研究する仲間づくりを生徒自身が行っていくための一助とする。

○対象：1年生



■プレ構想発表会①



■プレ構想発表会②

■今年のプレ構想発表会テーマ

Uターンする人を増やそう！、子育てがしやすい松浦へ、松浦の人口を増やそう、古民家・空き家を活用した人口増加、空き家を使った観光スポット、環境汚染、イベントで地域を盛り上げよう、廃校をみんなが遊べる場所にする、～空き家を減らすために～、保湿クリームを作ろう！、ボディスクラブ、(ボディオイル)の作成、松浦市の植物や果物を使って保湿クリームをつくろう、一番焼けない日焼け止め、動物について、いろんな動物の過ごし方の違い、動物の良さを伝える、犬について、猫の一日の過ごし方、猫に癒されよう、異文化交流の楽しさを伝える！、松浦の伝承を伝える、長崎から見た日本史、「言葉」を追う、松浦の事を漫画にしてみよう、松浦 pop-music、project、松浦の高齢者の方々の生活をもっと豊かなものにしたい！、SDGs ペットボトル再利用、四季折々の散歩道：季節を感じる散策、豊かな海を守る、海のゴミを少しずつ減らそう！、「モケケ」で松浦をPRしよう！、松浦キューアールコードプロジェクト、松浦の観光スポットをたくさんの人に知ってもらい、観光客をふやそう！松浦にグランピング施設を作る、カフェ巡りマップ、松浦に花見スポットを作り、地域活性化につなげよう！、遊園地をつくる、地域コミュニティの活性化、子供たちを救おう、まつうらキティをつくろう、アジフライだけではない！松高生&市の製菓店で商品開発!!、松浦に観光客を増やそう(アジフライクレープ)、松浦産のフルーツジャム、松浦市の果物や野菜を使ったスムージーを開発して販売するパッションフルーツを広める、なぎなたでまちを盛り上げよう、新商品開発、松浦の魅力を発信しよう！、いろんな会社の方々と協力してコラボ商品を作るそして、活動をいろんな人に知ってもらい、松浦をアジフライ以外のものでも有名にする、松浦の水産業について知ろう、保護ねこカフェ、★マツスタコラボカフェ★、芸能人と一緒に松浦のことについて知ろう！、松浦市の海を美しくする、スポーツで松浦を盛り上げよう、保護猫カフェ、松浦の自然を活かして観光地を作ろう、アーティストを呼ぶ、学校で映画を見たい、アーティストを呼ぶ、松浦でいろいろなイベントを開きたい、ゲームを使ってイベントを開く、美術をもっと身近に、反射材で子供たちを守ろう、知ってほしい”1gのエネルギー”と活用方法、松浦にショッピングモールを建てよう！、松浦市のことを広めよう、落語の楽しさを広めたい!!

(3) 主に協働性を高める活動【実施計画 I】

①班別構想発表会 (テーマ設定)

○日時：令和7年3月5日(水)

14:00～15:40

○目的：地域課題解決に向けての構想を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上や今後の活動の改善を目指す。

○内容：パワーポイントを用いたプレゼンテーションとし、1班につき2分程度で発表する。

\* 1班1～6人で編成

○対象：1年生

■課題研究テーマ一覧（1年生）

班	タイトル
01班	MATSUURA CF PROJECT
02班	空き家
03班	つばき油を使って日焼け止めをつくろう
04班	野良猫問題を解決しよう
05班	長崎に迫れ！
06班	ごみをリサイクル
07A班	観光
07B班	まつモケ
08A班	まつドリー焼きを通して学校をPR
08B班	お茶漬け開発
08C班	肥料をつくろう
09A班	運営&キッチンカー
09B班	イベント誘致
09C班	芸能人を呼んでフェスをひらこう
10班	松浦をもっと明るくする



■MATSUURA CF PROJECT



■ごみをリサイクル

- 今年度は、生徒一人ひとりのマイプロジェクトを大切にするために、1人での活動も可とした。
- 担当教員と生徒で協議をした後、12月の1カ月間は他班への「移動」も可とした。

1-4 2年生の活動実績

(1) 主に協働性・社会性を高める活動【実施計画I】

①中間発表会

- 日時：令和6年6月19日（水） 14:00～15:40
- 目的：地域課題解決に向けた研究について、進捗状況を発表することで、生徒自ら研究の対象・目的・方法等について確認する機会とする。また、今後の課題研究について専門家からアドバイスを受けることで研究の方向性を確かめる。さらに、全体の前で発表することで、校内発表および課題研究発表会に向けてよりよい発表のしかたを身につける。
- 内容：各班で発表・質疑応答・移動を含めた10分間のポスターセッションを8回繰り返す。なお、その間、班員は交代で他班の発表を聞きに行く。
- 対象：2年生

## ■ テーマ一覧

班番号	テーマ	課題	内容
02	水産業を盛り上げよう！	松浦市の漁業従事者の減少 アジ以外の魚の知名度が低い	おさかな祭りでのハンバーガー販売
03	松浦市をきれいに	松浦市のゴミ問題	松浦市のゴミ問題を松浦の子ども達に知ってもらい再利用の道を考える。
04	完璧なアジフライの聖地を目指して	アジのウロコが大量廃棄されている	アジのうろこからコラーゲンを抽出し、製品を作る
05A	松浦のお茶を使って甘いものを作り、地域を盛り上げよう。	松浦のお茶について知っている人が少ない	松浦のお茶をPRするために甘いものを作る。
05B	松浦 PR 計画	人手不足	ホットホットカフェとコラボ チョコバナナクレープのパッケージ制作 松浦の企業をPRするポスター作成
06	あらゆる人のための町づくり	防災意識 災害対応力	防災ベンチ 自主防災組織 防災教室
07	ひろがる「輪」	障がいを持った方々との交流の機会が少ない	簡単な手話を覚える。 聴覚障がい者の方々が困っていることを聞いて解決に向けてお手伝いする 発表会で発表することで多くの人に知ってもらう
08A	他校生と交流しよう	松高の知名度UP 他校生とのコミュニケーション	知名度UPと他校生とのコミュニケーション力を上げるためにポスター作成を通して他校生と交流する。
08B	フードフェスタ	松高の文化祭をもっと盛り上げたい	文化祭にキッチンカーを呼ぶ
08C	想いとどけ	地域のイベントが少ない	後夜祭 イルミネーション ランタン的な?? キャンプファイアー 募金活動
10	4ippo supporter	動物保護	里親が見つからない猫・犬の里親探し
11A	Homepage innovation	松高の知名度UP	松高のHPを追加する
11B	SNS を使って松高知名度UP	松高の知名度UP	インスタグラムで松浦高校を紹介する
11C	民話のアニメ化	民話を親しみやすいものにする	民話をアニメにする。



■ 中間発表会①



■ 中間発表会②

■生徒による中間発表会振り返り（ベネッセ／クラッシー「ポートフォリオ」）

今日までの自分たちの活動を発表してみてもっと発表練習をすればよかったと後悔が残っている。どの班もあまり原稿を見ておらず発表していたので、すごいなと思った。他にも、質問応答と同じ班のYさんが主にしてくれたので、とても助かった。私は何もできず情けないと思った。これからは、ウロコやそれを使った実験について私の考えや思いを言語化できるようにまず状況を自分たちで理解しまとめる活動を、まつナビの時間の中で実践していこうと思う。

聞き手の方々からの質問が同じだったことが多く、これがポスターや説明の中に足りない部分と知ることができたので、その質問に対する答えをポスターや原稿の内容に入れようと思う。

どの班も写真をうまく使っており、質問に対する答えもわかりやすくお手本にしようと思った。色々な班の発表を聞いて学びになることが多く、とても良い機会だったと思う。（2年生Yさん）

②課題探究発表会

- 日時：令和6年10月23日（水） 12：30～15：55
- 目的：「まつナビ・プロジェクト」の実践活動について、地域の方々へ生徒が主体的に地域課題について考え、実践した成果を発表し、周知をはかる。
- 場所：松浦市文化会館 ゆめホール（長崎県松浦市志佐町浦免1110）
- 日程
  - 12:30～12:35 開会行事 校長挨拶
  - 12:35～14:00 前半7班（発表5分+質疑応答5分+交代2分）
  - 14:00～14:15 休憩
  - 14:15～15:30 後半7班（発表5分+質疑応答5分+交代2分）
  - 15:30～15:40 小浜高校発表
  - 15:40～15:55 閉会行事（生徒代表）

講評 長崎県立大学 地域創造学部 バロリ・ブレンディ 先生  
表彰 舟越校長



■課題探究発表会

松浦高校2年生による  
まつナビ・プロジェクト  
**課題探究発表会**  
in 松浦市文化会館

本校では文部科学省から「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科支援事業）」の指定を受け、松浦市をはじめとするコンソーシアム等の支援を受けながら、「まつナビ・プロジェクト」を実施しています。その一環として、2年生による発表発表会を行います。

わたしたちが大切にしていること  
(卒業までに身に付けたい力)

- 情報理解・収集力
- プレゼンテーション力
- テーマ設定力
- 課題発見力
- コミュニケーション力
- 論理的思考力
- キャリア形成力
- ふるさと貢献力

発表内容 水産業を盛り上げよう  
松浦をきれいに  
完備なアジフライの産地を目指して  
松浦PR計画  
あらゆる人のためのまちづくり  
など13プロジェクトによる発表

日時 **10月23日（水）**  
12:30～15:55

長崎県立松浦高等学校 0956-72-0142  
〒859-4501 松浦市志佐町浦免738-1

### ③発表会を円滑に運営するために

#### 【実施前】

- あらかじめ「年間計画」に位置付けておく（まつナビの活動全般、年間スケジュール）
- 審査員の選定、依頼 会場（松浦市文化会館）の確保

#### 【実施前日まで】

- 実施要項を作成 他校・保護者・地域向けへの案内文書を作成
- 教員の係分担 掲示物の準備（座席表など） ポスター／スライド作成
- 参加者名簿の作成 パンフレットの作成・印刷（時程、発表順決定後）
- 審査員の評価シートの作成 生徒振り返りの準備（Classi or スタサブ）
- 賞状の準備 進行表の準備 必要機材の準備・動作確認
- 生徒の発表順決定 生徒役割分担（司会、マイク、受付、生徒代表挨拶など）

#### 【実施当日】

- 機材の設置 掲示物 端末の動作確認
- 録画（3カ所 ステージ両脇、客席後方） 外部の誘導、お茶の準備

### ■令和6年度課題探究発表会 外部・教員向け事後アンケート

#### 1. 発表会の満足度について

- ア. 非常によかった 16名
- イ. よかった 2名
- ウ. 悪かった 0名
- エ. 非常に悪かった 0名

#### 2. 質問「1」の理由

- 高校生の考え方を知れた事と、凄く刺激を受けました。この取り組みは松浦を支える人材教育の一つになると思いました。
- フィールドワークの範囲や質が、私が勤務していたころよりもバージョンアップしていて、素晴らしい発表でした！
- 生徒様の熱心な取り組みを知ることが出来て良かったです。
  - ・全生徒がステージで発表したこと。
  - ・他校（長崎県立小浜高校）からの参加があったこと
  - ・地域の関係者の参加およびアドバイスがあったこと
- 一般に地域コミュニティが防災組織を作りますが、学校が市の防災組織となるユニークな例でした。地域科学科というスタンスができてきていると強く感じました。
- 生徒の発表も、やられている感じのない、生徒の興味・関心に沿った研究が行われていることが伝わってくる素敵な内容でした。

#### 3. 全体の運営について

- 会場から質問が出やすくなる工夫があるとより良くなると感じました。審査員に招待者のリストを渡しておく、指名しやすくなり、より会場全体で発表者を盛り上げる雰囲気をつくれるのではと思います。
- 配付資料に、生徒氏名・学科、発表内容のアブストラクトがあると、発表を聞きやすかったです。
- 終わった後にこのアンケートを行って、しっかり検証されているのが素晴らしいと思います。ありがとうございます！
- 3年生で進路確定している生徒も聴かせてはいかでしょうか。
- 質疑応答を引き出す工夫や司会からの働きかけが必要であったと感じた。

#### 4. 生徒の発表内容・研究のプロセス等について

- 発表については口を挟めないほど良かったと思います。発表内容にも内容の差が合って評価し易かったのかなと思います。
- 課題設定の前に地域ヒアリングや意見交換のような場があっても良いかと思いました。そうすることで、生徒さんがより広い選択肢から課題を設定でき、探究も深まるのではと思います。

#### 5. 「まつナビ」の取組をより良いものにするために

- 松浦や佐世保での発表ではもったいないぐらい、とてもクオリティの高い発表がたくさんあったので、県内を越えて、県外での発表もできるのではないかとおもいました。
- 松浦高校の先生方の熱心な取組に、頭が下がります。この取組が、各教科との往還につながり、先生方も生徒も授業への取組の変容（進化）に繋がれば良いなと思いました。また、校長先生のお話にもありました

が、コンテスト等への積極的な参加を期待します。教員が異動になっても、取り組みが継続され、またさらに改善される組織体制づくりが大事であると感じました。これまで、ご指導にあられた先生方、お疲れ様でした。

#### 6. アンケート結果より

- 引き続き、生徒の興味関心を大切にし、時間をかけてテーマ設定を行う。
- 結果だけではなく、プロセス（軌道修正や失敗から学んだこと）もまとめさせる。
- 質問者に対してしっかり回答できる練習も積む（想定される質問について事前に考える）。
- 初めて聞く参加者にわかりやすいアブストラクト（発表概要）を用意する。
- 中学生や進路が決定した3年生にも見せることを検討する。
- 司会者の役割について事前指導をしっかり行う。
- 活動の継続性について考える（後輩へのつなぎ）。
- プレゼンの知識・技能を高める取組が必要。
- 外部コンテストなどへの積極的な参加。
- 「まつナビ・プロジェクト」の地域内外へのアピール。
- キャリア形成につながる活動に。

#### ■生徒による課題探究発表会振り返り（ベネッセ/クラッシー「ポートフォリオ」）

**設問1** 本日の発表会について、会場の方からももらったアドバイスを入力しましょう  
災害という観点から何の災害を想定しているのかなど明確にする  
行動力がすごいから継続してほしい  
誰に引き継ぐのか、もし決まってない場合は1年生に声をかける

**設問2** 本日の発表会について、うまくいったことを入力しましょう  
原稿を見ずにすらすら言えたことがとてもよかったです。今まで一生懸命練習を重ねてきてよかったですと心から思いました。また、質疑応答もしっかり班の子が出来ていてとても勉強になりました。

**設問3** 本日の発表会についてうまくいかなかったことを入力しましょう  
防災ベンチに座ってもらうときに1人しか座ってもらえなかったので「複数人でもどうぞ！」と声をかけることで小浜高校の生徒さんや地域の方々に座っていただけました。

**設問4** 全体を通しての感想を入力しましょう  
一言でいうと心から悔しいです。今まで1位を目指して活動してきたので今は悔しいと思っていますが時間が経つにつれてとてもいい時間だったと感じています。防災ベンチが最初は完成すると正直思ってもいなかったです。また移動式の防災ベンチというのはインターネットで調べても出てこない状況だったので不安の方が大きかったですがたくさんご協力していただいたため、ここまで作ることができたと改めて思いました。また、自主防災組織を立ち上げられたことが何よりもうれしかったです。高知県の次に設立できたのではないかと思います。また、勉強会にも参加させていただくことで自分自身も防災に対する知識が向上しました。私はこの知識を松浦高校生に身につけてほしいと思いました。バロリ先生がおっしゃられたように、ここからが始まりなので、これからも頑張っていきたいです。

**設問5** あなたの班名とテーマを入力しましょう  
6班 あらゆる人のためのまちづくり（高校生自主防災組織）

#### ④長崎県次期総合計画策定意見交換会

○日時：令和7年3月5日（水） 14：00～15：40

○目的：現在の「長崎県総合計画 チェンジ&チャレンジ 2025」は令和7年度の終期を迎えることから、長崎県では令和8年度以降の本県の県政運営の方針や考え方を示した新たな総合計画の策定を進めている。この計画策定にあたり、次代を担う若者の視点における意識や意見を参考にするために、本校生と意見交換を行うことを目的とする。

○場所：松浦高校 図書館

○日程

<導入>

14:00～14:05 授業導入・挨拶

<総合計画説明>

14:05～14:20 県の現状、総合計画概要説明

<グループワーク>※ワークショップ形式

14:20～14:30 各班において県職員自己紹介  
ワーク①「長崎の強み・弱み」

14:30～14:40 ワーク②「長崎の将来像」

14:40～14:50 一休憩

15:00～15:10 ワーク③「長崎県の課題」

15:10～15:20 ワーク④将来像の実現に向けてできることを考える

<各班から発表>

15:20～15:40 各班より代表で1名発表（3分×6班）

15:40～ 講評



■ワークショップ



**長崎県次期  
総合計画策定  
意見交換会**

令和7年3月5日（水）14：00～  
場所：松浦高校 図書館

14:00～開会 & ご挨拶

14:05～ワークショップ  
長崎の強み・弱み、将来像など

将来像の実現に向けて  
15:10～意見発表 & 振り返り

長崎県 & 松高地域科学科2年生

(2) 主に主体性・自己認識を高める活動【実施計画Ⅰ】

①進路別探究活動

生徒一人ひとりのキャリア形成により直結した探究活動ができるように、令和4年度に引き続き、今年度2年生3学期から3年生にかけて年間計画に取り入れた。活動内容としては、医療職希望者と松浦中央病院等との連携や保育士志望者と幼稚園・保育園及び小学校との連携がある。また、「まつナビ」の継続活動も可とした。

■進路別探究活動

		大学志望	短大・専門学校志望	就職志望
2 年	1月	大学調べ	学校調べ	求人票の見方
	2月	インターンシップ準備		
	3月	長崎県次期総合計画意見交換会 インターンシップ		インターンシップ
3 年	4月	大学調べ	学校調べ	就職調べ
	5月	松浦中央病院との 連携／高大連携講座	松浦中央病院との 連携／高大連携講座	サイバーセキュリティ ボランティア準備
	6月			
	7月	三者面談 オープンキャンパス	三者面談 オープンキャンパス	三者面談 企業説明会・訪問
	8月	オープンキャンパス 乳幼児ふれあい体験（松浦市）		履歴書・面接練習
	9月	推薦/総合型選抜準備	推薦入試準備	就職試験
	10月	面接・小論文	推薦入試	長崎県警委託事業 サイバーセキュリティ ボランティア
	11月	推薦・総合型選抜入試	ふるさと恩返し探究	
	12月	合格発表		

②キャリアアップデー【令和7年2月14日（金）実施】

2年生のキャリア形成の一助となる取り組みとして、以下のとおり、企業訪問を行った。

	10:00～11:30【午前】	13:00～14:00【午後】
事業所名	ハウステンボス株式会社	双葉産業株式会社
訪問内容	販売・接客・ホテル等の見学・説明	工場見学・説明等
対象	地域科学科生徒3名及び商業科生徒25名、引率教員2名 計30名	
交通手段	バス1台	

## 1-5 3年生の活動実績

### (1) 主に主体性・自己認識を高める活動【実施計画I】

#### ①恩返し探究 むいぐるみ制作(10月9日～1月15日 全11回)

(目的)

- ・これまでお世話になった松浦市(ふるさと)に卒業前に何か恩返し活動ができないかを考え、それを実践する。
- ・本校ルーブリックによる評価の最終項目である、「ふるさと貢献力」を高める。

(内容)

#### ■10月9日 実施内容について協議・検討



#### ■10月16日/23日/11月6日 校内企画会議



#### ■10月30日 地域清掃(志佐川沿い)



#### ■11月13日～ エミネントスラックス工場見学&生地受け取り後に作業開始



■感謝の気持ちをこめて松浦市に贈呈（贈呈式）

## 「まつナビ」協力市に感謝

### 手作り縫いぐるみ、クッション贈る

松浦市志佐町の県立松浦高（舟越裕校長、180人）の3年生が、手作りの縫いぐるみとクッション計32個を市に贈った。生徒が地域

の課題解決に取り組む授業「まつナビ」に協力している市へ感謝の意を示そうと製作した。子育て支援施設や幼児健診の場で活用され

手づくりした縫いぐるみやクッションを手に笑顔を見せる松浦高の3年生ら  
—松浦市民福祉総合プラザ

松浦高3年生ふるさとに「恩返し」

エニネットスラックスの社員宅から縫製技術を学ぶ生徒  
昨年12月1日、県立松浦高

松浦高は市と協働して2017年度から「まつナビ」を開始。地域おこしや農業観光、交通などの分野で課題解決に取り組む、22年度に全国初の「地域科学科」が設置されるきっかけになった。

縫いぐるみとクッション

贈呈は、地域科学科の1期生を含む3年生40人が、「ふるさと恩返し」をテーマに、最後の探究活動の一環として昨年10月から今月にかけて取り組んだ。製作には志佐町のスラックス専門メーカー、エニネットスラックスが協力。材料に生地の切れ端を提供し、ミシンの使い方や手縫いの方法を社員が教室に向いて指導した。

贈呈式は15日に市内であり、生徒を代表して、いーさん（18）とさん（18）さんがあいさつ。全ての作品に綿の代わりに生地の切れ端を詰めたと説明し、見た目より重さのある仕上がりを「ふるさとに感謝する思いの強さ」と語った。

宮原宗尚副市長は「まつナビで学んだ3年間で糧に自分の夢を実現してもらいたい」とエールを送った。（則行優志）

■長崎新聞 令和7年1月21日

## ②地域ボランティア参加

- ・「松浦水軍まつり」／日時：10月26日(土)・27日(日)／場所：松浦市文化会館
- ・「松浦こども博」／日時：11月3日(土)・4日(日)／場所：松浦市文化会館
- ・「こども食堂」／日時：11月30日(土)／場所：志佐小学校



■こども食堂



■松浦水軍まつり

### 1-6 地域素材を活用した授業実践

「地域科学科」としての特色をより一層明確にし、地域課題探究学習と教科学習との関連を強めるための取組として、以下の内容で令和5年度から取り組み始めた。

#### (1) 目的

地域との連携による教育活動の充実を図り、生徒の地域に対する理解を促し、地域への愛着を増進するため、各教科（国語、地歴公民、数学、理科、英語、保健体育、商業）において、地域を素材とした授業開発を進める。

#### (2) 計画

- ・年度当初は各教科で開発する授業概要（単元、時期など）について検討する。
- ・授業構想に目処がついた段階から、長崎大学教育学部の各専門領域の先生方に助言をいただく。
- ・文部科学省の研究指定を受けている令和5、6年度の2年間、授業開発を進める。
- ・令和7年度から、学校設定科目（1年生1単位）とする。

(3) 令和6年度の実施内容

教科	授業内容	授業の目的	まつナビとの関連	学年	実施	長崎大学・外部組織等からの支援
国語	○「言語文化」で実施 ○松浦市と他地域の民話を比較し、それらの起源についての学習を通して、民話の存在意義について考える。	松浦に多くの民話が残されていることを知り、地域への興味関心を高める。	探究テーマ	1年	12月19日 1コマ	教育学部 吉良史明 准教授
地歴公民	○「まつナビ」の時間で実施 ○志佐中学校3年生と合同で「ふるさと」を教材としたワークショップを実施。生徒は事前に「マンダラチャート」で松浦の強みと課題を考える。	「まつナビ・プロジェクト」と教科横断的な授業を展開することで、ふるさとと貢献力の醸成を図る。	探究スキル	2年	12月11日 2コマ	多文化社会学部 アレーナ・イナキナイ助教
数学	○「数学Ⅰ」で実施 ○2022年1月30日実施の松浦市議会議員選挙のデータを用いて、何票得れば確実に当選できるかを考える。	1年生で学んだ数学の知識を使って、地域素材を活用した内容に取り組む姿勢を育む。	探究スキル	1年	12月13日 1コマ	教育学部 前原由喜夫 准教授
理科	○「科学と人間生活」 ○松浦高校周辺の地形を学ぶ。	学校周辺の地形を学び、地形の形成要因を科学的に分析する。	探究テーマ・スキル	1年	3月 実施	教育学部 林幹大助教
英語	○「英語コミュニケーションⅠ」で実施 ○姉妹都市理解 マッカイ市と松浦の姉妹都市締結についての英文を読み、理解を深める。	マッカイ市、松浦市間の姉妹都市協定への理解を通し、国際交流への理解及び興味関心を高める。	探究テーマ・スキル	1年	12月23日 3コマ	教育学部 中村典生教授
保健体育	○「保健」で実施 ○松浦市志佐町浦免・里免の白地図を活用して学校周辺の地形について理解を深め、オリジナルハザードマップを作成し、防災意識を高める。	課題発見力、プレゼンテーション力の育成を図る	探究テーマ・スキル	1年	12月10日 1コマ	教育学部 峰松和夫教授
商業	○「ビジネス基礎」で実施 ○商品開発をした「まつポーロ」のPOP広告作成を行う。	商品が売れる（販売につながる）仕組みを考える。	探究スキル	1年	12月11日 1コマ	経済学部 津留崎和義 准教授 百枝製菓舗による 商品提供



■ 地域素材を活用した地歴・公民の授業



■ 地域素材を活用した数学の授業



■地域素材を活用した英語の授業



■地域素材を活用した英語の授業

## 1-7 自己評価

### (1) ルーブリックによる生徒自己評価

令和4年度に本校活性化ミーティング等で作成した、ルーブリック評価については、育成を図る資質能力等として、①情報理解・収集力、②プレゼンテーション力、③テーマ設定／課題発見力、④コミュニケーション力、⑤論理的思考力、⑥キャリア形成力、⑦ふるさと貢献力の7観点から生徒の自己評価を行った。

また、今年度は運営指導委員会で提案のあった、7観点とは別に、生徒自らが目標を定め、その自己評価も行った。(次のページに一例を示す。)

### (2) 教員による進捗状況チェックシートの活用

今年度は新たな取組として、生徒だけでなく、教員もファシリテーター等としてのチェックを発表会前後に行った。(次々ページに一例を示す。)

#### 【成果】

- ・2年生では活動後に生徒が自己評価を行うことが習慣となった。
- ・毎回SS～Cの評価を行うと同時に感想等を記入できた。
- ・各段階の違いについては下線をつけることで、段階の違いが明確になった。
- ・発表会前には準備された7観点とは別に、生徒がそれぞれで目標を定めて、その評価も行った。

#### 【課題／次年度に向けて】

- ・1年生にとってのルーブリックについて、これから検討していく。
- ・教員のチェックシートについては、1年間の活動においてオールマイティなチェック内容ではないので、修正・改善する必要がある。

\*今年度の検証については、第4章で説明する。

■生徒によるルーブリック自己評価の例

■ルーブリックによる評価…中間発表会までの「現在地」を自己評価しましょう。

評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力等		主体的に学習に取り組む態度		仕事遂行完成までにあなたが身に付けたい力を、自分(個別)で設定してみよう。 (例)質問にしっかりと答えるかなど	
	情報理解・収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力 課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力	キャリア形成力		ふるさと貢献力
育成を図る 養育能力等	①入手した情報や知識・技能についてまとめることができてきているか。	②パワーポイントやポスターに工夫が昇られ、発表姿勢(原稿なしの発表)や時間は適切か	③課題研究活動を「自分ごと」として捉えたテーマ設定ができてきているか。	④地域や班活動で協働する力がついているか	⑤今後の展望(提言・実践)が明確か	⑥課題研究活動と自分の進路がつながっており、その実現に向けて行動できているか。	⑦課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとする態度が醸成されているか。	
段階(基準)								
C	先行事例研究やフィードバック等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができていない。	パワーポイントやポスター等を使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができていない。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマを設定できていない。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できていない。	課題研究活動の成果と課題を示すことができていない。	自分の将来について考えることができていない。	ふるさとに貢献しようしていない。	
B	先行事例研究やフィードバック等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができている。	パワーポイントやポスター等を使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができてきている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマを設定しようとしている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解しようとしている。	課題研究活動の成果と課題を示すことができている。	自分の将来を考えようとしている。	課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとしている。	
A (ぶつう)	先行事例研究やフィードバック等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができている。	パワーポイントやポスター等を使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができてきている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた課題研究テーマが設定できている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を示すことができている。	自分の将来について考えることができている。	課題研究活動が、ふるさとの貢献しようとする態度につながっている。	
S	これまでの知識と先行事例研究やフィードバック等を通して得た新たな情報や知識についてまとめ、比較・分類ができている。	パワーポイントやポスター等を使って確信的な工夫を加えることができ、時間内にかつ原稿をあまり見ずに発表ができてきている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を示すことができている。	具体的な進路について深く考え、キャリア形成(進路実現)と結びつけた課題研究活動の計画を立てている。	課題研究活動とふるさとの貢献しようとする態度が発表会を通して地域に説明できている。それが実践活動まで結びついている。	
SS	これまでの知識と先行事例研究やフィードバック等を通して得た情報や知識をまとめ、比較・分類した上で要・不要の取捨選択ができている。	パワーポイントやポスター等を使って確信的な工夫を加えることができ、時間内にかつ原稿に目を遣わずに聞き手を見ながら発表ができてきている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の内容を整理・分析し、成果と課題を適すじを立てた将来の展望を表現できている。	具体的な進路について深く考え、キャリア形成(進路実現)に向けて計画を立て、その実現に向けて課題研究活動ができている。	課題研究活動とふるさとの貢献しようとする態度が発表会を通して地域に説明できている。何度も実践活動にチャレンジできている。	
自己評価	B	A	A	A	A	B	A	
感想	少し資料に不足があったので、中間発表会までにはしっかり準備する。							S
自己評価	A	S	A	A	S	B	A	
感想	発表会後の参加者のメッセージカードに良い感想が多くて嬉しかった。資料がしっかりまとめられて良かった。							A



## 1-8 松浦高校における事業の管理

地域科学科における、「資質・能力」の育成を目指した各教育活動の充実及び各教育活動の関連性の強化を図るため、PDCAサイクルに基づく組織マネジメントを以下の体制で推進した。

### ○地域科学科・プロジェクトチーム

校長、教頭、プロジェクトリーダー、コーディネーター等

### ○活性化ミーティング

プロジェクトリーダー（主・副）、コーディネーター、進路指導主事、商業科主任、各学年の担当者等

### (1) プロジェクトチームによる活性化ミーティング

#### 【成果】

- ①各教育活動の関連性を強め、「資質・能力」を育成する活動としていくための企画・調整（カリキュラム・マネジメント）の推進を図った。
- ②具体的な活動内容や目的の共通理解とマインドセットを行うために、毎週木曜日に活性化ミーティングのメンバーに管理職を加えた意見交換等を実施し、まっナビ・プロジェクト活動の充実を図った。
- ③学びアドバイザー（長崎大学 藤井佑介准教授）に、主にオンラインにて活性化ミーティング入ってもらい、活動について具体的なアドバイスをもらった。
- ④探究コーディネーターが現在の活動についての課題を提示し、それについて具体的に協議するような体制が構築できた。

#### 【課題】

- ①各教育活動の目標をプロジェクトメンバーで共有し、それを各学年担当者から学年に伝えていく体制を整えることで、さらに教育活動を推進していく。
- ②協議が事務的な内容だけで終わることも多い。困り感等の共有とその検討が必要。
- ③教員間のファシリテート能力の格差がまだ存在する。

#### 【次年度への反映】

- ①活性化ミーティングにおける、普通科改革に係る各事業や実践について、それぞれの区切りごとに検証を行い、改善案を考える。
- ②運営指導委員会・コンソーシアム会議における委員の意見等を踏まえ、各教育活動の改善案を検討する。
- ③全職員が参加する職員会議等の中で、活性化ミーティングの内容を全教員にフィードバックし、活動の目的の目線合わせを行う（情報・スキル格差を小さくする）。

### 1-9 3年間の総括【実施計画I】

育成を目指す「資質・能力」に基づき、教科等を横断する学びを含む、生徒の自己有能感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発について、以下のとおり整理した。

計画I	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標	各教育活動ルーブリック評価規 準作成・実践・改善	キャリアプランの作成状況を踏ま えたルーブリック評価基準の検 証・改善・各教育活動への反映	地域科学科1回生のキャリアプ ラン実現に向けたプロセスの検 証等による総括、次年度以降の 計画策定
事業 内容	○グループごとに課題設定を行 い、課題研究構想発表会にお いて発表した ○ルーブリックを作成し、各教 育活動の振り返りの際に自己 評価を行った ○「松高ポートフォリオ」を用 いて、各教育活動の振り返り を行った	○自分たちの興味・関心に基づ き課題を設定し、その解決策を 発表した ○ルーブリックに基づいて、各活 動の振り返りの際に自己評価を 行った ○「松高ポートフォリオ」に、各 活動の振り返りを記入した	○自分たちの興味・関心に基づ き課題を設定し、その解決策 を発表した ○ルーブリックに基づいて、各 活動の振り返りの際に自己評 価を行った ○「松高ポートフォリオ」に、 各活動の振り返りを記入した
成果	○ルーブリック、「松高ポートフ ォリオ」を用いた評価により 各教育活動の振り返りを行う ことで、自らの学びの内容や 深まりについての検証・改善 ができた	○各プロジェクトの進捗状況を確 認しながら、ルーブリックによ る自己評価を行うことができた ○大学との協働により、身に付 けさせたい資質・能力ごとにルー ブリックを再構成することがで きた	○テーマ設定後の班編成の際 に、担当教員と生徒がこれか らの探究活動についてミスマ ッチがないか面談を行った ○身に付けさせたい7つの力を ルーブリックにまとめている が、今年は生徒個人の目標を つくる取組を行った
課題	●生徒にとってわかりやすく、 他者からの評価も取り入れや すいルーブリックへの改善を 図る ●生徒が設定するテーマが、過 去の実践テーマに引きずられ る傾向が強い	●各プロジェクトに対する教員 (ファシリテーター)による支 援の在り方についての共通理解 が不十分であるそのため、生徒 に自らの成長等を実感させるこ とが十分にできなかった	●探究活動の短期・中長期的な 目標をしっかりと提示した教 員間の共通理解が不十分であ る ●問題解決に必要なデータの収 集・活用・分析力の育成が不 十分である ●キャリア形成につながるよう な探究テーマに導くことが不 十分である
<p>【計画Iの3年間の総括】○成果、●課題</p> <p>○ルーブリックによる自己評価について、従来の7つの項目だけでなく、新たに生徒自らが8つ目の目標を自分ごととして立てる試みは良かった。</p> <p>○1年生による個人構想発表会の後、同じようなテーマの生徒で班編成を進めたが、令和4年から継続的に担当教諭と個人面談ができたことはとてもよかった。</p> <p>●探究活動全般において、何のために、どういった目標をもって取り組めばよいかをより明確にし、生徒及び教員、地域が共通理解しておく必要があった。</p> <p>●教員が担当する班に対するファシリテートの進捗状況を確認するためのシートを作成した。次年度以降、今年度のシートの分析を通して、より生徒への支援が円滑に行えるように準備する必要がある。</p> <p>●まっナビ・プロジェクトの活動だけでなく、教育活動全般において、文字で整理させる必要があった。(振り返りの記録をしっかりとキャリア形成につなげるしくみ作り)</p>			

## 2 実施計画Ⅱ

### 2-1 活動目標

中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献

### 2-2 実施計画

地域及び学校活性化を図る教育活動等への支援体制（コンソーシアム等）の構築・充実

### 2-3 運営指導委員会

#### (1) 運営指導委員会の体制

#### (2) 運営指導委員会の取組

所属	氏名	主な実績
無	佐々木 龍二	前長崎大学サテライトオフィス松浦コーディネーター、元松浦市立中学校長
長崎県立大学	本田 道明	学長補佐
鎮西学院大学	加藤 久雄	総合社会学部 多文化コミュニケーション学科 教授
西海みずき信用組合	前田 幸輔	地域振興室長（前日本政策投資銀行）
自営業	川浪 剛人	前まつうら創生推進室長
県企画部政策企画課	小柳 正典	企画監

①第1回：令和6年5月24日(金) 10:00～12:00 松浦高校会議室

〈委員からの主な意見〉

- ・本事業終了後は、学校運営協議会制度の導入を考えてみてはどうか。ある市内小学校はコミュニティ・スクールとなっているが、中学校にもあれば良いと思っている。
- ・中学校にもコミュニティ・スクールがあると良い。高校とのタテの連携が充実する。松浦版コミュニティ・スクールを考えてみてはどうか。
- ・ループリック評価については、中学校と共同研究してみては。
- ・生徒が進学・就職先でどのように「まつナビ・プロジェクト」の活動を活かしているのか、追跡調査をしてみても。
- ・就職については、県内就職率は上がっても、就職数は減少していることが課題。中興化成工業の奨学金のように、県もいろいろな制度に取り組んでいる。
- ・キャリア形成につながるテーマ設定をしてほしい。「まつナビ・プロジェクト」の活動が、生産性のない活動ではいけない。

②第2回：令和7年2月10日(月) 10:00～12:00 松浦高校会議室

〈委員からの主な意見〉

- ・他校との交流について、交流なくして発展なしと思っている。個人的には、生徒一人ひとりの交流が重要。

- ・松浦に関係のある企業等に市などから紹介をしてもらって行くことも、キャリアを感じることができていいと思う。
- ・市文化会館での発表会はとても良かった。生徒も生き生きと発表していた。論理的思考力が伸びていないのは課題。思考というのは言葉で思考するので、言語能力が重要だと考える。書くことを踏まえ考えること。読書を踏まえた言語活動が重要ではないかと思う。
- ・3つのワーク、「ネットワーク」、「チームワーク」、「フットワーク」については、まっナビでやっていると思うが、これに加えて、「デジタルワーク」、「デスクワーク」も重要であると考え。
- ・外部からの意見を取り入れながら、生徒の学びの幅も広がったと思う。しっかりブランドとして、地域に強い、進学に強いということを見せられたら。予算についても連携をしっかりと作り、コミュニティ・スクールを活用してもらうことが重要であると考え。

#### 【次年度への反映】

- ・コミュニティ・スクールの企画・運営について令和7年度初めまでに検討しておく。
- ・デジタルワークについては、生徒・教員向け研修会を実施する。
- ・生徒の活動費を確保する。
- ・論理的思考力を高めるために、教科指導も含め多角的な学びの計画を立てる。

## 2-4 コンソーシアム会議

### (1) コンソーシアム会議の体制

所属	氏名	主な実績
松浦市	友田 吉泰	市長
松浦市議会	宮本 啓史	議長
松浦市教育委員会	黒川 政信	教育長
松浦市小中学校校長会	福永 真	副会長（御厨中学校長）
松浦市商工会議所	稲沢 文員	会頭（稲沢鐵工代表取締役）
松浦高等学校PTA	吉岡 健次	会長
松浦高等学校同窓会	藤田 英敏	会長
長崎大学教育学部	藤本 登	学部長
長崎県立大学地域創造学部	バロリ・ブレンディ	講師
株式会社エミネントスラックス	鴨川 秀人	課長
松尾農園	松尾 秀平	代表
長崎県教育庁高校教育課	田川耕太郎	課長

## (2) コンソーシアムの取組

### ①第1回：令和6年5月24日（金）14:30～16:30 松浦高校会議室

#### 〈構成員からの主な意見〉

- ・地域貢献には「ふるさとの歴史」を理解することが必要不可欠であるが、アンケート項目にそれを問う内容がない。
- ・郷土愛をもってもらう教育が高校でも必要。地域の祭りやイベントへの参加がふるさと愛につながるのではないか。
- ・志佐の精霊船などにおいても人手が足りなくなっている。しかし、生徒も単純な人手扱いでは面白くないだろう。ちゃんと生徒が楽しめる参加のさせかたを考えなければならない。
- ・松浦はアジフライの聖地、例えば「松浦高校の生徒は全員アジを捌くことができる！」など特色を作るなどできないか。
- ・課題を見つけることが非常に大切。2年間の中で進めていくのは生徒にとっては長いのではないか？2～3のプロジェクトを生徒に取り組ませるなど、小さな成功体験を何度も体験させる方向性で進めてはどうか。
- ・生徒の精神的な面が教育されていない。（離職率が高いことから）成功体験をさせて、自信をつけさせる教育が必要では。
- ・大学進学者数を増やしてほしい。
- ・「恩返し探究」については、市や企業側からお題を出してもらって生徒が取り組むという形もアリなのでは。
- ・プロジェクトを成功させるマニュアルを生徒たちに作らせる。振り返りにも活用できる。創業させるのも力になる。（ビジネスコンテストなどへの参加など）

### ②第2回：令和6年2月10日（月）14:30～16:00 松浦高校会議室

#### 〈構成員からの主な意見〉

- ・高校でまつナビをしているのは特徴的だ。まつナビは教育課程の一部であり、多くは授業。その授業の中で、授業そのものを改革する必要がある。
- ・人間の考える力、ミックスしてできる力、それがまつナビでAIを活用できる人間をつくる。
- ・教師が良かれと思ってやっていたことが子どもの可能性を潰しているかも。企業や大人の役割として応援はするべきだと思うが、過保護になりすぎないことも重要であると感じる。
- ・地域への愛着だけではだめ。地域に対して何ができるかが大切。大学生との交流の場を増やしてほしい。
- ・もっと松浦高校の取り組みを中学生に知ってもらうことが必要。
- ・事業所に対してお願いするだけではなく、事業所に対してのメリットが提案できれば事業所も協力しやすい。

【次年度への反映】

- ・授業とまつナビ、学校設定科目「松浦学」の教科横断的な繋がりを強めていく。
- ・本校の取組について、中学校に知ってもらうために、発表会等に招待する計画を年度当初に立てる（年度途中であれば、中学校側の行事がすでに決まってしまう。）
- ・教員のファシリテート力を上げるために、外部研修会や地域版未来会議に積極的に参加する。

2-5 学校外の組織等との協働

■生徒の外部コンテスト・地域イベントへの参加一覧

	外部コンテスト・地域イベント	主催・外部機関
8月	①「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」アントレプレナーシップゼミ発表会	①長崎県教育委員会
10月	②松浦市水軍祭り（3年生有志がボランティア参加） ③松浦地域版未来会議（全学年有志が市民との意見交換会に参加）	②松浦市 ③松浦市
11月	④松浦こども博（3年生有志がボランティア参加）	④松浦商工会議所青年部
12月	⑤「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」アントレプレナーシップゼミ ⑥松浦市ビジネスコンテスト（アジのうろこからコラーゲンを抽出して、ハンドクリームを作成することを研究した班が最優秀賞に選ばれる。） ⑦SDGs QUEST みらい甲子園 ⑧全国防災ジュニアリーダー会議（全国から約100名の高校生・教員が参加） ⑨「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」アントレプレナーシップゼミ発表会	⑤長崎県教育委員会 ⑥松浦市 ⑦SDGs QUEST みらい甲子園実行委員会 ⑧諫早青少年自然の家 ⑨長崎県教育委員会
1月	⑩立命館宇治高校探究会（代表生徒2名がポスターセッションを行う。） ⑪マイプロジェクトアワード長崎サミット	⑩立命館宇治高校 ⑪認定NPO法人カタリバ
2月	⑫唐津市の無印良品前で「高校生自主防災組織」を立ち上げた班がイベント参加 ⑬ミライ企業Nagasaki推進事業	⑫無印良品唐津店 ⑬長崎県
3月	⑭SDGs QUEST みらい甲子園（「高校生自主防災組織」を立ち上げた班が、3月末の九州北部エリア大会に向けて準備を行っている）	⑭SDGs QUEST みらい甲子園北部エリア大会実行委員会



■松浦地域版未来会議③



■立命館宇治高校探究会⑩



■唐津市でのイベント⑫

## 2-6 まつナビ支援金制度

学校外組織や校外活動を中心に、生徒のまつナビ活動を経済的に支援することを目的として、松浦市より以下の条件等で上限額3万円程度の班活動費の申請ができる制度である。なお、生徒は次のページに示す「申請書」を作成し、担当教員のチェックを受けた後に、校長及び松浦市長へ提出して選考、支給される。なお、今年度から、「申請書」だけでなく、「報告書」も提出するようにした。

### ①支給対象

松浦高等学校の「まつナビ」の中で、地域課題解決や地域活性化のためのプロジェクトに取り組んでいるグループもしくは個人

### ②支給条件

申請書を提出の上、生徒による提案が、松浦市長及び松浦高等学校長から認められた場合に支給する。なお、申請にあたっては、必ず担当教員と相談の上、提出する。

### ③支給額

1つのプロジェクトへの支給上限額：原則30,000円程度（予算上限1会計年度30万円）。ただし、申請するプロジェクトの内容から上記金額を超える場合で、松浦市長及び松浦高等学校長が特に認める場合は50,000円を限度とする。

### ④支給方法

担当教員が、物品購入伺いを提出することで支給。

### ⑤申請方法

申請用紙に必要事項を記入し、担当教員の承認後、まつナビ担当に提出する。

### ⑥申請日

随時申請を受け付ける。申請が出てきたものを、月に1度程度のペースで松浦市及び松浦高等学校にて審査を行い、承認を受けた団体へ随時支給する。

### ⑦申請内容

- ・プロジェクトの概要及び目標
- ・申請の目的
- ・支給金の使途
- ・申請金額と内訳

### ⑧選考

申請のあったプロジェクトの中から、以下の条件を考慮して支給限度額内で選考する。

- ・地域課題解決や地域活性化のためのプロジェクトであること
- ・計画の緻密性
- ・予算支給の必要性

### ⑨結果通知

プロジェクト担当者より、担当教員へ文書にて通知する。

■今年度の実践例

令和6年度 まつナビ支援金 申請書

令和6年5月15日

松浦市長 友田 吉泰 様  
松浦高等学校長 舟越 裕 様

申請者名 Y.M  
担当教員 U.S 印

下記のプロジェクトについて、「まつナビ支援金」を申請します。

記

申請グループ名	令和6年度まつナビ4班
解決したい課題等	松浦の水産業から廃棄を減らしたい。
プロジェクトメンバー名	(年・組・番号・名前) 2年1組 番 Y. M 2年1組 番 Y. Y 2年2組 番 T. K
プロジェクトの目的	アジの捨てられるウロコを少しでも減らす。その学びの中で、食料についての知識、特にフードロスについて考える機会とする。
プロジェクトの内容・計画	アジのうろこからコラーゲンを抽出し、そのコラーゲンを保湿剤に活用した製品を作り、アジフライの聖地である松浦市で大量放棄されるうろこを再利用する研究を行う。
現在の進捗状況	うろこを使ってコラーゲン抽出の実験を進めている段階 最終的には保湿クリームの生産・販売まで行う。
申請金額	10,525円 (内訳生徒7,200円、引率3,325円)
支援金を必要とする理由	長崎大学の専門家に指導・助言してもらうため、長崎大学を訪問する。 (オンライン会議では伝わらない実験などを実際に見せてもらう)
支援金の用途(具体的に)	佐世保～長崎大学までの交通費
プロジェクトの協力者・協力団体	長崎大学 水産学部准教授 今後、商品化してくれる事業所を探す。

■今年度の実践例

令和6年度 まつナビ支援金 報告書

令和 6年 7月 26日

松浦市長 友田 吉泰 様  
松浦高等学校長 舟越 裕 様

申請者名           K. J            
担当教員           T. K           印

下記のプロジェクトについて、「まつナビ支援金」の実績について報告します。

記

申請グループ名	1年1組1班				
解決したい課題等	仕事図鑑を作成する				
プロジェクトメンバー名	(年・組・番号・名前) 1年1組 O.M K.R K.J Y.A 計4名				
申請額	2, 240円				
実績額	2, 240円 (戻入額 0円)				
実績内訳	用途	支出先	数量	単価	計
	交通費	松浦鉄道	4	560	2, 240
	合計金額 ( 2, 240 )円				
支援金を利用してよかったこと	取材する中で、仕事に対する思いや熱意が伝わった。患者さんのことを考えて、建物から設計しているので、通いやすい歯科だと思った。今後、インタビューをまとめて、いい仕事図鑑を作成したい。				
支援金利用後も残った課題（なければ「なし」と記入すること）	特になし				
課題をどのように克服していくか（課題がある場合）	特になし				

\*領収証は、A4の白い紙に添付して本報告書とともに提出すること。

### 【成果】

- ①班別活動を行っている2年生については、各班に長崎県立大学生に1～2名、伴走者としてついてもらい、オンライン等で定期的に進捗状況を報告しながら、効果的なフィールドワークや発表会に向けての最終的な取り組みなど、ステップアップ（主に活動の方向性）へのアドバイスをもらった。
- ②生徒が外部のさまざまな研修会や探究会に参加した。
- ③申請書だけでなく、報告書も作成することができた。

### 【課題】

- ①外部コンテストの参加は増えたが、福井県立若狭高校「若狭宇宙鯖缶」の研究や宮崎県立飯野高校「えびのスプラッシュフェス」のような生徒主体の地域イベントの開催など、「これぞ松高」というような継続的な活動がまだ生まれてきていない。
- ②校外活動に参加・チャレンジするために、令和7年度以降の生徒の活動費の確保。

### 【次年度への反映】

- ①医療機関や保育園等、生徒一人ひとりのキャリア形成を支援するために連携先の「開拓」を進める。
- ②生徒のキャリア形成力を高めるために、地域との連携の目的を明確にしながら、年間計画作成に取り組む。
- ③生徒が外部コンテスト等に自主的・積極的に応募して、評価を得られるように、研究テーマに応じたコンテストを年度当初に紹介する。

## 2-7 コーディネーターの活動とその成果と課題

令和6年度は2名のコーディネーターの配置を行った。配置した人材の役割や業務内容は以下の通りである。

- ・大内康仁氏（元市内中学校校長）：主に中高連携中心
- ・馬庭亜由氏（近隣市役所に企業から派遣）：主に大学連携

### 1. 市内小中学校との連携

#### （1）中高連携授業や学校説明会の実施

##### 【成果】

- ①市内の小・中学校校長研修会と連携を図り、各校での生徒及び保護者向け学校説明会を実施するとともに、各中学校の進路指導担当者や担任との意見交換を行った。
- ②松浦市内だけに限らず、市外の中学校も訪問し、昨年よりも早い段階から生徒募集に係る学校説明会を実施した。
- ③株式会社ハッシュダイの協力（伴走）の下で、中高合同の講演会・研修会の企画を立てることができ、中高生の企画・運営チームでその内容を検討することができた。
- ④今年度より新規に探究活動全般を担うコーディネーターが入ったことで、生徒と地元

事業所について具体的かつ継続的な繋ぎを行うことができた。

- ⑤毎週水曜日の生徒の探究活動の事前、事後について、教員は積極的にコーディネーターに活動の助言を仰いだり、生徒支援の具体的な方法などを質問したりするなど、年間を通して有効活用できた。

**【課題】**

- ①中学校教員とのより密な情報交換を行うこと。
- ②中学生の保護者に対する地域科学科の魅力を浸透させること。
- ③地域や外部機関とのつなぎだけでなく、探究活動に不安や停滞のみられる教員と生徒間をつなぐ必要がある。

**【次年度への反映】**

- ①教科指導に関する中高が連携した研修会および公開授業の実施。
- ②小・中学校教員および保護者向けの説明会の効果的な開催。
- ③定期的なコーディネーターと生徒、教員といった三者意見交換会の実施。

(2) 課題探究構想・中間・最終発表会の参観

**【成果】**

- ①2年生による課題研究発表会を、地域科学科1年生全員が参観した。また、市長、市教育長、市議会議員および市役所職員、本事業管理機関、他校生徒等が参観した。
- ②校内における各種発表会に保護者や地域住民、大学生等を招いて継続的な指導・助言を受けられる体制を構築できた。

**【課題】**

- ①地域の方々や保護者参加がまだ少ない。
- ②最終発表会で高校3年間の探究活動が終了と考えている生徒・教員が多い。生徒の「進路実現」が最終目標であることのマインドセットが必要。

**【次年度への反映】**

- ①課題探究発表会を広く地域に公開する。
- ②発表会などの後日配信について案内を増やし、地域の認知度を高める。
- ③課題探究活動について中学生と意見交換できる場を設定する。
- ④市内中学生が参観できる環境づくり（日時などを年度当初に中学校側に伝える）。

(3) コーディネーター（大内氏）による市内小中学校との連携における成果検証・評価

- ①中高連携授業や学校説明会の実施

**【成果】**

- ・市内の小・中学校校長研修会、教頭研修会と連携を図り、各校での生徒及び保護者向けの学校説明会を実施するとともに、各中学校の進路指導担当者や3年担任との意見交換を行った。
- ・松浦市に隣接する県外、市外の中学校を訪問し、学校の情報提供を行った。

- ・市内全中学校に中高合同で「HASSYADAI 講演会」と高校生をファシリテーターとするワークショップを実施した。
- ・高校の物理の授業を中学校で実施した。

**【課題】**

- ・中学校教員とのより密な情報交換を行うこと。
- ・中学生の保護者に地域科学科の魅力を浸透させること。
- ・市外の中学校における学校説明会の実施を増やすこと。

**【次年度への反映】**

- ・中学生及び保護者向けの学校説明会の早期開催と内容の充実。
- ・市外の中学校との連携を深化し、魅力を伝える機会をつくる。

②課題研究発表会の参観

**【成果】**

- ・2年生の課題研究発表会を地域科学科1年生が参観した。
- ・校内の中間発表会、本発表会に地域住民や大学生を招く体制ができた。

**【次年度への反映】**

- ・課題研究発表会に隣接する中学校生徒の参観を依頼する。
- ・課題研究発表会を幅広く地域住民に公開する。

(4) 地域との連携における成果検証、評価

①松浦商工会議所青年部（松浦 YEG）との連携

**【成果】**

- ・松浦 YEG の定例会にて、「まつナビ・プロジェクト」について説明会を行い、「まつうら高校応援団」の参加依頼を行うことができた。
- ・松浦 YEG が主催する「松浦こども博」に3年生が「ふるさと恩返し探究」として参加をした。
- ・2年生の班別探究活動において、松浦 YEG の会員である不動産事業者と建設事業者の協力のもと、「防災ベンチ」の制作を行った。

**【課題】**

- ・身近な地域の大人でもある松浦 YEG の取り組みについて生徒が知る機会が少なかった。

**【次年度への反映】**

- ・継続的な活動にするために、松浦 YEG とのコミュニケーションを定期的に行うことを検討する。

②「まつうら高校応援団」の活動に向けた協力依頼

【成果】

- ・生徒が自ら地域の課題を発見・解決していく地域課題解決型探究学習「まつナビ」にかかる課題解決過程に、地域の方から直接助言を得られるようになった。
- ・「松浦再発見研修会」「まつうら未来講演会」「仕事図鑑づくり」「インターンシップ」等に幅広く協力をいただいている。

【課題】

- ・生徒に育みたい資質・能力の育成といった教育の目標や地元の魅力等が浸透する機会を増やしたい。

【次年度への反映】

- ・「まつナビ」を充実し、課題探究過程において、まつうら高校応援団の支援をいただきたい。
- ・「まつナビ」にかかる生徒の活動の様子を知っていただく機会を増やす。そのために、活動計画の案内を確実にする。

(5) 探究活動を担当するコーディネーター（馬庭氏）の活動実績

実施項目	内容
授業内での生徒への壁打ち	「まつナビ」の時間における、生徒への助言。アイデアの引き出しや論理展開の修正、取り組みに対する相談。
生徒が企画したイベント実施に向けた伴走	「まつナビ」の中で生徒が企画・参加するイベントや交流会などの調整、生徒への助言。（スイーツカフェや東京大学との交流会など）
生徒が企画したイベント当日のサポート	上記のイベントの当日の運営の補助や、生徒への助言、ファシリテーションなど。
先生方との調整	「まつナビ」の全体のカリキュラムに対する助言やサポート、各チームの生徒や動きに関する情報共有。
外部連携における交渉・相談窓口	松浦市内外の連携先との調整など。主に、メールやオンラインによる調整や、事業者への訪問など。
外部連携にかかるイベントサポート	プレまつナビや恩返し探求、その他の学校全体での連携事業における、企画や調整、当日の運営サポートなど
慶應SFCとの連携事業にかかる調整	来年度に向けたSFCとの連携事業や修学旅行における企画や調整。
松浦市との調整	月例会の実施及び会の運営、その他企画における調整。
まつラボのサポート	外部との連携や企画、調整、運営のサポート。
外部コンテスト出場に向けたサポート	コンテスト出場に向けた書類やプレゼンのブラッシュアップ。

【成果】

- ・昨年度に比べて多くの外部コンテストや発表会等に参加を行った。
- ・松浦市との月例会の定例化により、本校と松浦市との連携や協働が充実した。
- ・長崎県立大学の学生によるオンラインでの伴走を複数回行うことで、生徒の探究学習における思考の整理を行うことができた。

### 【課題】

- ・教科横断的な学習、生徒の探究を通じたキャリア実現に向けた教員間の連携を促すことができなかった。
- ・プレゼンテーションの方法やワークシートの見直しなど、生徒に対するスキルアップ講座の不足。
- ・班別探究活動をしている各班に対して、均等した壁打ちの実施ができなかった。(時間、機会など)

### 【次年度への反映】

- ・教員間で探究について話し合える環境作りを行う。
- ・年間スケジュールの見直しを行い、探究活動に必要なスキルを身につけられる講座の組み込みや、それを補うコンテンツの検討を行う。
- ・班別探究活動における担当教員が担当班に対して、壁打ちを行えるように、教員向けの講座・研修の機会を設けることを検討する。

## 2-8 新学科設置の関係者への説明及び成果普及のための活動実績

### (1) 生徒・保護者対象

#### 【成果】

- ①近隣の中学校だけでなく、市外や隣県の伊万里市を対象とした学校説明会を実施し、地域科学科の学びの特徴に関する説明及び質疑応答をとおした疑問解消の取組。
- ②オープンスクールにおける生徒による「まつナビ・プロジェクト」の実践発表及び地域科学科の特色の説明。
- ③ホームページやSNS等による地域科学科の活動に関する情報発信。
- ④コーディネーターと中学校との連携を密にした情報交換。

#### 【課題】

- ①地域科学科の理解を深めるために中高の教員間の情報共有の機会が足りない。
- ②地域科学科に対する中学生の理解を深めるために、中学生と高校生の合同授業や探究活動のコラボレーションの機会がまだ不足している。

#### 【次年度への反映】

- ①地域科学科における学びの魅力とこれまでの成果について、具体的に中学生や保護者にもわかりやすく具体的に継続的に説明していく。
- ②松浦市の協力の下、市内中学生に意識調査等を実施し、本校が「選ばれる学校」になるための継続的な分析等を行っていく。
- ③中学生に2年生の最終発表会(課題探究発表会)を参加してもらい、観覧だけでなく中学生の「ふるさと学習」の意識を高めるために、代表生徒に発表してもらう。

## (2) 地域住民等対象

### 【成果】

- ①ポスターやチラシなどを使った「地域科学科」の周知徹底。
- ②地域課題探究学習「まつナビ・プロジェクト」を活用した情報の発信。
- ③進学実績等を横断幕にして、校門付近に大きく掲示。
- ④地域科学科の取組が進路実現につながる事が認知されるようになった。

### 【課題・次年度への反映】

- ①「まつナビ・プロジェクト」の成果・普及をとおして入学志願者増に結びつける。
- ②松浦高校の教育活動に興味・関心をもってもらうために、「まつナビ・プロジェクト」発表会において地域住民等の参観者を増やす。

## (3) 県内外の高校対象

本校を訪問した以下の高校に新学科の状況等について説明

6月11日(水)	佐賀県立伊万里実業高校
8月28日(水)	兵庫県立尼崎高校 青森県五所川原第一高校
10月9日(水)	島根県立江津高校
1月22日(木)	熊本県立小国高校
2月5日(水)	福岡県立柏陵高校(大雪のため中止)
3月7日(金)	愛知県立成章高校

## 2-9 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

### 【成果】

- ①本事業の指定校となり、生徒の幅広い課題探究活動が可能となった。また、松浦市や地域の事業所等の職員が生徒の活動に伴走したり、アドバイザーとして専門的な助言を多くいただいたりした。
- ②松浦市長を中心としたコンソーシアム会議等、地域を巻き込んだ協力体制や生徒の教育活動を支援する持続可能なシステムは構築された。
- ③まつうら高校応援団の設置で、生徒のフィールドワークやインタビュー調査等の校外活動の回数が増えた。地域の支援・協力がさらに活性化された。

### 【課題】

- ①特定の事業所に、生徒の活動が限定されている。
- ②学校(生徒)と地域との協働活動におけるマッチング体制の構築。
- ③次年度以降の「まつナビ・プロジェクト」推進のための組織及び生徒の活動費の確保。

### 【次年度への反映】

<学校外との連携>

- ①これまでのコンソーシアムでの取組を継続し、より一層地域との連携を深め、持続可能

な教育活動推進のための組織を構築するため、令和7年度からコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入する。

- ②大学や中学校の連携体制の再構築を図る。特に、大学との連携については、研修講師の謝金・旅費等の確保について検討する。
- ③「まつうら高校応援団」の協力支援団体を増やし、地域からの支援を幅広く受けられる体制づくりを進めて、生徒の「主体的」な探究活動の充実を図る。

#### <校内体制の整備>

- ①「活性化ミーティング」を継続して設置し、具体的な活動内容や目的の共通理解及びスキルを身に付けさせるための指導法の向上や、生徒に伴走するマインドセットの醸成を図り、まつナビ・プロジェクト活動の充実を図る。
- ②DXハイスクール事業と「まつナビ」のテーマ設定の関連性を深めるために、カリキュラムの改善を進める。
- ③令和7年度以降のコーディネーターの継続的な配置及びさらなる人的資源の活用（地域おこし協力隊等）について検討する。
- ④「まつナビ・プロジェクト」に係る生徒の活動費の在り方について検討する。

## 2-10 他の事業との関係

### 【成果】

- ①令和4年度に終了した「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の成果を踏まえた継続的な取組の実践。
  - ・今後のルーブリック評価について、運営指導委員会で具体的な意見をもらった。
  - ・コーディネーターを中心とした、小高・中高・高大連携の強化。
  - ・県北高校生探究フォーラムの開催、及びNPO認定法人カタリバ主催の「学校横断型探究プロジェクト」において、たくさんの生徒間交流が実現した。
- ②立命館宇治中学・高等学校のWWLコンソーシアムに昨年度から加盟し、1月23日(木)～25日(土)の探究研究会に生徒2名が参加した。（参加生徒は最終日にポスターセッションを行った。）
- ③三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる「高校魅力化評価システム」の導入3年目で、より客観的なデータによる分析を行うことができた。

### 【次年度への反映】

- ①「高校魅力化評価システム」による評価結果を精査し、カリキュラム開発の方針に反映させていく。
- ②他校生との交流については県内のみならず、県外の高校とも継続的に行っていく。そのための活動費を確保するための検討を行う。

## 2-11 3年間の総括【実施計画Ⅱ】

【計画Ⅱ】 コンソーシアムを中心とした、中学校と高等学校の学びの連携・交流及び高等学校と大学・企業等の連携による、SDGsを踏まえた地域課題解決型探究活動及びキャリア形成力の涵養活動を組織的に支援する体制の構築・運営の充実について、以下のとおり整理した。

計画Ⅱ	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標	中高・高大職連携の推進とその効果等の検証に基づく連携体制の在り方を含む改善	前年度の検証等を踏まえた支援体制の充実と生徒の探究活動への支援の検証・改善	地域・学校活性化に向けた、3年間の生徒支援の検証等による総括、次年度以降の計画策定
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校社会科の中高合同授業に本校1年生が参画した</li> <li>○商工会議所青年部が主催するイベントに生徒会役員が企画から参画した</li> <li>○地域科学科生徒が、大学生の卒業論文発表会へ参加した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長崎大学の支援のもと、地域素材を活用した授業づくりに取り組んだ</li> <li>○発表会に地元の社会人や長崎県立大学の学生等を招き、多方面から助言をもらった</li> <li>○小・中学校でプロジェクトの成果を発表した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長崎大学の支援のもと、地域素材を活用した授業づくりに取り組んだ</li> <li>○発表会に地元の社会人や長崎県立大学の学生等を招き、多方面から助言をもらうことができた</li> <li>○各班の活動に大学生に伴走してもらい、探究活動を充実させることができた</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コンソーシアム構成員との協働による実践活動の充実を図ることができた</li> <li>○校外での活動の機会を増やしフィールドワーク等による地域との交流の機会が増えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○7教科において地域素材を活用した授業づくりに取り組み、中学校との合同授業（地歴・社会）を行うことができた</li> <li>○大学生には複数回発表会に参加してもらうことができたまた、大学訪問を実施することができた</li> <li>○生徒と地域リソースとをマッチングする「まつうら高校応援団」を創設した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科地域素材を活用した授業づくりに取り組み、地歴公民科では、中学校との合同授業も行った</li> <li>○大学生1, 2名を各班に入ってもらい、探究活動の進捗状況などについての壁打ちを3回以上実施できた</li> <li>○「まつうら高校応援団」にはフィールドワーク等で多くの支援をもらった</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の研究と地域のリソースとのマッチングが不十分である</li> <li>●課題解決に必要なデータの収集・活用・分析力の育成が不十分である</li> <li>●中高教員間の情報共有を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題設定力や課題解決に必要なスキル（データ収集・活用・分析力等）の育成が不十分である</li> <li>●「まつうら高校応援団」の運用など地域との連携の在り方を引き続き検討していく必要がある</li> <li>●大学による支援がその場限りとなっており、より継続性のある関係を構築する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報理解・収集力を高めるためのスキルの育成が不十分である</li> <li>●地域素材を活用した授業づくりを行う中で、大学による支援を継続性のあるものにしていく必要がある</li> <li>●探究活動を進めるための地元事業所とのマッチングがまだ不十分である</li> </ul>

【計画Ⅱの3年間の総括】 ○成果、 ●課題

- 長崎大学の支援のもと、地域素材を利活用した授業改善が進んだ。
- 長崎県立大学生の伴走、特に発表会前後のオンライン会議や発表会の参観等により、生徒に多くの助言をもらうことができた。
- 「まつうら高校応援団」には、1年生の仕事図鑑インタビュー、2年生のフィールドワークやインターンシップ（3月17日～19日に実施）でお世話になった。いずれの訪問でも協力的な御支援をいただいた。
- 探究活動を進めるための地元事業所とのマッチングについては今後も課題であり、探究コーディネーターからと連携し、生徒へ情報提供をしていく必要がある。
- データを収集し、それを理解してまとめていく活動や論理的な思考が苦手な生徒が多いので、これを克服するための研修会などを計画する。

### 3 実施計画Ⅲ

#### 3-1 活動目標

県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

#### 3-2 実施計画

県内外の「地域に根ざした高校」のネットワークの構築と協働による、参加各校の活性化

#### 3-3 活動内容

(1) 「地域に根ざした高等学校」のネットワークを構築した上で協働研究等を実施

○目的

- ・観点別評価に関する研修

○日時・場所：令和6年11月22日（金） 14:30～16:30／松浦高校コモンホール

○対象：本校教員・県内の教員

○講師：福井県教育庁高校教育課参事（高校改革担当）渡邊 久暢 先生（国語科）

(2) 長崎県立大生による伴走

○目的

- ・最終発表に向けたより精度の高い発表内容にするため、長崎県立大生の指導を受けながら、フィールドワークの振り返りを充実させる。
- ・大学生には高校生のチームに第三者の立場からアドバイスをしていただくことで客観性のある発表内容に近づける。

○オンラインでの伴走の日時

- ・6月19日（水）13:50～15:40 中間発表会 参観
- ・7月3日（水）13:50～15:40 オンライン 大学2年生、3年生
- ・8月28日（水）13:50～15:40 オンライン 大学2年生、3年生
- ・10月9日（水）13:50～15:40 オンライン 大学3年生
- ・10月23日（水）12:30～16:00 課題探究発表会 参観

○7月3日（水） 中間発表会の振り返り、フィールドワークの準備

- ・これからどのようにして実践活動へつなげていくか
- ・活動を進めにあたって「困りごと」の共有と助言。

○8月28日（水） フィールドワークの振り返り

- ・フィールドワークでどんなことをしたのか。
- ・どんなことが分かったのか。
- ・最終発表に向けて足りないことは何か。

○10月9日（水） 最終発表に向けたプレ発表

- ・当日は各班が1班ずつ模擬発表。
- ・大学生は各班についていただき、発表の前後でのアドバイスをお願いします。

### (3) 生徒間交流

#### ①長崎県アントレプレナーシップゼミ 2024 (Summer/Winter)

日時：令和6年8月20日(日) / 令和6年12月22日(日)

内容：地域課題の解決や地域の魅力化について、参加した県内の高校生がチームに分かれて協議し、多様なビジネスプランを開発した。参加した本校の生徒は他校の生徒と積極的に関わりながら、地域創成について探究する力を身に付けた。

#### ②全国防災会議 (全国防災ジュニアリーダー育成合宿)

日時：12月20日(金)～22日(日)

内容：本校1年生が2名参加。2泊3日で雲仙普賢岳災害等を学び、防災や減災について学びを深めた。また、全国各地から集まった高校生に対して、開催権の長崎県の代表として開会行事などを企画・運営した。



■防災ワークショップの様子

#### ③学校横断型探究

日時：1回目 令和6年10月10日(木)

2回目 令和7年 1月23日(木)

内容：NPO認定法人カタリバによる、全国の小規模校を中心とした高校との生徒間交流に参加。10月と1月の2回、本校生徒1年生全員が探究活動の課題や成果について、他県高校生と個別にオンライン協議を行った。



■オンライン協議の様子

#### ④県北探究フォーラム

日時：令和6年12月22日(日)

12:30～13:40 (70) 探究活動に関するポスター発表

13:55～15:25 (90) 生徒、サポーター、観覧者との「対話」

講師 (有)ペンダコ代表 日賀優一 様

15:35～16:20 (45) 講演 講師：ベネッセ教育総合研究所主席研究員

山下真司 様

16:20～16:40 (20) クロージング：講演の振り返り、1日の振り返り

内容：日ごろから各学校で取り組んできた探究活動について、学校の垣根を超えた場での発表すること、サポーター等との質疑応答などを通して、探究活動の深まりや広がりをもつとともに、探究学習の面白さを実感することを目的として、アルカス佐世保イベントホールで、県北6校（佐世保南高校、佐世保北高校、

佐世保西高校、猶興館高校、宇久高校、本校)が集まり、探究フォーラムを実施した。ワールドカフェ方式のワークショップにおいて、他校(各校1名)との代表者会をつくり、オンライン会議を通じて、当日のテーマについて協議を行うことができた。また、当日の進行も全て生徒を中心に行った。



■ポスターセッション



■探究ワークショップ

⑤立命館宇治中学校・高等学校公開研究会(探究)

日時:令和7年1月24日(金)・25日(土)

内容:立命館宇治高校で行われている探究活動に関する講話や生徒の発表を参観するとともに、本校の生徒も自らの探究活動のポスター発表を行った。



■ポスターセッションの様子

⑥全国高校生マイプロジェクトアワード2024長崎県 Summit

日時:令和7年1月26日(日)

内容:県内の高校生がグループに分かれ、それぞれが進めてきた探究活動について発表し、様々な経歴を持つ大人のサポーターを交えた対話を行った。専門的な視点を踏まえた助言をもらい、生徒の探究活動の深まりにつながった。



■発表と質疑応答

### ⑦松浦市ビジネスコンテスト

日時：令和6年12月25日(水)プラン発表

令和6年12月26日(木)表彰式

内容：松浦市主催のビジネスプランコンテスト。  
本校からは、アジのウロコの保湿成分に含まれるコラーゲンに着目した班が応募し、2月25日実施の県のコンテスト（ミライ企業 NAGASAKI）へ進んだ。



■ミライ企業 NAGASAKI でのプレゼン

### ⑧佐賀県唐津市無印良品主催「防災会議」

日時：令和7年2月15日(土)14:00～

内容：無印良品唐津店主催の防災に関する会議。  
唐津市内の高校と本校の防災班等が日頃からの防災への備え等について協議を行った。



■防災班の発表

### ⑨SDGs QUEST みらい甲子園

日時：令和7年3月27日(木)

内容：全国のSDGsについて探究する高校生が、SDGsの目標達成に向けた様々なアイデアを考える。本校からは「住み続けられるまちづくりを」の目標達成を目指し、防災ベンチの製作・自主防災組織の立ち上げを行ったチームが参加した。



■防災ベンチの披露

### 【成果】

- ①班別活動を行う2年生については、班ごとに長崎県立大学の学生1～2名に伴走者としてついてもらい、オンライン等で活動の進捗や悩みについて報告・相談するとともに、効果的なフィールドワークや発表に向けた取り組みなど、活動の方向性に関するステップアップへのアドバイスをいただいた。
- ②生徒が外部のさまざまな研修会や探究活動に参加した。
  - ・長崎県教育委員会主催の「ながさき未来デザイン高校生SDGs推進事業」アントレプレナーシップゼミに2年生（夏）と1年生（冬）に参加。

- ・全国防災会議の2泊3日のキャンプに1年生2名が参加（12月）。
  - ・松浦市ビジネスコンテストに2年生の3チームが参加。アジのウロコから抽出したコラーゲンを利用したハンドクリームの作成について探究したチームが最優秀賞に選ばれ、2月実施の長崎県主催「みらい企業 Nagasaki」推進事業のビジネスプランコンテストへ進出した。（12月・2月）
  - ・立命館宇治中学校・高等学校の公開研究会（探究）に生徒2名が参加しポスターセッションを行った。（1月）
  - ・認定NPO法人カタリバ「マイプロジェクトアワード長崎県 Summit」に2年生の2チームが参加した。
  - ・SDGs QUEST みらい甲子園に、「防災」をテーマとした2年生のチームが参加。九州北部エリアの1次審査を通過し、3月の最終審査に向けた準備を行っている。
- ③学校横断型探究として、NPO 認定法人カタリバによる、全国の小規模校を中心とした高校の生徒間交流に1年生が参加。

#### 【課題】

- ①1年生での仕事図鑑作成や2年生でのフィールドワーク・インターンシップ等においては、まつうら高校応援団から多くの支援を受けているが、訪問先の事業所が重複してしまうことがある。生徒の興味・関心を広げるとともに、応援団の構成事業所の拡大や構成事業所以外の事業所との連携を検討していく必要がある。

#### 【次年度への反映】

- ①生徒一人ひとりのキャリア形成を支援するために必要な連携先の「開拓」を進める。
- ②生徒のキャリア形成力を高めるために、地域との連携の目的を明確化しながら年間の活動計画の作成を行う。
- ③生徒が外部コンテスト等に自主的・積極的に応募し、学校外においても多様な支援・評価を得られるように、年度当初に生徒の研究テーマに応じた外部コンテストを紹介する。

### 3-4 3年間の総括【実施計画Ⅲ】

【計画Ⅱ】県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築と、地域・学校活性化を目標とした学びを進める体制・運営の研究開発について、以下のとおり整理した。

計画Ⅲ	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標	「地域高校」ネットワークの構築・交流開始	「地域高校」ネットワーク参加校における協働・活動の推進	「地域高校」ネットワークの3年間の取組の検証等による総括、次年度以降の計画策定
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県内県立高校9校とのネットワーク構築を行い、教員研修を実施した</li> <li>○立命館宇治中学・高等学校のWWLコンソーシアムに加盟できた</li> <li>○宮崎県立飯野高校主催の全国グローバルリーダーズサミットに生徒が参加した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県内の高校教員や地域住民も巻き込んで外部講師を招聘した研修会（3回）を実施した</li> <li>○立命館宇治中高のWWLコンソーシアムのフォーラムに校長が登壇し参加するとともに、情報交換を行った</li> <li>○宮崎県立飯野高校主催のグローバルリーダーズサミットに、外部の研修会に生徒が参加した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒間交流の一環として県北高校生探究フォーラムを実施6校参加でポスターセッションやワークショップを行った</li> <li>○立命館宇治中高のWWLコンソーシアムに参加し、本校生徒が発表した</li> <li>○全国防災会議に1年生2名が参加本県開催であったため、ウェルカム行事などをその中心となって企画・運営した</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域高校」との研修を通じて、学校の魅力や探究活動等の情報共有ができた</li> <li>○生徒のキャリア意識の高揚を図ることができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修会を通じて、学校の魅力化や探究活動に関する情報共有ができた</li> <li>○外部との交流によって、生徒の探究活動に対する意識やキャリア意識の高揚を図ることができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県北高校生探究フォーラムを実施して他校生との交流によって、生徒の探究活動に対する意識やキャリア意識の高揚を図ることができた</li> <li>○専門家による評価についての研修会を他校職員も参加して実施した</li> <li>○全国の高校がオンラインでつながる、カタリバ主催の「学校横断型探究プロジェクト」で1年生全員が、生徒間交流ができた</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報共有後の担当者間での振り返りの時間の不足</li> <li>●参加各校の取組内容に踏み込んだ情報共有と意見交換の時間設定が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修会後の教員間、参加者間での振り返りや意見交換の時間を十分にとれなかった</li> <li>●本校を中心とした生徒交流を実施できなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまで連携してきた県内の「地域に根ざした高等学校」との関係性を継続しつつ、各校魅力化に向けた生徒間交流等の在り方を再検討する</li> <li>●外部（校外）コンテスト等で高評価を得るような探究活動を増やす</li> </ul>
<p>【計画Ⅱの3年間の総括】○成果、●課題</p> <p>○令和5年度は、教員間交流のための研修会を実施し、令和6年度は「県北高校生探究フォーラム」を県北高校6校による、<u>他校生との交流</u>のために、相互に探究活動発表（ポスターセッション）、ワークショップ等を行うことができた。</p> <p>○宮崎県飯野高校やWWLコンソーシアムに参加している立命館宇治高校に生徒を引率して、本校の活動を発表できた。このように<u>県外生との交流</u>も徐々に増やすことができた。</p> <p>○全国の高校がオンラインでつながる、カタリバ主催の「学校横断型探究プロジェクト」で<u>1年生全員は生徒間交流</u>ができた。オンラインでのトラブルがあった生徒は、その解消法も学ぶことができ、貴重な体験ができた。</p> <p>●令和6年度は生徒間交流を進めることができたが、<u>地域に根ざした高等学校との教員間交流（意見交換会）</u>を継続的に実施すべきだった。</p> <p>●外部コンテストの参加は増えたが、福井県若狭高校「若狭宇宙鯖缶」や宮崎県立飯野高校「えびのスプラッシュフェス」の開催のように、「<u>これぞ松高</u>」というような活動がまだないので、そのような探究活動を作っていく必要がある。</p>			

### 第3章 管理機関の役割

#### 1-1 管理機関における活動実績

##### ■ 実施内容及び日程

実施内容	日 程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①運営指導委員会		○										○
②コンソーシアム会議		○										○
③学校訪問指導 (授業 探究活動 発表会等)		○	○				○		○			○
④ネットワーク研修								○	○			
⑤県外先進校視察						○						
⑥県の研究報告会における成果普及												○
⑦高校との事業進捗確認	随 時											

##### 【成果】

①運営指導委員会及びコンソーシアム会議をそれぞれ年2回開催し、事業内容について、特に以下の項目について指導・助言を受け、その後の事業展開について学校と協議した。

- ・指導と評価の一体化を目指すカリキュラム開発
- ・中高連携、高大連携による生徒の資質・能力の育成
- ・県内外の高等学校との連携による教員・生徒の資質・能力の向上

②探究活動や課題研究発表会（6月、10月）や、県内他校とのネットワーク研修会に参加（12月）し、事業の実施状況を把握した。

③ルーブリックの改善に向けて、生徒や地域の方の関わりや、地域課題探究学習と授業のつながり等について、事業の改善への提案を行った。

④先進的な取組等を行っている県外高校を、松浦高校とともに視察し、管理機関としての支援体制についての意見交換を行った。

[視察先および主な聴取内容]

○兵庫県立柏原高校（9月21日）

- ・コーディネーターの役割や情報共有について
- ・新学科の設置について 等

⑤高校コーディネーター全国プラットフォーム構築事業における研修会に、年間を通じて参加し、他県の関係者と意見交換を行った。

⑥長崎県教育委員会主催の「研究指定校等に係る研究報告会」において、松浦高校が発表し、成果の普及を図った。

開催日：令和7年2月4日（火）

参加者：県内の公立私立高校 66校 78名

### 【次年度以降の取組】

- ① 本事業で構築したコンソーシアムの機能をコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）へ移行し、運営の更なる充実を図る。
- ② 生徒にとって非認知能力向上及び自己肯定感の醸成につながるルーブリック作成の支援の継続。
- ③ コーディネーターの活動の充実を図るため、県内の他地域や他県のコーディネーター設置校と連携し、オンライン会議や学校訪問などを通してネットワークの構築を図る。

### 1-2 管理機関における事業全体の成果検証、評価

本構想において実現する成果指標は、次の3つである。なお、成果の検証は、生徒へのアンケートおよび生徒のルーブリック評価により行った。

- ① キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率（％）
- ② 発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（％）
- ③ 育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力等）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

#### ① 成果指標：キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率（％）

##### ○ アンケートの質問内容

まつナビ・プロジェクト等を通して、卒業後や将来のことを『自分ごと』として考える力（キャリア形成力）が高まったと思うか。

##### ○ 結果

地域科学科生徒の実績値：84.7％（令和6年度成果目標値：95％）

##### ○ 評価

- ・ キャリア形成力が高まった（「そう思う」「ある程度そう思う」）と回答した地域科学科の生徒は84.7％であり目標値は達成できなかった。
- ・ まつナビ・プロジェクトの活動と進路がしっかり結びつく、あるいは進路を自分ごととして、早い時期から具体的に探究していく計画を立てる必要がある。

②成果指標：発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（％）

○アンケートの質問内容

あなたの班の地域課題解決型学習のテーマは地域活性化につながると思うか。

○結果

地域科学科生徒の実績値：90.8％（令和6年度成果目標値：90％）

○評価

- ・地域活性化につながると思う（「そう思う」「ある程度そう思う」）と回答した地域科学科の生徒は90.8％で目標値を達成した。
- ・地域科学科の生徒が、地域の方々や松浦市職員、大学教授及び大学生との探究活動（協働学習）において主体的に活動する姿が見られた。また、これまでの活動と同じように商業科との協働により、地域課題探究学習が推進された。
- ・次年度以降も生徒が設定した研究テーマと地域のリソースのマッチングを図り、地域と連携した取組の充実が必要である。
- ・中高および高大の連携交流の充実を図ることで、さらに「地域活性化に貢献したい」という気持ちの醸成が必要である。

③成果指標：育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

○結果

地域科学科生徒の実績値：3.04（令和6年度成果目標値：4.00）

○評価

・ルーブリック評価における目標値の4.00に対して、結果が3.04であり、目標を下回った。しかし、昨年度の2.99より上昇傾向が見られる。主な内訳は以下のとおりである。なお、普通を「3」として、生徒は1～5段階で自己評価している。

- ①情報理解・収集力（3.17）
- ②プレゼンテーション力（3.00）
- ③テーマ設定力／課題発見力（3.10）
- ④コミュニケーション力（3.23）⇒最も高い
- ⑤論理的思考力（2.95）
- ⑥キャリア形成力（2.83）⇒最も低い
- ⑦ふるさと貢献力（2.99）

- ・ループリック評価について、校内の教員で企画・運営する活性化ミーティングだけでなく、地域を巻き込んだ協議を継続して行うため、令和7年度から設置するコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の設置とその充実を図る。

**【次年度以降の管理機関の支援】**

- ①生徒にとって分かりやすいループリックの改善について、学びアドバイザーとともに指導・助言を行う。
- ②ループリックによる指導と評価の一体化を更に推進するため、外部アセスメントによる評価結果の検証の支援を行う。
- ③これまで連携をとってきた県内の「地域に根差した高等学校」との関係を継続しつつ、各校魅力化に向けた生徒間交流等の支援を行う。
- ④本事業で構築したコンソーシアムをコミュニティ・スクールに移行し、新規校として運営の支援を行う。
- ⑤県内の他校地域のコーディネーターとの情報交換の場の設置や研修会の実施など、コーディネーターの資質向上を図る。
- ⑥普通科改革について、国の動向を把握しながら学校と情報交換を行い方向性の検討を行う。

## 第4章 事業検証

### 1-1 今年度と3年間の目標設定についての検証

#### (1) 目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値（3年度）
質問内容：まっナビ・プロジェクト等を通して、卒業後や将来のことを『自分ごと』として考える力（キャリア形成力）が高まったと思うか。						
（成果目標）						
キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率						単位：%
本事業対象生徒：			85	90	95	85
本事業対象生徒以外：	75	75	80	85	90	80
実績			87.1	91.3	84.7	
目標設定の考え方：令和3年度の卒業生の進学先をもとに算出						
評価						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア形成力が高まった（「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は84.7%であり、令和5年度より6.6ポイント減少した。</li> <li>・まっナビ・プロジェクトの活動と進路がしっかり結びつく、あるいは進路を自分ごととして、早い時期から具体的に探究していく計画を立てる必要がある。</li> </ul>						

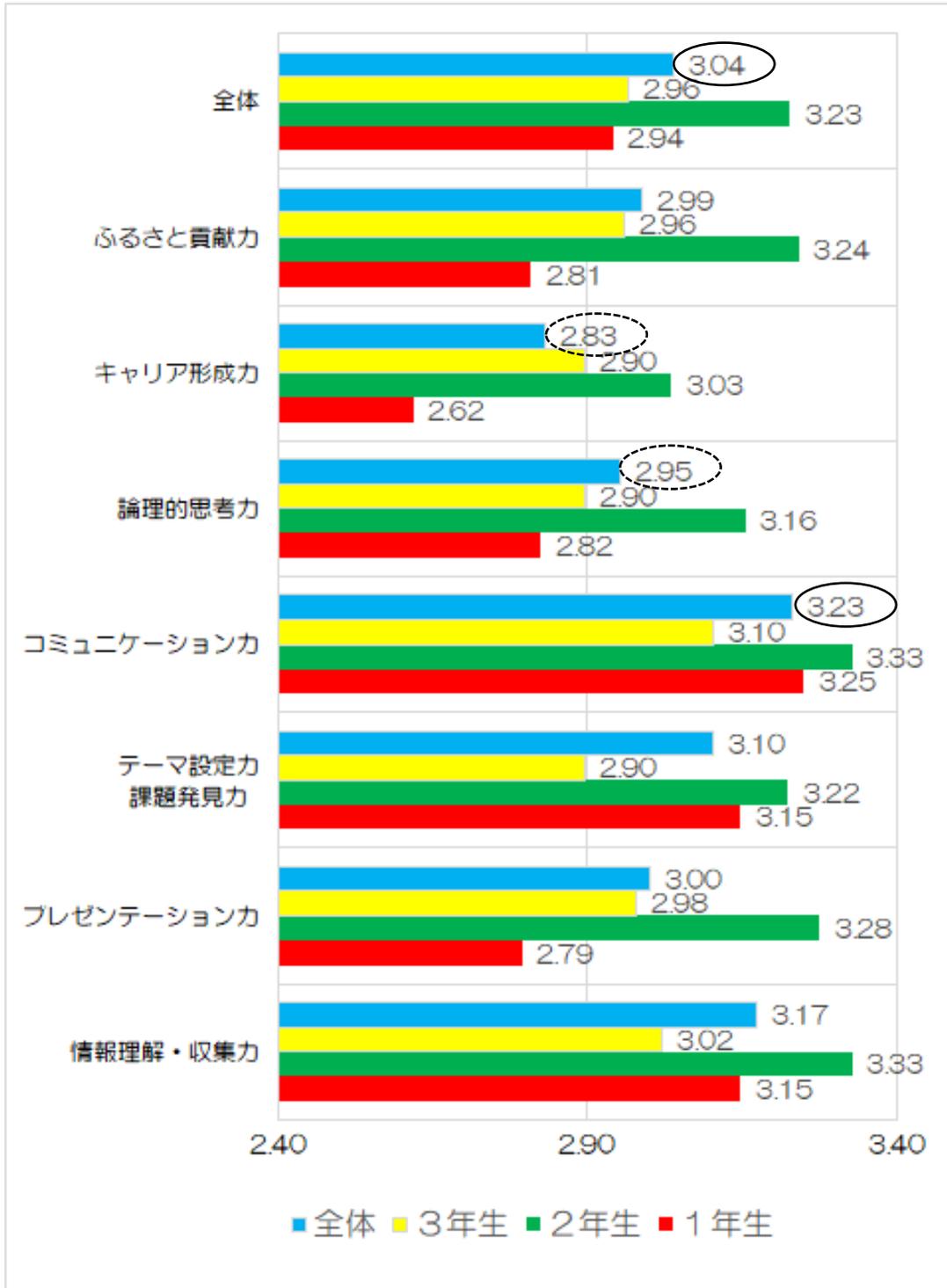
本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値（3年度）
質問内容：あなたの班の地域課題解決型学習のテーマは地域活性化につながると思うか。						
（成果目標）						
発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合						単位：%
本事業対象生徒：			80	85	90	80
本事業対象生徒以外：	70	70	75	80	85	75
実績			100.0	91.3	90.8	
目標設定の考え方：令和3年度学校設定科目、課題探究活動「まっナビ・プロジェクト」の研究プロジェクト10をもとに算出						
評価						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化につながると思う（「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は90.8%で今年度の目標値を超えた。</li> <li>・地域科学科の多くの生徒が、松浦市職員、大学教授及び大学生との探究活動（協働学習）において主体的に活動する姿が見られた。また、これまでの活動と同じように商業科との協働により、地域課題探究学習が推進された。</li> <li>・次年度以降も生徒が設定した研究テーマと地域のリソースのマッチングを図り、地域と連携した取組の充実が必要である。</li> <li>・中高および高大の連携交流により、自分の研究について理解を深めることで、さらに「地域活性化に貢献したい」という気持ちの醸成が必要である。</li> </ul>						

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値（3年度）
（成果目標）						
育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力等）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値						単位：ポイント
本事業対象生徒：			3.0	3.5	4.0	3.0
本事業対象生徒以外：			2.8	3.2	3.8	2.8
実績			1.54	2.99	3.04	
目標設定の考え方：令和3年度まっナビ・プロジェクトにおける生徒自己評価の平均値をもとに算出						
評価						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック評価における目標値の4.00に対して、結果が3.04であり、目標を下回った。しかし、昨年度の2.99より上昇傾向が見られる。主な内訳は以下のとおりである。ただし、普通を「3」として、生徒は1～5段階で自己評価している。</li> <li>①情報理解・収集力（3.17）</li> <li>②プレゼンテーション力（3.00）</li> <li>③テーマ設定力/課題発見力（3.10）</li> <li>④コミュニケーション力（3.23）⇒最も高い</li> <li>⑤論理的思考力（2.95）</li> <li>⑥キャリア形成力（2.83）⇒最も低い</li> <li>⑦ふるさと貢献力（2.99）</li> <li>・ルーブリック評価について、校内の教員で企画・運営する活性化ミーティングだけでなく、地域を巻き込んだ協議を継続して行い、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の設置とその充実を図ることが必要である。</li> </ul>						

■ルーブリックによる生徒自己評価より

評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力等			主体的に学習に取り組む態度	
育成を図る 資質能力等	情報理解・ 収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力 課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力	キャリア形成力	ふるさと貢献力
評価規準	①入手した情報や知識・技能についてまとめることができるか。	②パワーポイントやポスターに、見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	③課題研究活動を「自分ごと」として捉えたテーマ設定ができているか。	④地域や班活動で協働する力がついているか	⑤今後の展望（提言・実践）が明確か	⑥課題研究活動と自分の進路がつながっており、その実現に向けて行動できているか。	⑦課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとする態度が醸成されているか。
段階(基準)							
C	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識について、まとめることができている。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができていない。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できていない。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できていない。	課題研究活動の成果と課題を示すことができていない	自分の将来について考えることができていない。	ふるさとに貢献しようしていない。
B	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめようとしている。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫をしようとしている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマを設定しようとしている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解しようとしている。	課題研究活動の成果と課題を示そうとしている。	自分の将来を考えようとしている。	課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとしている。
A (ふつつ)	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができている。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができています。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を示すことができている。	自分の将来について考えることができています。	課題研究活動が、ふるさとに貢献しようとする態度につながっている。
S	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめ、比較・分類ができている。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、時間内にかつ原稿をあまり見ずに聞き手を見ながら発表ができている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を道すじを立てて表現することができている。	具体的な進路について深く考え、キャリア形成(進路実現)と結びつけた課題研究活動の計画を立てている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して地域に説明できており、それが実践活動まで結びついている。
SS	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た情報や知識をまとめ、比較・分類した上で要・不要の取捨選択ができている。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、身振り手振りを加え、時間内にかつ原稿に目を通さずに聞き手を見ながら発表できている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた表現可能な課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の内容を整理・分析し、成果と課題を道すじを立てた将来の展望を表現することができている。	具体的な進路について深く考え、キャリア形成(進路実現)に向けた計画を立て、その実現に向けた課題研究活動ができている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して地域に説明できており、何度も実践活動にチャレンジできている。

■生徒による自己評価結果

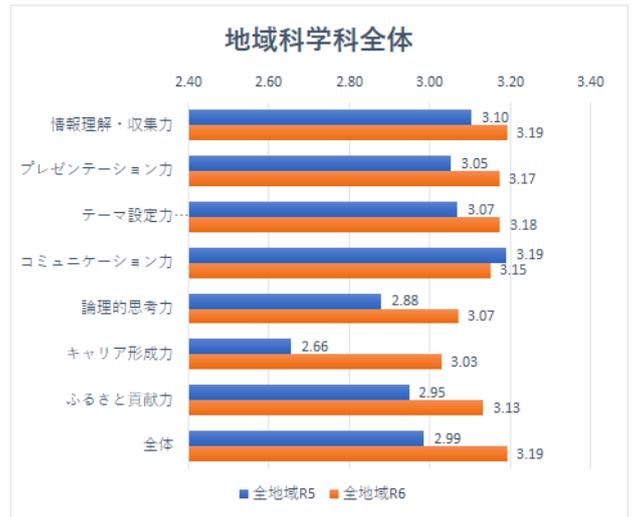
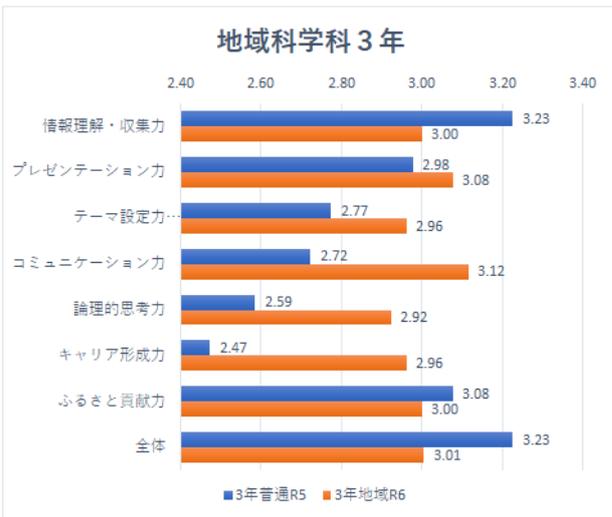
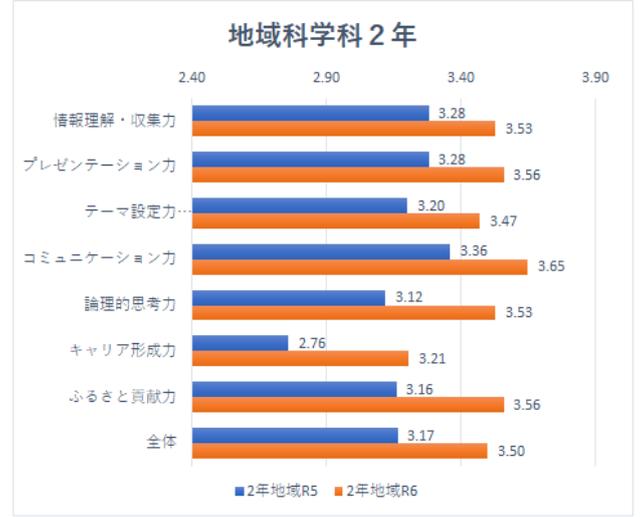
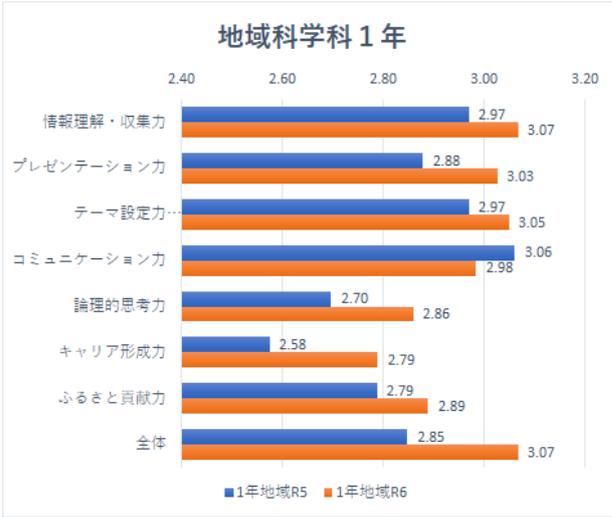


○全体については、昨年度は2.99であったが、今年度は3.04であった。いずれの項目も2年生が高くなっている。

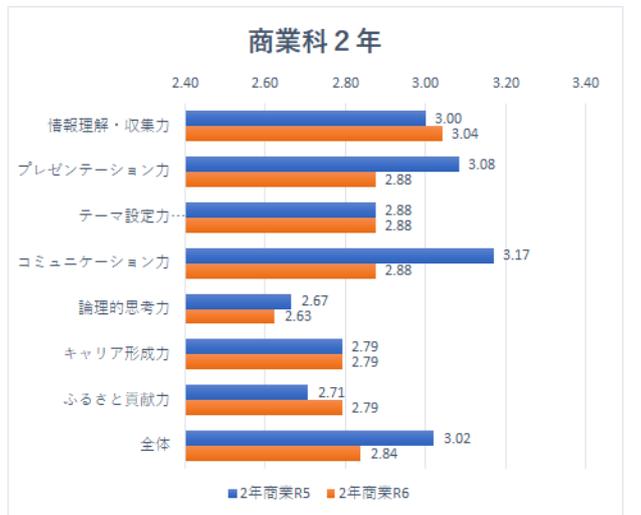
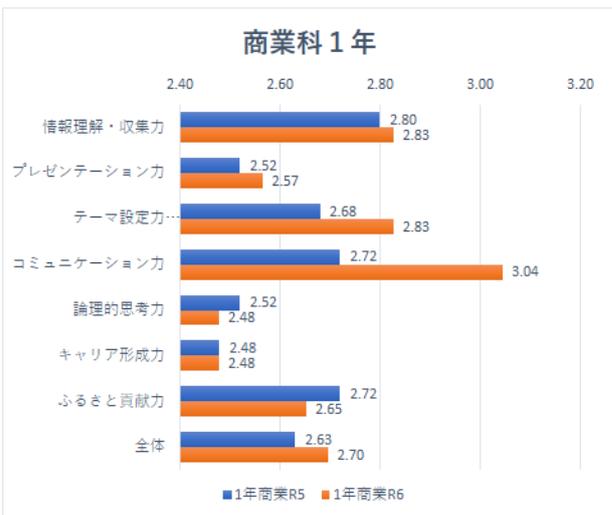
○項目別にみると、「コミュニケーション力」が全体で3.23と最も高く、キャリア形成力は2.83と最も低くなっている。まつナビ・プロジェクトの探究活動を通して、キャリア形成につながるような取り組みであることを生徒が実感していないことがわかる。

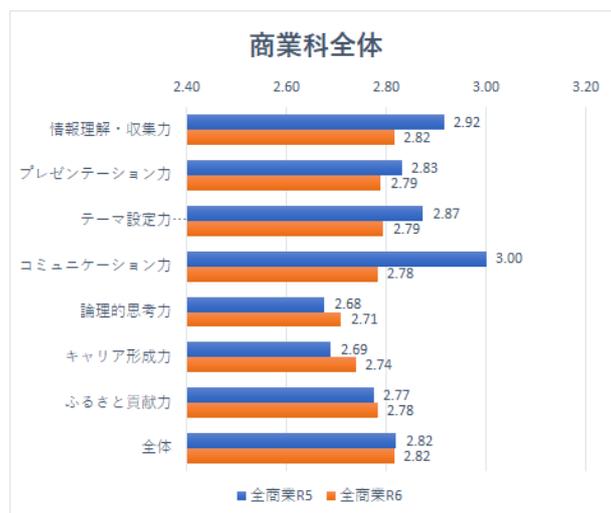
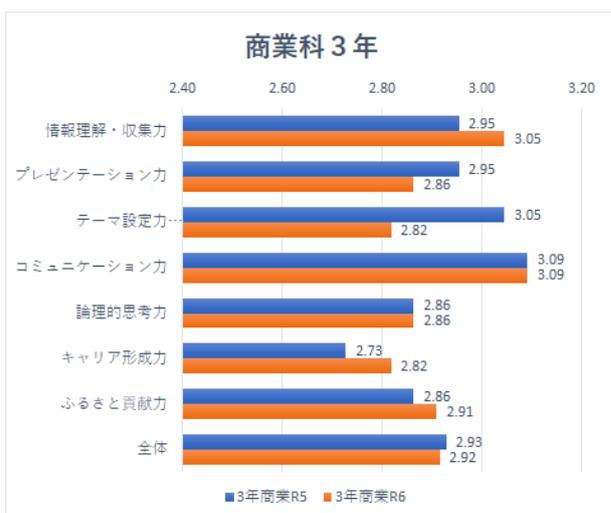
■ 学科別

● 地域科学科

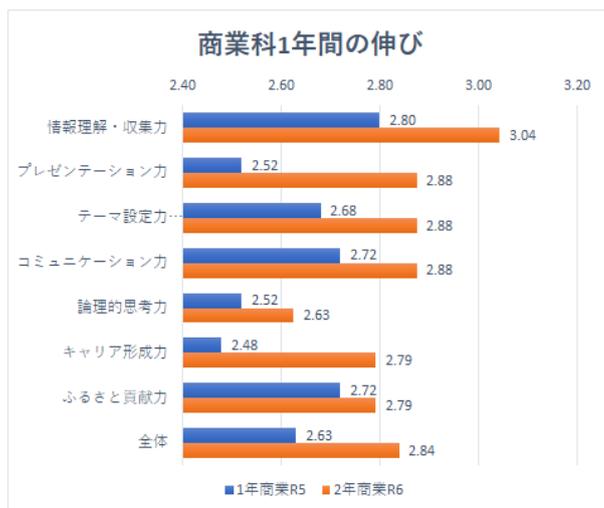
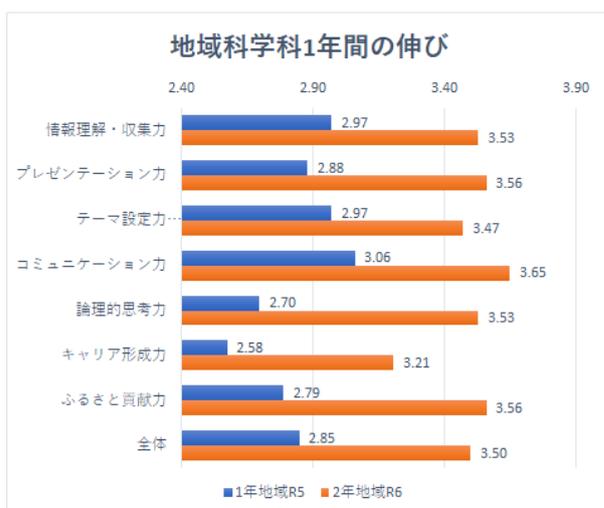


● 商業科





●この1年間の1年生から2年生への変化



○地域科学科は、いずれの項目も昨年度より伸びており、特に1年次に力を入れてきた、「情報理解・収集力」や「プレゼンテーション力」、「コミュニケーション力」、「論理的思考力」、「ふるさと貢献力」は3.50を超えていずれも伸びが大きくなっている。

○商業科はいずれも伸びており、特に「キャリア形成力」の伸びは大きかった。しかし、基準となる、3.00を超えているのは、「情報理解・収集力」のみであった。

(2) 本校独自のアンケート結果より

令和2年から4年度まで研究指定を受けていた文科省委託事業（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）で実施していたアンケートを今年度も継続して実施した。

4：とてもそう思う。3：まあそう思う。  
2：あまりそうは思わない。1：全くそうは思わない。

<松浦に関する知識>

- ア 松浦の歴史や文化について、知っている。
- イ 松浦の自然について、知っている。
- ウ 松浦の産業やその特色などについて、知っている。
- エ 松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。
- オ 地域の課題解決の方法を、考えたことがある。

<ふるさとや松浦に対する意識>

- カ 自分のふるさとや松浦のことが、好きである。
- キ 地域の課題を解決したり、地域を活性化したりする活動に、興味を持っている。
- ク 自分のふるさとや松浦を訪れる人やU I ターンの移住者から多くのことを学んでみたい。
- ケ 地域課題の成果を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したい。  
(そう思ったことがある)

<進学希望先別の意識> 質問サ、質問シのうち当てはまるものを答えてください。第1希望のみ。

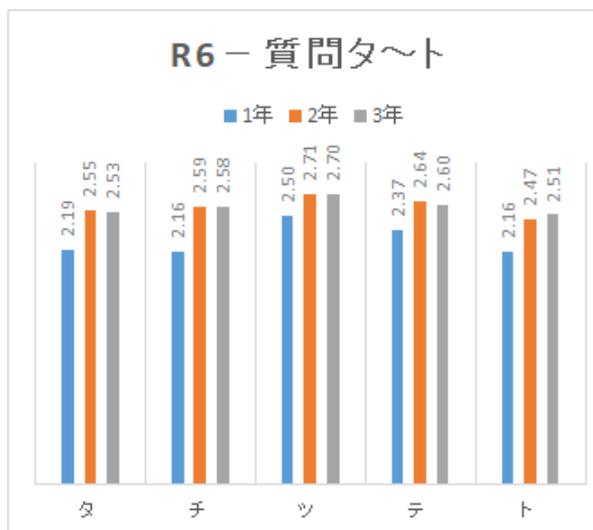
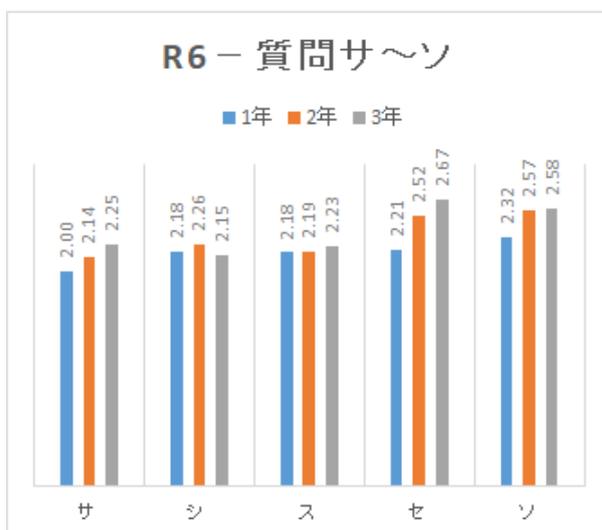
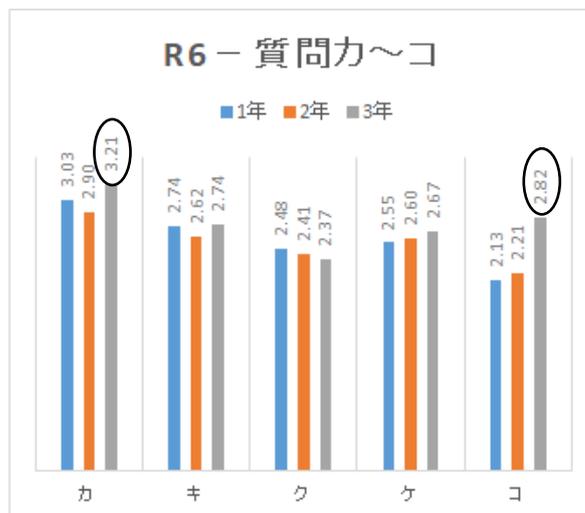
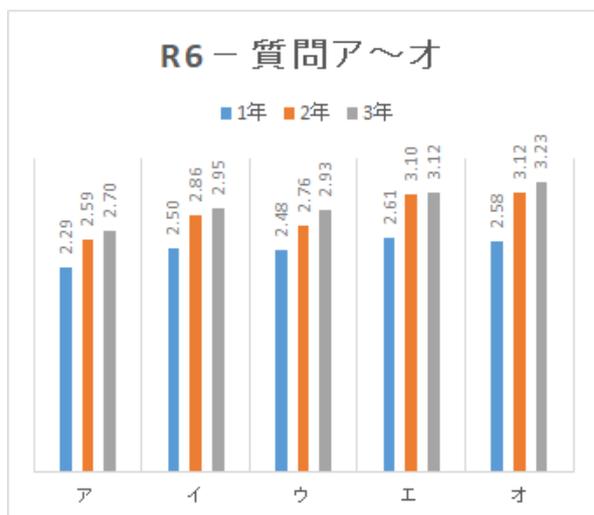
- コ 高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。(長崎県内就職も考えている)
- サ 高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したい。  
(Uターン先は松浦市ではなく「長崎県内」です。進学希望者は大学だけでなく、短大、専門学校等も含まれます。)
- シ 大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学したい。  
(大学等とは四年制大学及び短大です。学部・学科は地域系、経済系や社会学系、国際系及び教員養成、文学・語学系、保育等です)

<自分の学力の分析>

- ス 自分は、地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力がある。
- セ 自分は、フィールドワークの結果を分析する力がある。
- ソ 自分は、地域の課題を改善する方法を考える力がある。
- タ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をまとめる力がある。
- チ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をプレゼンテーションする力がある。
- ツ いろいろな人の意見に耳を傾け、対話をし、発信していくコミュニケーション力がある。
- テ ふるさとに関する課題を発見し、研究テーマを設定する力がある。
- ト 道理や筋道に従いながら考え、結論を導き、結論について分かりやすく説明する力がある。

●アンケート調査結果一覧

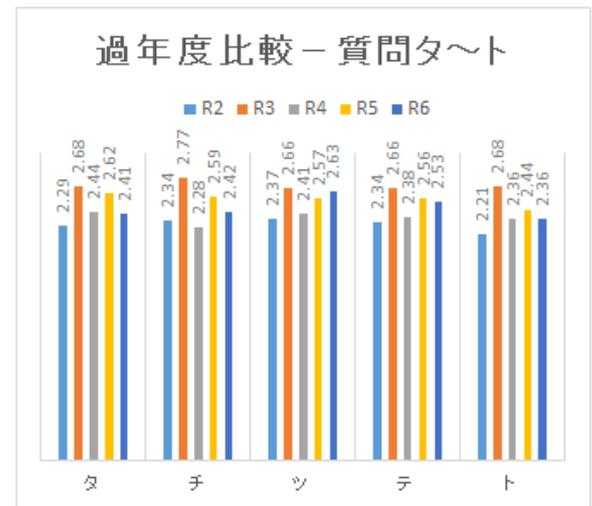
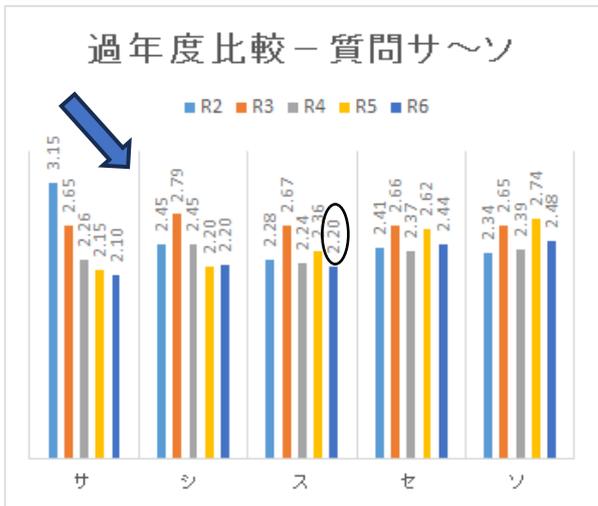
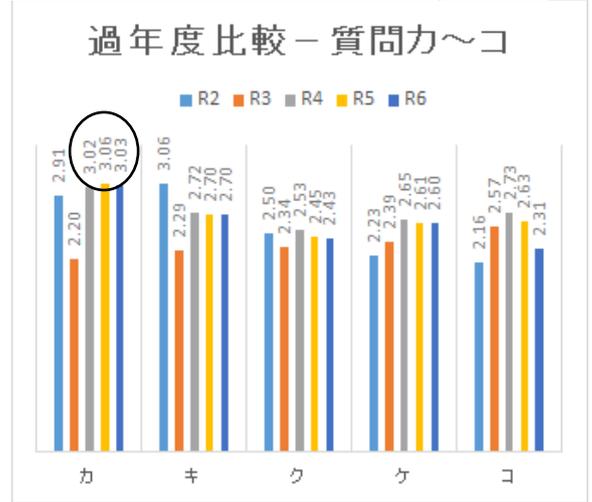
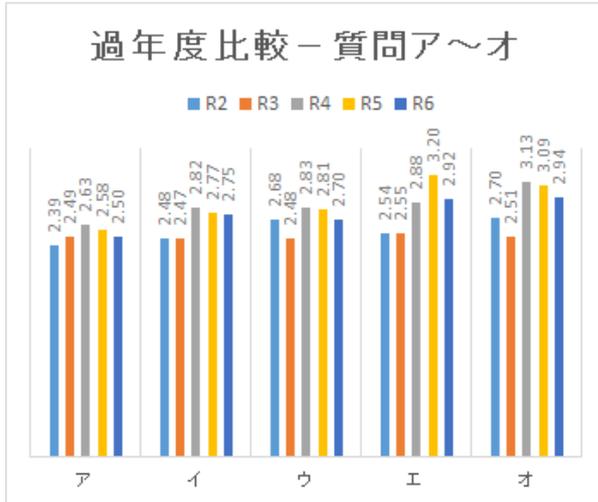
	対象	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
R6	1年	2.29	2.50	2.48	2.61	2.58	3.03	2.74	2.48	2.55	2.13	2.00	2.18	2.18	2.21	2.32	2.19	2.16	2.50	2.37	2.16
	2年	2.59	2.86	2.76	3.10	3.12	2.90	2.62	2.41	2.60	2.21	2.14	2.26	2.19	2.52	2.57	2.55	2.59	2.71	2.64	2.47
	3年	2.70	2.95	2.93	3.12	3.23	3.21	2.74	2.37	2.67	2.82	2.25	2.15	2.23	2.67	2.58	2.53	2.58	2.70	2.60	2.51
	全体	2.50	2.75	2.70	2.92	2.94	3.03	2.70	2.43	2.60	2.31	2.10	2.20	2.20	2.44	2.48	2.41	2.42	2.63	2.53	2.36
R5	1年	2.36	2.60	2.67	2.90	2.90	2.90	2.78	2.54	2.70	2.30	1.95	1.93	2.34	2.54	2.57	2.60	2.57	2.53	2.53	2.37
	2年	2.69	2.90	2.88	3.14	3.27	3.04	2.69	2.27	2.59	2.61	2.05	2.00	2.22	2.59	2.55	2.57	2.57	2.47	2.59	2.33
	3年	2.68	2.82	2.88	2.78	3.13	3.21	2.64	2.50	2.56	3.03	2.39	2.81	2.46	2.71	2.74	2.67	2.61	2.67	2.56	2.57
	全体	2.58	2.77	2.81	3.20	3.09	3.06	2.70	2.45	2.61	2.63	2.15	2.20	2.36	2.62	2.74	2.62	2.59	2.57	2.56	2.44
R4	1年	2.49	2.69	2.67	2.97	2.82	2.97	2.79	2.59	2.59	2.21	2.00	2.17	1.95	1.97	2.15	2.10	1.90	2.13	2.31	2.03
	2年	2.58	2.70	2.68	2.68	3.00	2.93	2.53	2.45	2.58	2.70	2.38	2.37	2.08	2.33	2.33	2.46	2.30	2.38	2.25	2.33
	3年	2.74	2.95	3.00	2.95	3.35	3.09	2.78	2.53	2.73	3.00	2.35	2.65	2.47	2.59	2.55	2.59	2.45	2.57	2.48	2.55
	全体	2.63	2.82	2.83	2.88	3.13	3.02	2.72	2.53	2.65	2.73	2.26	2.45	2.24	2.37	2.39	2.44	2.28	2.41	2.38	2.36
R3	1年	2.67	2.50	2.50	2.50	2.42	1.99	2.22	2.42	2.59	2.58	2.90	2.87	2.89	2.86	2.75	2.87	3.00	2.77	2.82	2.91
	2年	2.39	2.30	2.20	2.33	2.12	2.09	2.36	2.50	2.42	2.51	2.84	2.73	2.70	2.57	2.62	2.61	2.72	2.61	2.71	2.72
	3年	2.34	2.63	2.82	2.68	3.18	2.66	2.30	2.00	2.09	2.78	1.94	2.64	2.27	2.50	2.54	2.50	2.45	2.54	2.36	2.29
	全体	2.49	2.47	2.48	2.55	2.51	2.20	2.29	2.34	2.39	2.57	2.65	2.79	2.67	2.66	2.65	2.68	2.77	2.66	2.66	2.68
R2	1年	2.54	2.53	2.67	2.51	2.56	2.77	2.97	2.51	2.28	2.21	2.97	2.44	2.32	2.33	2.45	2.13	2.20	2.19	2.27	2.07
	2年	2.17	2.55	2.71	2.67	2.98	2.86	3.05	2.45	2.26	2.13	3.34	2.28	2.07	2.12	2.05	2.28	2.38	2.50	2.38	2.34
	3年	2.39	2.39	2.68	2.49	2.67	3.07	3.14	2.52	2.16	2.13	3.19	2.55	2.36	2.65	2.42	2.44	2.45	2.45	2.37	2.28
	全体	2.39	2.48	2.68	2.54	2.70	2.91	3.06	2.50	2.23	2.16	3.15	2.45	2.28	2.41	2.34	2.29	2.34	2.37	2.34	2.21



○全体的に学年が上がるごとに数値は上がっていく傾向が見られる。

●過年度比較

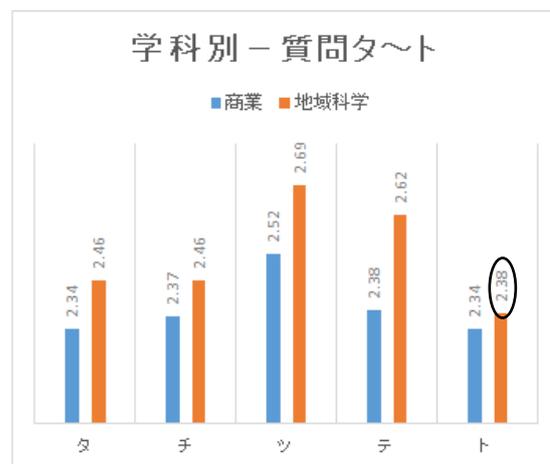
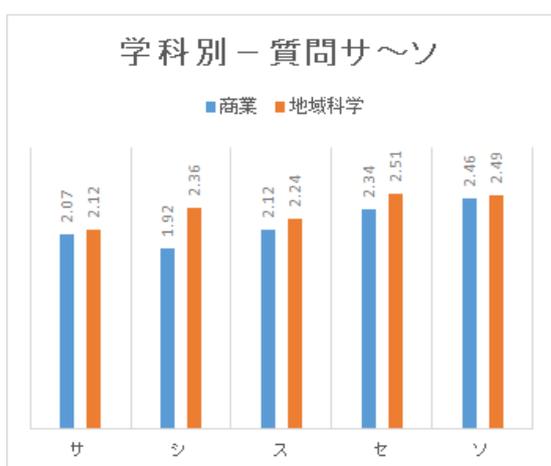
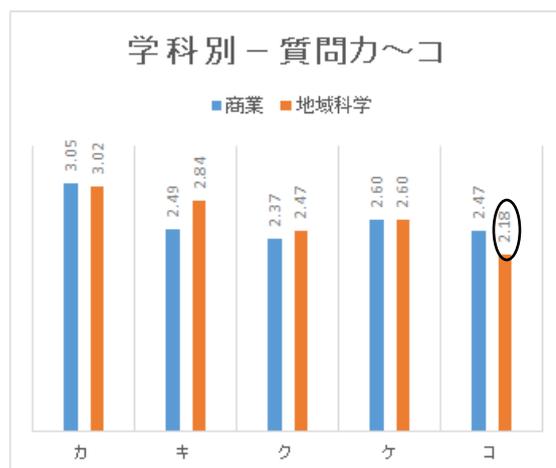
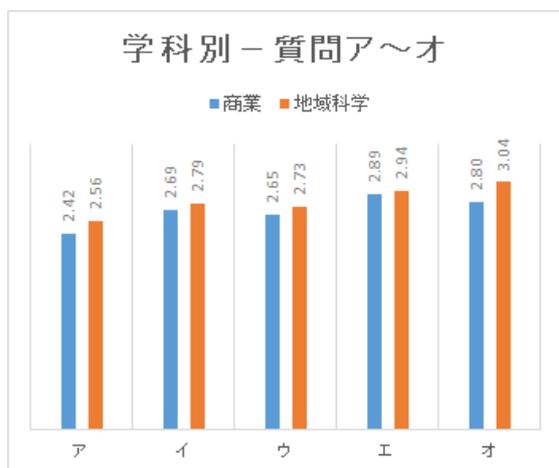
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
R2	2.39	2.48	2.68	2.54	2.70	2.91	3.06	2.50	2.23	2.16	3.15	2.45	2.28	2.41	2.34	2.29	2.34	2.37	2.34	2.21
R3	2.49	2.47	2.48	2.55	2.51	2.20	2.29	2.34	2.39	2.57	2.65	2.79	2.67	2.66	2.65	2.68	2.77	2.66	2.66	2.68
R4	2.63	2.82	2.83	2.88	3.13	3.02	2.72	2.53	2.65	2.73	2.26	2.45	2.24	2.37	2.39	2.44	2.28	2.41	2.38	2.36
R5	2.58	2.77	2.81	3.20	3.09	3.06	2.70	2.45	2.61	2.63	2.15	2.20	2.36	2.62	2.74	2.62	2.59	2.57	2.56	2.44
R6	2.50	2.75	2.70	2.92	2.94	3.03	2.70	2.43	2.60	2.31	2.10	2.20	2.20	2.44	2.48	2.41	2.42	2.63	2.53	2.36



- 質問サ「高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したい」は、この5年間一貫して減少している。
- 質問カ「自分のふるさとや松浦のことが好きである」は、本事業をはじめて3年間、3.00を超えており高い傾向がみられる。
- フィールドワークや仕事図鑑等、地域でのインタビューする機会を設定しているが、質問ス「自分は、地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力がある」は過去5年間で2.20と最も低くなっている。

●学科別

R6		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
商業	全体	2.42	2.69	2.65	2.89	2.80	3.05	2.49	2.37	2.60	2.47	2.07	1.92	2.12	2.34	2.46	2.34	2.37	2.52	2.38	2.34
	3年	2.72	2.94	3.00	3.11	3.06	3.11	2.50	2.33	2.56	3.14	2.11	1.60	2.33	2.67	2.67	2.44	2.56	2.56	2.50	2.39
	2年	2.52	2.88	2.76	3.16	3.08	2.92	2.48	2.36	2.68	2.30	2.13	1.73	2.04	2.52	2.64	2.60	2.60	2.68	2.52	2.60
	1年	2.05	2.27	2.23	2.41	2.27	3.14	2.50	2.41	2.55	2.19	2.00	2.16	2.05	1.86	2.09	1.95	1.95	2.32	2.14	2.00
地域科学	全体	2.56	2.79	2.73	2.94	3.04	3.02	2.84	2.47	2.60	2.18	2.12	2.36	2.24	2.51	2.49	2.46	2.46	2.69	2.62	2.38
	3年	2.68	2.96	2.88	3.12	3.36	3.28	2.92	2.40	2.76	2.50	2.32	2.33	2.16	2.68	2.52	2.60	2.60	2.80	2.68	2.60
	2年	2.64	2.85	2.76	3.06	3.15	2.88	2.73	2.45	2.55	2.12	2.14	2.58	2.30	2.52	2.52	2.52	2.58	2.73	2.73	2.36
	1年	2.43	2.63	2.63	2.73	2.75	2.98	2.88	2.53	2.55	2.09	2.00	2.19	2.25	2.40	2.45	2.33	2.28	2.60	2.50	2.25



- 質問タ～トにおいて、商業科は昨年度と同様に、地域科学科よりも低い傾向が続いている。
- 商業科は地域科学科と比較しても、質問コ「高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。」と考える値が高い。地域科学科はこの調査項目が最も低い値となっている（2.18）。
- 質問ト「道理や道筋に従いながら考え、結論を導き、結論についてわかりやすく説明する力がある。」については、地域科学科で全調査中 2.38 と質問コに次いで、低くなっている。

### (3) 三菱UFJ リサーチ&コンサルティングアンケート結果より～

三菱UFJ リサーチ&コンサルティングが実施している「高校魅力化評価システム」より、本校の実態を全国の平均と比較し、相対的な分析を行う。また、3年間における各アンケート項目の変化を分析し、本事業における効果と課題の検討を行う。今年度はアンケートの実施を9月に行った。本アンケートについては、各アンケート項目において肯定的回答をした割合を用いて以下の視点から分析を行った。

- ①本校の強み：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上高い項目
- ②本校の弱み：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上低い項目
- ③本校の課題：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上低い項目かつ本校の平均値が3年間で右肩下がりの項目
- ④本校の変化：本校の平均値が3年間で10%以上伸びた項目

#### 【結果】

##### ■生徒アンケート結果

###### ①本校の強み：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上高い項目

29. 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある
32. 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
61. 地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる
70. 地域社会などでボランティア活動に参加した

- ・「地域」に対して肯定的な回答をしている生徒が多いことが分かる。「まつナビ・プロジェクト」を通して生徒自身も地域と結びついている実感を得ている。
- ・「地域科学科」を設置している学校として、スクールミッション、グラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシーに掲げた「地域との繋がり」や「課題解決」について目標達成していると評価できる。

###### ②本校の弱み：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上低い項目

39. 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる
37. うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む
67. 学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている
45. 情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる
46. 勉強したものを実際に応用してみる
41. 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ
57. 私が関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない
63. 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う
73. 友人などから、意見やアドバイスを求められた

- ・探究のプロセスにあたる「課題の設定」→「情報理解・収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」において、本校ルーブリックの「テーマ設定力・課題発見力」と「論理的思考力」が弱いことが分かる。
- ・探究を通して得た基礎知識を、特にデータ分析等で応用まで発展させる力が低いことも本校の弱みとなっている。

③本校の課題：令和6年度の本校の平均値が全国平均値と比べて10%以上低い項目かつ本校の平均値が3年間で右肩下がりの項目

13. 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う
34. 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
54. 一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする
75. 授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした
76. 公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした
88. この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる

- ・情報理解・収集力、思考力の育成が不十分であるという課題が解決できていない。
- ・グループ活動は活発に行っているが、チームでの協働が苦手な傾向がある。
- ・将来の生活の起点を「松浦」と考えている生徒は増えていない。

④本校の変化：本校の平均値が3年間で10%以上伸びた項目

12. 活動、学習のまとめを発表する
85. 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う
90. この学校を中学生におすすめできる

- ・構想、中間、最終（課題探究）発表会や、特に外部コンテストへの出場が増え、プレゼンテーション力は向上している。
- ・特に「この学校を中学生におすすめできる」という設問に関しては、全国平均値と比較しても10%以上高い値が出ており、「まつナビ・プロジェクト」を通して生徒にとっての本校の魅力が向上していると評価できる。

#### 【分析】

- ・論理的思考力の育成が十分に図ることができていない。また、探究に必要な力（スキル）の育成が不十分である。
  - 探究学習と教科学習との連携を図る必要がある。
  - 授業内でスキルアップ講座（聴く力、まとめる力、分析力、質問力など）を行う。
  - 教員、地域、コーディネーターが協働し、外に出ることが目的にならないフィールドワークを実施する。
- ・魅力ある地域づくりの担い手をどう育成していくか。
  - 地域の課題解決において「課題」の深掘りは行うが、「魅力の再発見」まで実施できていない。生徒が地域の魅力を感じ、再発見でき、地域の担い手として成長できるように、地域連携について再検討する必要がある。

■教員・地域（大人向け）アンケート

①教員の学び、学校組織に関する成果

質問事項	教職員・関係者向け質問項目	2023	2024	前年比
その他	23. 今の生活全般の満足度	41.3%	57.6%	16.3pt
協働性・学習環境づくり	7. 自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている	56.5%	72.7%	16.2pt
その他	24. 普段のあなたの幸福度	50.0%	63.6%	13.6pt
探究性・学習環境づくり	10. 本音を気兼ねなく発言できる	54.3%	66.7%	12.4pt
主体性・学習環境づくり	22. 子どもの自己決定を尊重できている	82.6%	93.9%	11.3pt
探究性・学習環境づくり	17. 生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができています	71.7%	81.8%	10.1pt
その他	29. (地域・社会との協働を通して) 自身の資質・能力の向上につながっている (教職員のみ)	71.4%	80.0%	8.6pt
その他	30. (地域・社会との協働を通して) 学習意欲が高まった生徒がいる (教職員のみ)	57.1%	65.0%	7.9pt
主体性・学習環境づくり	5. 失敗を恐れずに挑戦することができている	73.9%	81.8%	7.9pt
その他	27. この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	63.0%	69.7%	6.7pt

・教員の探究活動に関するスキルや生徒への伴走のスキルは身に付いてきている

②教員の学び、学校組織に関する課題：

質問事項	教職員・関係者向け質問項目	2023	2024	前年比
探究性・学習環境づくり	11. 地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる	60.9%	54.5%	-6.4%
社会性・学習環境づくり	19. 生徒の関心に合わせて、機会を提供できている	82.6%	72.7%	-9.9%
協働性・学習環境づくり	15. 自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している	87.0%	75.8%	-11.2%
その他	28. (地域・社会との協働を通して) 授業の質の向上につながっている (教職員のみ)	57.1%	45.0%	-12.1%

・探究と授業との往還が不十分（授業改善が不十分）

■ 参考資料（生徒アンケート結果）

質問事項	回答者数	2022年度	2023年度	2024年度	前年度	前年度全国平均
【主体性に関わる学習活動】		206人	180人	163人	-	-
5.自主的に調べ物や取材を行う		50.7%	53.9%	58.3%	4.4pt	7.0pt
6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く		66.5%	69.4%	69.9%	0.5pt	-2.0pt
【協働性に関わる学習活動】		35.0%	38.3%	46.6%	8.3pt	15.9pt
7.グループで協力しながら学習や調べものを行う		69.7%	78.9%	77.5%	-1.4pt	3.0pt
8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う		83.0%	91.1%	87.1%	-4.0pt	3.7pt
9.活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う		81.6%	87.2%	88.3%	1.1pt	0.6pt
13.生徒同士で活動、学習の振り返りを行う		50.5%	-	-	-	-
【探究性に関わる学習活動】		63.6%	58.3%	57.1%	-1.2pt	-9.7pt
10.自分の考えを文章や図表にまとめる		61.3%	55.6%	58.0%	2.4pt	-9.2pt
11.話し合った内容をまとめる		49.5%	49.4%	57.1%	7.7pt	-9.0pt
12.活動、学習のまとめを発表する		69.4%	-	-	-	-
【社会性に関わる学習活動】		65.0%	61.7%	58.9%	-2.8pt	-6.0pt
14.地域の魅力や資源について考える		64.7%	54.7%	58.9%	4.2pt	11.1pt
15.地域の課題の解決方法について考える		71.4%	-	-	-	-
16.日本や世界の課題の解決方法について考える		79.6%	76.1%	70.6%	-5.5pt	24.5pt
【主体性に関わる学習環境】		43.2%	33.3%	47.2%	13.9pt	-2.4pt
20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある		81.1%	86.7%	84.9%	-1.8pt	-2.1pt
21.挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある		73.8%	78.9%	74.8%	-4.1pt	-4.3pt
26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる		87.9%	-	-	-	-
33.目標や当事者意識を持って挑戦している人がある		87.9%	93.3%	89.0%	-4.3pt	-1.8pt
35.周りの大人は、自分に関わることに自分で決めることを尊重してくれる		71.8%	-	-	-	-
【協働性に関わる学習環境】		84.0%	87.8%	90.8%	3.0pt	0.9pt
22.人と違うことが尊重される雰囲気がある		70.9%	67.2%	71.6%	4.4pt	-4.0pt
23.ありのままの自分が尊重される雰囲気がある		71.8%	73.3%	74.8%	1.5pt	-6.8pt
27.自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある		75.7%	-	-	-	-
28.立場や役割を超えて協働する機会がある		75.7%	-	-	-	-
30.人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある		68.4%	72.2%	76.7%	4.5pt	0.6pt
【探究性に関わる学習環境】		62.6%	56.1%	63.2%	7.1pt	0pt
17.本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある		72.5%	76.4%	78.1%	1.7pt	-3.0pt
18.将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる		77.2%	78.9%	76.7%	-2.2pt	-6.2pt
24.周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる		74.8%	77.8%	78.5%	0.7pt	-2.7pt
31.お互いに問いかけあう機会がある		82.5%	83.3%	89.0%	5.7pt	0.8pt
36.生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある		64.6%	-	-	-	-
【社会性に関わる学習環境】		63.6%	65.6%	68.1%	2.5pt	-5.6pt
19.地域から大切にされている雰囲気を感じる		69.6%	67.5%	67.5%	0pt	6.4pt
25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡ししてくれる大人がいる		81.1%	-	-	-	-
29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある		78.2%	83.3%	79.8%	-3.5pt	3.3pt
32.自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある		80.1%	83.3%	81.6%	-1.7pt	25.8pt
34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる		63.6%	60.6%	67.5%	6.9pt	13.5pt
【主体性に関わる自己認識】		45.1%	42.8%	41.1%	-1.7pt	-11.7pt
51.自分にはよいところがあると思う		61.1%	60.3%	62.9%	2.6pt	-4.9pt
52.私は、自分自身に満足している		66.5%	76.1%	76.1%	0pt	-1.7pt
39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる		44.7%	55.6%	58.3%	2.7pt	3.7pt
40.目標を設定し、確実に行動することができる		60.7%	51.7%	55.8%	4.1pt	-17.0pt
53.自分で計画を立てて活動することができる		58.3%	51.1%	55.2%	4.1pt	-5.0pt
37.うまくいか分らないことにも意欲的に取り組む		61.7%	-	-	-	-
47.忍耐強く物事に取り組むことができる		70.4%	62.8%	65.6%	2.8pt	-11.0pt

【協働性に関わる自己認識】		65.5%	64.4%	66.3%	1.9pt	-3.2pt
	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	67.1%	76.7%	76.7%	0pt	-0.6pt
	42.相手の意見を丁寧に聞くことができる	88.3%	91.7%	85.9%	-5.8pt	-7.2pt
	49.自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	84.0%	87.2%	86.5%	-0.7pt	-2.6pt
	50.友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	52.4%	63.9%	67.5%	3.6pt	-2.0pt
	44.共同作業だと、自分の力が発揮できる	48.1%	-	-	-	-
【探究性に関わる自己認識】		62.6%	63.9%	66.9%	3.0pt	-2.3pt
	38.家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	59.6%	59.8%	60.7%	0.9pt	-8.5pt
	61.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	61.7%	59.4%	61.3%	1.9pt	-6.3pt
	67.学校で学習することで、自分ができることややりたいことが増えている	64.1%	63.9%	71.8%	7.9pt	20.7pt
	45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	67.5%	66.1%	66.9%	0.8pt	-13.7pt
	46.勉強したものを実際に応用してみる	63.1%	71.1%	66.9%	-4.2pt	-15.3pt
	41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	51.5%	55.6%	56.4%	0.8pt	-10.9pt
	54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	39.3%	28.9%	31.9%	3.0pt	-16.7pt
	48.自分を客観的に理解することができる	67.5%	67.2%	62.6%	-4.6pt	-18.1pt
【社会性に関わる自己認識】		62.6%	66.1%	68.1%	2.0pt	-7.4pt
	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	55.3%	54.4%	57.2%	2.8pt	-4.7pt
	56.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	35.0%	24.4%	36.2%	11.8pt	-7.4pt
	58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	52.4%	53.9%	57.1%	3.2pt	-2.6pt
	57.私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	64.6%	61.7%	64.4%	2.7pt	-2.0pt
	62.地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	34.5%	35.0%	36.8%	1.8pt	-12.6pt
	55.18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	58.3%	65.6%	66.3%	0.7pt	-3.6pt
	59.地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる	77.7%	72.2%	73.0%	0.8pt	-8.9pt
	64.将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	63.6%	-	-	-	-
	63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	69.4%	77.8%	74.8%	-3.0pt	1.1pt
	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	37.9%	34.4%	35.0%	0.6pt	-8.4pt
	68.自分の将来について明るい希望を持っている	44.7%	47.8%	54.0%	6.2pt	-1.9pt
【主体性に関わる行動】		69.9%	71.1%	74.8%	3.7pt	2.9pt
	71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	66.3%	61.7%	70.2%	8.5pt	2.2pt
	74.授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	78.6%	71.7%	81.6%	9.9pt	4.6pt
【協働性に関わる行動】		53.9%	51.7%	58.9%	7.2pt	-0.1pt
	72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	61.2%	57.8%	63.5%	5.7pt	-7.8pt
	73.友人などから、意見やアドバイスを求められた	58.7%	58.3%	66.9%	8.6pt	-3.6pt
【探究性に関わる行動】		63.6%	57.2%	60.1%	2.9pt	-11.9pt
	75.授業の内容について、「なぜそうなのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	60.9%	56.4%	50.9%	-5.5pt	-14.4pt
	76.公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	64.6%	58.3%	53.4%	-4.9pt	-13.4pt
【社会性に関わる行動】		57.3%	54.4%	48.5%	-5.9pt	-15.3pt
	69.いま住んでいる地域の行事に参加した	47.4%	29.7%	39.9%	10.2pt	6.7pt
	70.地域社会などでボランティア活動に参加した	44.7%	36.7%	39.3%	2.6pt	3.2pt
	77.先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	33.5%	22.8%	40.5%	17.7pt	16.9pt
【学習・その他】		64.1%	-	-	-	-
	90.この学校を中学生におすすめできる	40.7%	57.8%	70.6%	12.8pt	2.9pt
	78.国際社会の課題解決に貢献したい	57.3%	57.8%	70.6%	12.8pt	-8.2pt
	79.まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	38.8%	-	-	-	-
	80.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	35.9%	-	-	-	-
【主体性に関わるウェルビーイング】		30.6%	-	-	-	-
	81.今の生活全般の満足度	50.6%	61.5%	62.8%	1.3pt	0.2pt
	82.普段のあなたの幸福度	49.5%	65.0%	66.3%	1.3pt	-2.3pt
	83.現在の日常生活に不安や心配事がない	49.0%	68.3%	66.9%	-1.4pt	-2.6pt
【協働性に関わるウェルビーイング】		53.4%	51.1%	55.2%	4.1pt	5.3pt
	66.この学校に入ってよかったと思う	78.6%	78.3%	78.7%	0.4pt	-5.2pt
	84.学校の一員だと感じている	75.2%	77.8%	79.1%	1.3pt	-7.5pt
	85.大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	82.5%	83.3%	83.4%	0.1pt	-2.7pt
【探究性に関わるウェルビーイング】		78.2%	73.9%	73.6%	-0.3pt	-5.3pt
	68.自分の将来について明るい希望を持っている	74.8%	74.1%	74.0%	-0.1pt	-0.4pt
	86.自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っている	69.9%	71.1%	74.8%	3.7pt	2.9pt
	87.自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	75.7%	79.4%	74.8%	-4.6pt	-2.0pt
【社会性に関わるウェルビーイング】		78.6%	71.7%	72.4%	0.7pt	-2.1pt
	58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	52.9%	49.7%	54.1%	4.4pt	-3.8pt
	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	64.6%	61.7%	64.4%	2.7pt	-2.0pt
	88.この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	44.7%	47.8%	54.0%	6.2pt	-1.9pt
	89.日本の将来は明るいと思う	55.3%	51.7%	51.5%	-0.2pt	-16.9pt

■参考資料（教員・地域アンケート結果）

アンケート結果	教員・地域		生徒回答	比較		全国平均
	2023年度	2024年度	2024年度	前年度	生徒	2024年度
	46人	33人	163人	-	-	7125人
教職員・関係者向け質問項目	-	-	-	-	-	-
【主体性に関わる学習環境づくり】	83.0%	88.5%	84.9%	5.5pt	3.6pt	84.2%
5.失敗を恐れずに挑戦することができている	73.9%	81.8%	74.8%	7.9pt	7.0pt	69.2%
6.目標や当事者意識を持って挑戦することができている	82.6%	84.8%	0%	2.2pt	-	82.1%
13.挑戦する人に対して、応援することができている	89.1%	90.9%	0%	1.8pt	-	90.6%
14.誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている	87.0%	90.9%	89.0%	3.9pt	1.9pt	86.8%
22.子どもの自己決定を尊重できている	82.6%	93.9%	90.8%	11.3pt	3.1pt	92.1%
【協働性に関わる学習環境づくり】	77.0%	78.2%	71.6%	1.2pt	6.6pt	73.5%
7.自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている	56.5%	72.7%	63.2%	16.2pt	9.5pt	55.6%
8.人と違うこと、異なった意見を尊重している	82.6%	78.8%	74.8%	-3.8pt	4.0pt	80.4%
9.ありのままの個人を尊重している	89.1%	90.9%	0%	1.8pt	-	86.3%
15.自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している	87.0%	75.8%	0%	-11.2pt	-	73.2%
16.立場や役割を超えて協働している	69.6%	72.7%	76.7%	3.1pt	-4.0pt	72.2%
【探究性に関わる学習環境づくり】	63.0%	67.3%	77.9%	4.3pt	-10.6pt	67.0%
10.本音を気兼ねなく発言できる	54.3%	66.7%	76.7%	12.4pt	-10.0pt	62.2%
11.地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる	60.9%	54.5%	78.5%	-6.4pt	-24.0pt	57.9%
17.生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができている	71.7%	81.8%	89.0%	10.1pt	-7.2pt	83.6%
18.お互いに問いかけあう機会がある	54.3%	57.6%	0%	3.3pt	-	70.3%
【社会性に関わる学習環境づくり】	82.1%	78.8%	76.3%	-3.3pt	2.5pt	68.8%
12.自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持っている	73.9%	75.8%	67.5%	1.9pt	8.3pt	61.0%
19.生徒の関心に合わせて、機会を提供できている	82.6%	72.7%	79.8%	-9.9pt	-7.1pt	78.5%
20.地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている	82.6%	81.8%	81.6%	-0.8pt	0.2pt	62.3%
21.地域で生徒を育てるという意識を持っている	89.1%	84.8%	0%	-4.3pt	-	73.4%
【その他】	58.8%	64.5%	66.9%	5.7pt	-2.4pt	67.0%
23.今の生活全般の満足度	41.3%	57.6%	66.3%	16.3pt	-8.7pt	56.9%
24.普段のあなたの幸福度	50.0%	63.6%	66.9%	13.6pt	-3.3pt	61.4%
25.この学校を中学生にすすめることができる	76.1%	78.8%	70.6%	2.7pt	8.2pt	84.4%
26.この学校に関わってよかったと思う	84.8%	84.8%	79.1%	0pt	5.7pt	90.2%
27.この地域を、将来暮らす場所としてすすめることができる	63.0%	69.7%	51.5%	6.7pt	18.2pt	70.7%
28.（地域・社会との協働を通して）授業の質の向上につながっている（教職員のみ）	57.1%	45.0%	-	-12.1pt	-	67.0%
29.（地域・社会との協働を通して）自身の資質・能力の向上につながっている（教職員のみ）	71.4%	80.0%	-	8.6pt	-	73.0%
30.（地域・社会との協働を通して）学習意欲が高まった生徒がいる（教職員のみ）	57.1%	65.0%	-	7.9pt	-	72.6%
31.（地域・社会との協働を通して）業務負担感の軽減につながっている（教職員のみ）	14.3%	15.0%	-	0.7pt	-	17.3%

(4) まとめ…3つのアンケート調査結果を以下に整理した。

■アンケート結果からみた本校の強みと課題

	強み	課題
(1) 目標シート	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒はまつナビが地域活性化につながっていることを自覚している。</li> <li>○生徒はコミュニケーション力が高いと考えている。</li> <li>○商業科は、情報理解・収集力はある程度高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒がまつナビを通じて、キャリア形成力が高まっている実感がない。</li> <li>○論理的思考力が低い。</li> <li>○商業科は地域科学科と比べて、ループリックの数値は全ての項目で低い。</li> </ul>
(2) 本校独自のアンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的に学年が上がるごとに数値は上がっている傾向が見られる。</li> <li>○自分のふるさとや松浦のことが好きな生徒は、この3年間でも高い数値(3.0を超える)となっている</li> <li>○高校卒業後に就職する商業科の生徒は、地元就職したい気持ちが地域科学科よりも高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校卒業後に進学する生徒のうち、大学卒業後にUターンして就職したい生徒は一貫して減少している。</li> <li>○自分は地域の方にインタビュー等をする力が弱いと考える生徒が多い。</li> <li>○商業科は地域科学科と比べて昨年と同様に低い。</li> </ul>
(3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティングアンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域に対して肯定的な生徒が多い。</li> <li>○昨年度課題だったボランティア活動についてはかなりポイントが上がっている。</li> <li>○プレゼンテーション力は向上している。</li> <li>○まつナビを通して本校の魅力化は向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究をとおして身に付けた基礎知識をデータ分析等までに応用させる力が弱い。</li> <li>○論理的思考力が十分に身に付いていない。</li> <li>○地域での活動は多いが、チームでの協働が苦手。</li> </ul>

1-2 今年度の成果と課題

今年度の成果と課題は、以下のビジュアル資料のとおりである。

令和6年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

管理機関名：長崎県教育委員会

【長崎県立松浦高等学校】地域科学科（地域社会学科）（令和4年度設置）

令和6年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

**目的**

地域社会の未来を担うリーダーの育成  
～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～

**特色・魅力ある教育の概要**

地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的な学びに重点的に取り組む（研究テーマ例）

- アジのころこの活用～コラーゲンを抽出して商品化する～
- あらゆる人のための町づくり～高校生自主防災組織をつくる～
- 動物保護 ○手話を広める ○民話のアニメ化 など

**目標**

- I 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現
- II 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献
- III 県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

**関係機関との連携・協働体制の構築方法**

**令和6年度の成果（○）**

**令和6年度の課題（●）**

計画 I	実施内容（取組状況）	令和6年度の成果（○）	令和6年度の課題（●）
地域科学科1回生のキャリアアップに向けた取り組みの検証等による総括、次年度以降の計画策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒たちの興味・関心から研究テーマを設定し、その実践活動や解決策について発表した。</li> <li>○ルーブリックによる各活動の自己評価を行った。個人でも自己目標を立てた。</li> <li>○各活動を「松高ポータルフォーリオ」に記録し振り返りを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ設定後の班編成の際に、担当教員と生徒がこれからの探究活動についてミスマッチがないか面談を行った。</li> <li>○身に付けさせたい7つの力をグループワークにまとめていくが、今年は生徒個人の目標をつくる取組を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●探究活動の短期・中長期的な目標をしっかりと提示した教員間の共通理解が不十分である。</li> <li>●問題解決に必要なデータの収集・活用・分析力の育成が不十分である。</li> <li>●キャリア形成につながるような探究テーマに導くことが不十分である。</li> </ul>
地域・学校活性化に向けた、3年間の生徒支援の検証等による総括、次年度以降の計画策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長崎大学の支援のもと、地域素材を活用した授業づくりに取り組んだ。</li> <li>○発表会に地元の人や長崎県立大学の学生等を招き、多方面から助言も受け取ることができた。</li> <li>○各班の活動に大学生に伴走してもらい、探究活動を充実させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科地域素材を活用した授業づくりに取り組み、地歴公民科では、中学校との合同授業も行った。</li> <li>○大学生1、2名を各班に入れてもらい、探究活動の進捗状況などについての壁打ちを3回以上実施できた。</li> <li>○「まっとうら高校応援団」にはフィードバック等でも多くの支援をもらった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報理解・収集力を高めるためのスキルの育成が不十分である。</li> <li>●地域素材を活用した授業づくりを行う中で、大学による支援を継続性のあるものにしていく必要がある。</li> <li>●探究活動を進めるための地元事業所とのマッチングがまだ不十分である。</li> </ul>
「地域高校」ネットワークの取組の検証等による総括、次年度以降の計画策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒間交流の一環として県北高校生探究フォーラムを実施。6校参加でポスターセッションやワークショップを行った。</li> <li>○立命館宇治中高的のWWLコンソーシアムに参加し、本校生徒が発表した。本県に全国防災会議に1年生2名が参加。本県開催であったため、ウエルカム行事などをその中心となって企画・運営した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県北高校生探究フォーラムを実施して他校生との交流によって、生徒の探究活動に対する意識やキャリア意識の高揚を図ることができた。</li> <li>○専門家による評価についての研修会を他校職員も参加して実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまで連携してきた県内の「地域に根ざした高等学校」との関係を継続しつつ、各校魅力化に向けた生徒間交流等を計画する。</li> <li>●外部（校外）コンテスト等で高評価を得る探究活動を増やす。</li> </ul>

## 第5章 新時代に対応した普通科改革の継続に向けて

文科省の研究指定終了後も、これまで「活性化ミーティング」で培ってきた知見を基盤に、高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）との連携を含めて教育活動の充実を図っていく。

### （1）校訓から見た活動目標設定

#### 1）「自己開拓」に全力を注ごう

##### ①キャリア形成力の向上

大学、短大、専門学校及び病院や保育所といった地域事業所との連携を含めた進路実現のための豊富な知識・経験の醸成。「自分ごと」とした3年間の進路探究を進める。

##### ②自己有用感を高める

外部コンテスト等への積極的なチャレンジ等。自分の興味関心を発端とする探究活動とその発表会に向けた取り組みの充実。また、これを実現するための教員の伴走する力のスキルアップを図る。

#### 2）正しい人間関係をきずいていこう

##### ①地域や大学、県内外の生徒間交流といった「ヨコのつながり」

学校外に積極的に出て、コミュニケーション力の向上を図る。

##### ②同級生だけでなく、下級生・上級生といった「タテのつながり」

探究や研究活動の継続。1年生は2年生の発表会へ参加し、テーマ設定の一助とする。

#### 3）よき市民性を身につけよう

①新しい学校設定科目「松浦学」と「まつナビ・プロジェクト」の活動の充実と相互補完的な学びの計画。教員は教科間の地域素材を利活用した教材研究を進める。

##### ②地域行事等の積極的な参加

ふるさとの未来について協議する「地域版未来会議」への参加や、地元の行事（松浦水軍まつりや松浦こども博）への企画段階からの参画を促進する。

(2) 本事業終了後の活動計画

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発 ○内容 ■育成したい力	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文科省委託事業「高等学校DX加速化推進事業」の実施計画と連携した活動を進めていくことの共通理解を図る。</li> <li>○活動目標等の共通事項を確認するための職員研修会の実施</li> <li>○資質・能力を身に付けさせるためルーブリックやポートフォリオ活用に関する生徒への説明・運用開始(全体)</li> <li>■メタ認知の育成</li> <li>○アセスメントテスト実施(1年)</li> <li>■メタ認知の育成</li> <li>○学校設定科目「松浦学」</li> <li>■地域について理解を深める</li> <li>○進路別探究活動(3年)(~8月)</li> <li>○班別探究活動の本格化(2年)</li> <li>■課題分析・解決能力の育成</li> <li>○中学校の活動の振り返り(1年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ドローン等の専門家による活動支援</li> <li>○ルーブリック・ポートフォリオの活用 →長崎大学の専門家とのルーブリックの評価規準及び活用に関する確認</li> <li>○外部機関のアセスメント</li> <li>○職員研修(ルーブリック、活動目標等) →大学など外部機関からの指導・助言</li> <li>○アセスメントテスト →生徒の現状把握</li> <li>○学校設定科目「松浦学」 →各教科での実施報告、ポートフォリオでの振り返り</li> <li>○3・2年探究活動 →「まっうら高校応援団」等を通じて大学及び地域人材等に支援依頼</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回探究スキル(課題発見)育成講座(産業能率大)(1年)</li> <li>■探究スキル</li> <li>○地域の魅力について知るための松浦未来講演会の実施(1年)</li> <li>■探究スキル、ふるさと貢献力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究スキル育成講座 →大学との連携、外部講師招聘</li> <li>○松浦未来講演会 →まっうら高校応援団との連携</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回学校運営協議会</li> <li>○中間発表準備(2年)</li> <li>■課題分析・解決能力、プレゼン力</li> <li>○『まっうら仕事図鑑』に必要なスキルアップ講座(1年)</li> <li>■ふるさと貢献力、必要なスキル育成</li> <li>○中間発表会(2年)</li> <li>■資料作成力、プレゼン力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会 →学校経営方針、教育活動。計画の指導・助言、支援の在り方検討</li> <li>○班別課題研究・中間発表会 →大学教員・大学生・地域等の人材によるフィードバック</li> <li>○仕事図鑑 →地域の人材活用</li> </ul>

7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域高校」との連携・協働研究ミーティング（全体）</li> <li>○進路別探究活動のまとめ（3年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■課題分析・解決能力・プレゼン力</li> </ul> </li> <li>○フィールドワーク（2年）及び仕事図鑑インタビュー（1年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■探究スキル、ふるさと貢献力</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域高校」との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>→外部機関及び連携高校とのミーティング内容の調整</li> </ul> </li> <li>○フィールドワーク・仕事図鑑インタビューの支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>→コンソーシアム等との連携</li> </ul> </li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人・班別の研究のとりまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要に応じて外部諸事業所と連携</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路別探究活動のまとめ（3年）</li> <li>○フィールドワークの成果を生かした班別探究の継続（2年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■課題分析・解決能力</li> </ul> </li> <li>○仕事図鑑まとめ（1年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■資料作成力、プレゼン力</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学生による壁打ち、探究活動の進捗状況を確認する（2年）</li> <li>○まつうら高校応援団等の支援を受けながら、仕事図鑑作成委員（生徒）による本格的な編集開始（1年）</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回学校運営協議会</li> <li>○課題探究発表会準備（2年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■課題分析・解決力・プレゼン力</li> </ul> </li> <li>○研究テーマ設定及び探究構想（1年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■課題発見力、自ら学び行動する力</li> </ul> </li> <li>○第2回探究スキル(主体的学習者)育成講座（産業能率大）（1年）</li> <li>○課題探究発表会（2年）・見学（1年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■課題分析・解決能力、プレゼン力</li> </ul> </li> <li>○外部コンテストへの応募準備（2年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■資料作成力</li> </ul> </li> <li>○ふるさと恩返し探究（3年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■ふるさと貢献力</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校運営協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>→教育活動の中間報告と修正・改善</li> </ul> </li> <li>○プレ構想発表会（1年） <ul style="list-style-type: none"> <li>→大学生・地域人材からのフィードバック</li> </ul> </li> <li>○人生の達人セミナー</li> <li>○課題探究発表会 <ul style="list-style-type: none"> <li>→長崎大生や長崎県立大学生および外部審査委員への評価方法の説明</li> </ul> </li> <li>○大学生による壁打ち、探究活動の進捗状況を確認する（2年）</li> <li>○発表資料のブラッシュアップ（2年）</li> <li>○「恩返し探究」のテーマ設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>→地域へミニフィールドワーク、インタビュー調査等を実施</li> </ul> </li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京フィールドワーク準備（2年）</li> <li>○研究活動班の始動（1年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京フィールドワーク <ul style="list-style-type: none"> <li>→訪問先との調整</li> </ul> </li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京フィールドワーク（2年）</li> <li>○各研究活動班でのテーマ設定（1年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■課題分析力</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京フィールドワーク <ul style="list-style-type: none"> <li>→報告書の作成</li> </ul> </li> <li>○必要に応じて外部諸事業所と連携</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間・3年間の取組を振り返るアンケートの実施・ポートフォリオ・報告書の作成（全学年） <ul style="list-style-type: none"> <li>■メタ認知力</li> </ul> </li> <li>○インターンシップ準備（～3月）（2年）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒アンケート等 <ul style="list-style-type: none"> <li>→結果の分析及び管理機関との共有</li> </ul> </li> <li>○インターンシップ準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>→各事業所との調整</li> </ul> </li> </ul>

1月	○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク(1年) ■探究スキル、ふるさと貢献力 ○マイプロジェクトアワード等の学部コンテスト・立命館宇治高校での探究活動発表(2年代表生徒)	○班別構想発表会準備・フィールドワーク→各事業所との連携
2月	○第3回学校運営協議会 ○インターンシップ準備(2年) ○班別研究構想発表会(1年)	○学校運営協議会 →年間の活動報告、意見交換、次年度の学校経営方針・活動計画等の検討 ○班別研究構想発表会→大学等との連携
3月	○インターンシップ(2年) ○フィールドワーク(1年)	○インターンシップ・フィールドワーク→各事業所との連携

### (3) 次年度以降の主な取組

- 1) DX ハイスクール事業とまつナビをつなげる：まつナビ×DX
  - ① デジタルスキルをもった地域人財の育成・ドローン(空撮、農薬散布、構造物点検、災害時の活用など)
  - ② 水中ドローン(養殖場点検、磯焼けの状況確認など)、デジタルサイネージ+AIカメラ(人流分析など)、3Dプリンタ、レーザー加工機の導入
- 2) コミュニティ・スクールの導入
  - ① 5年間で構築したコンソーシアムの継続
  - ② より地域との連携を深めるために専門部会(学校がやりたいことをお願いする場=佐賀県立鹿島高校を参考)を設置予定
    - ・地域連携(まつナビ・DX)部会
    - ・魅力化評価・広報部会
    - ・キャリア支援部会
- 3) コーディネーターなどの外部人材の採用=教員の負担軽減にもつながる
  - ① 現在在籍している2名の継続雇用
    - ・元中学校長：松浦市からの補助金で雇用
    - ・企業人：総務省「地域力創造アドバイザー」事業を活用して雇用(全て国の特別交付金)
  - ② 「地域おこし協力隊」を2名募集
    - ・「松高学び場」(R5年度から始めた公営塾=現状では自学のみ)のコーディネーター兼探究活動・広報での学校支援として(職員室に勤務)
  - ③ ベネッセコーポレーションとの連携
    - ・「松高学び場」へのサービス提供

#### (4) 本校における今後の具体的な取組について

生徒の多様性が広がる中で「個別最適な学び」の重要性が高まり、「生徒を主語にした」学校づくりが求められる中で、生徒や地域の状況に応じた特色ある教育課程を編成し、教育活動を展開していくことは、普通科においても必須である。そのためにも、学校のミッション・ポリシー、魅力や特色を改めて校内外のステークホルダーとともに検討し、教育活動に対する新たな意味付け（ブランディング）を行って教育活動の改善を図り、「一斉的・画一的な学び」という現在の普通科にもたれている印象を打破していくことが、「普通科改革」の本質であろう。

そして、そこでカギになるのが、学校を社会に開き、新たな取り組みを生み出そうとする教員マインドセットやスキルアップである。

本校では、これまでの研究指定事業の中で蓄積した知見を基盤に、以下のことに留意しながら、次年度以降の取組を進めていきたい。

①既存のコンソーシアムを基盤に学校運営協議会制度を導入し、地域との連携をより一層強化するとともに、学校の教育目標（とりわけグラデュエーションポリシーや各教科で育成したい資質・能力）を再設定し（＝自校のリブランディング）、学びの多様性を担保する。

②学校外との連携（地域、大学など）を一層強化し、探究活動の充実と生徒のキャリア支援を図る。

③新たな学びの場の創出にチャレンジしようとする教員のマインドシフト及び社会変化対応できるスキルを育成する。そのためにも、多様な外部人材による研修を充実させる。

④現在研究指定事業の予算で雇用しているコーディネーター等を配置する。

※松浦市の就学支援金及び総務省「地域力創造アドバイザー」事業を活用して配置予定

※新たに松浦高校の魅力化・特色化を推進する「地域おこし協力隊」を募集する予定

⑤中学校との連携を深め、特に授業互観などを通して授業改善に取り組んでいく。

また、改革を継続するには、現状の見える化を担保し、教員の指導・支援の実態や生徒の学びの姿を客観的に把握し、改革の妥当性を「評価」することが重要である。そのためにも、現在導入している三菱UFJリサーチ&コンサルティングの「高校魅力化評価システム」などを活用して、評価データを教員間で共有し、エビデンスに基づいて持続可能な改革の体制を築いていくことが重要である。

# 參考資料

の運営指導委員会には大学教員、県企画部幹部、地域の有識者など6名が、地域連携のよりよい在り方、探究活動の在り方、「まつナビ・プロジェクト」の持続可能性など、普通科改革上の課題を多方面から検討し、助言と支援の機会となっている。

また、コンソーシアム会議は、松浦市長、市議会議長、県教育委員会、同窓会、PTA、市教委、市小中学校校長会、商工会議所、大学、企業など計12名で構成されている。生徒の探究活動を、より深みのある活動にするための方策、そのための中高・高大・地域との連携の具体的な活動計画、探究性を高めるために授業研究の在り方などについて検討している。

さらに2023年度から、「まつうら高校応援団」を組織し、現在松浦市内の約50あまりの事業所が登録している。「まつナビ・プロジェクト」における研究活動の支援に加えて、企業説明会の開催や「仕事図鑑」の取材受け入れ、インターンシップの実施など、全面的に同校の教育活動を支援している。

地域コーディネーターは2名おり、一人は

地元の元中学校校長で人脈が広く、特に中学校との連携を担ってくれている。また、もう一人は探究を進める生徒に寄り添った活動の支援をしてきている。

### キャリア形成へつながる 地域課題探究学習

まつナビ・プロジェクトの流れを見ていこう。1年生は探究の基礎的な知識や技術を身につける。はじめに、中学校でのふるさとについて学んできたことを、クラスで伝える活動をする。高校生にとってはプレゼンテーションで他者に伝える学びとなり、教員にとっては小中学校でどのようなふるさと学習が行われてきたかを知る機会となる。また、「松浦未来発見講座」では、「まつうら高校応援団」による各企業の説明、企業と同市との関わりや思いを聞いて質疑応答をする。今年度は、9事業所が参加し、生徒は多くの事業所の話を聞くことができ、職業について知るとともに、働くことの意味や、地域企業の地域への熱い思いについて見識を深めた。

次にグループで松浦市の企業にインタビュ

ーを行い、仕事の魅力や働く意味についてまとめた「MATSUURA仕事図鑑」を作成する。

事前に目的などの目線合わせを行うワークショップや、地元のプロを招いた写真の撮り方講座、新聞記者に記事の書き方講座を行うもらう。

7月下旬の取材当日も引率教員は数カ所を回るので取材の時間にすべて生徒に付き添っているわけではなく、生徒の主体性やコミュニケーション力が試されるフィールドワークとなっている。

冊子作成のコンセプトとして、地元の中学生をターゲットとしており、「MATSUURA仕事図鑑」として冊子にまとめ、市内7中学校の生徒全員に配布しており、中高を通してのキャリア教育の一助となっている。

10月からは、市役所の課ごとの仕事内容をブース形式で学び、いよいよ数時間かけて「まつナビ」で研究したい内容をプレ構想として発表する。年明けからは地域の課題解決に向けて、より具体的なテーマを設定する。研究したいことを1分間のスピーチにまと

地域連携を軸に探究を進める長崎県立松浦高等学校を紹介する。

同校は文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」の指定を受け、2022(令和4)年度から普通科を「地域科学科」に改編し、地域課題探究学習を推進している。地域科学科2クラス、商業科1クラス、全校生徒182名の松浦市唯一の高校である。

ここ10年の松浦市の人口減少に伴い、高校のクラス数の減少などが課題となっていた。2013年度より市による就学支援制度が始まり、その次年度には商業科を新設、2017年度より2年生が松浦市の魅力化を考え、市の職員が生徒の活動に密着して市の課題解決を目指し、松浦市に提言する地域課題探究型の授業「まつナビ」がはじまった。

さらに、2020年度からは2年生だけで行っていた「まつナビ」を、高校3年間の系統性のある探究学習とした。「まつナビ・プロジェクト」と名称もマイナーチェンジし、毎週水曜日6、7時限目に「総合的な探究の時間」(1単位)、学校設定教科「まつナビ」

(1単位)を実施している。

### 地域が全面的に応援

まつナビ・プロジェクトのカリキュラム推進の校内体制としては、「活性化ミーティング」を木曜日5限目に行っている。メンバーは、校長、教頭、商業科主任、進路指導主事、各学年代表、プロジェクトリーダー、地域コーディネーターの13名である。

ここでは直近の活動の振り返り、まつナビ・プロジェクトの今後の活動予定、小中学校との交流、外部コンテストへの応募、年間計画の改善、ルーブルックやポットフォリオの活用、プロジェクトの運営上の課題や生徒の学びの深化などについてじっくりと話し合う。

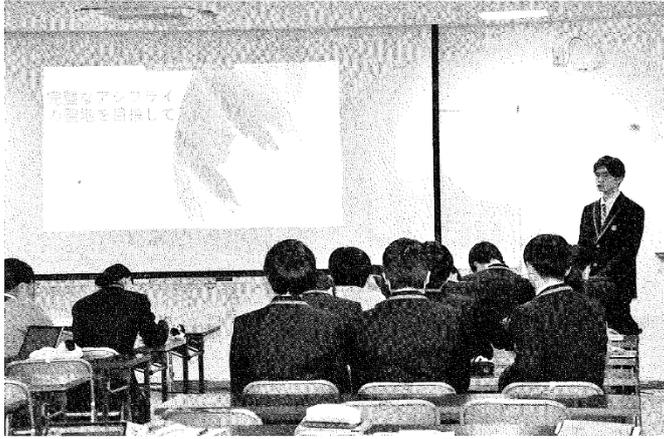
もちろん、毎回全員が揃うわけではないが、回覧用の記録にわかりやすくまとめ、報告を密にすることにより、この会議から職員会議を通して全職員へと共有する仕組みがつけられている。また、今年度からは長崎大学教育学部の藤井佑介准教授が定期的にオンラインで参加し、貴重な助言をもらっている。一方、校外の組織としては、研究指定事業

## 「地域に開かれた 高校」の探究活動

取材・文：廣瀬志保  
(山梨県立高等学校教員)

## 「探究」を探究する

第89回



発表の様子

年はじめの能登半島地震などもあり、緊急性を感じグループで話し合っており、テーマをアジフライから防災に変更した。

それからは、災害時に身近なもので応急手当をする方法や、緊急時の連絡方法などを学んだ。現在は災害時に活躍すると考え、企業と協働で「かまどベンチ」の製作をしている。古本さんは「ベンチの図面までできています。情報収集が自分でできるようになったこ

とや、班で話し合う中で意見をしっかりと伝えるようになりました。今後は自主防災組織の運営にも携わりたい」と言う。

このように、生徒の興味・関心の変化にも応じたテーマ設定も認められている。

授業担当は、学年の教員で各学年8〜9名である。年度初めの教員オリエンテーションで、まつナビ・プロジェクトリーダーから3年間の計画や活動目標、各回のワークシート、指導の手引きなどを説明し、教員間での共有を図っている。実際の授業では、それらをベースに学年ごとにアレンジして利用している。毎時の指導案の細案も年間分があるが、4・5月は新転任教員もいるので細案も出すが、軌道に乗ったところで、教員の主体性を生かすためにも細案については学年団に任せようとしている。

評価は、3年間を7ステージに分け、七つの資質・能力（情報理解・収集力、プレゼンテーション力、テーマ設定力・課題発見力、コミュニケーション力、論理的思考力、キャリア形成力、ふるさと貢献力）のそれぞれに5段階の基準がつけられルーブリックで自己

評価をしている。毎回の授業で、生徒は7項目の自己評価と感想を書いて振り返りを行っている。振り返りはデジタルとこの紙媒体とを併用している。

さらに、松浦高校では松浦市の就学支援金をもとに「まつナビ支援金制度」を設け、生徒の申請によって「まつナビ」の活動に必要な資金（上限3万円程度）を支給している。

プロジェクトリーダーの茶園孝一教諭は、「かつては職員室で教員の言動が後ろ向きなこともあったが、『こうしたらよくなるよ』という前向きな声が多く聞かれるようになった。こだわりとしては、地域科学科と商業科と一緒に『まつナビ・プロジェクト』をすること。科の壁をつくらずに混合にすることでそれぞれの活躍の場を創出できる。今後も生徒の興味・関心を生かし、協働体制を進めていきたい」と話す。

高校生と話すとき、地域との連携の中で高校生は失敗を恐れず、ポジティブ思考が培われているのが感じられる。そして、その先には自己のキャリア意識と、地域への貢献意欲の高まりが感じられた。

めて発表し、テーマが似ている生徒がグループをつくって、10〜12のプロジェクトができる。そして、グループごとに話し合いを重ね、グループでの研究テーマを設定し、2年生に向けて本格的に構想を練り始める。

2年生の1学期は班別研究活動を継続させ、各班で計画を立ててフィールドワークを行い、6月に中間発表会、10月下旬に講師や関係者を招いて市文化会館での発表会を行う。その後、これまでの活動を個人でまとめた報告書を作成し、自分のキャリア形成に結びつく進路別探究活動をはじめめる。

3年生では、地域科学科は、自らの進路希望に応じた課題研究や「ふるさと恩返し探究」という地域からの要望に応えた活動に取り組む、商業科は「サイバーセキュリティボランティア」でSNSの使い方についてなど地元の小中学校で授業を行う。このように探究活動を生徒のニーズや状況に応じて、「複線形」で行うプログラムとしている。

### 実社会と関わる探究

活動について高校生に聞いてみた。2年生



仕事図鑑取材の様子

の……さんは、仕事図鑑の取材が印象深く、電車で40分かけて映像制作をする事業所の取材をした。経営者の川浪勇太さんには、質問に対して丁寧に教えていただき、質問以外にも仕事の大変さややりがいについて聞くことができた。

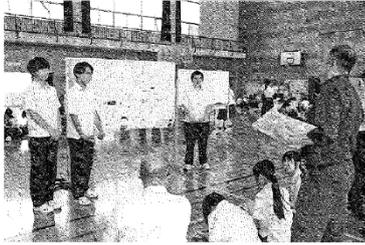
その経験から2年生になると、福祉に興味を持ち、聴覚に障がいがある方と交流できな

いかと市役所を訪問した。

紹介してもらった福祉施設の担当者と何度も電話でやり取りをして、何か地域でできることはないかと考え、手話を学び、市内の小中学校で手話の授業を計画している。対象の学年は小学校2・3年生と考えたが、4年生で福祉の学習を知り、こちらにターゲットが変わった。指文字を使った手話のワークショップで歌や簡単な文章、食べ物の名前などを伝え合えるよう計画している。

……さんは「福祉施設の担当者からの、『エスチャーターでも伝えられることがある。どうかして伝えたいという気持ちが大切』という言葉が印象に残り、小学生にもこの言葉を伝えたいです。何事にも前向きに取り組めるようになり、行動力がつきました」と話す。

2年生の……さんは「松浦市といえばアジフライ」なので、アジフライの食べられる店のアプリを作りたいと集まったグループで活動を始めた。アプリ制作について聞いたと、すでに災害アプリを普及させている市の防災課を訪問した。話を聞いているうちに、防災の重要性を再確認し、興味も湧いた。



中間報告会での  
質疑応答の様子



「MATSUJURA  
仕事図鑑」

て、フィールドワークなどを通じてその解決に向けて取り組む。そして課題解決の過程で2度の中間報告会を設定し、教員・他学年の生徒・保護者や地域の方々・大学の先生や学生などに質疑応答をしてもらい、研究内容をブラッシュアップする。さらに11月の最終報告会で、松浦市長をはじめとして多くの関係者の前で発表を行う。

「プレまつナビ」からここまでの1年間の過程が従来の「まつナビ」だった。ここを1年半とより時間をかけて取り組むようにした。その中で最も多くの時間を割いているのが、課題設定である。課題についてこの2年間、自分の興味・関心や自分の進路にこだわること、また自分たちが調査したり、実践したりすることができるような課題にすることを指導している。最終報告会以降は、東京への修学旅行での企業・大学訪問の準備、

全員参加のインターンシップ準備に充てており、自らのキャリアについて再考する時間としている。

3年次には、「まつナビ」の取り組みを深化させたり、自らのキャリアプランに合わせた課題研究に改めて取り組んだり、生徒の個別のニーズに応じて柔軟に対応できるように計画しており、「ポストまつナビ」と呼んでいる。

この3年間のプログラムを学校設定科目とし、各学年の総合的な探究の時間と合わせて週2時間を探究の時間としている。

また1年次前半には「MATSUJURA 仕事図鑑」の作成にも取り組んでいる。地域情報のインプットだけでなく、働く意味についてインタビューを行うなど、キャリア形成にもつなげている。

## 2年間の成果

2年間の取り組みの成果の一つ

として、「まつナビ」における研究課題の多様化がある。

以前は、松浦市の人口減少に対して「SNSによる情報発信」や「イベント開催」などのテーマを設定し、構想だけという発表が多かった。しかし、キャリア形成の視点で、自らの興味・関心から課題設定を行うことに注力したことから、研究課題に多様性が出てきている。

例えば現2年生の課題には「障害者との共生」「高校生による自主防災組織の結成」「松浦特産アジの廃棄されるウロコの活用」というものがある。地域社会が抱えるさまざまな課題を取り上げつつ、自らの興味・関心や将来のキャリア実現にテーマを結びつけられるようになってきた。

次回は、地域との連携体制や今後の展望について紹介する。

## 高校現場最前線

No.238

【長崎県立松浦高等学校】…①

校長 舟越 裕

地域課題を生徒の興味関心や進路につなげる

### 普通科改革の取り組み①

「地域科学科」発足

松浦市唯一の高校である本校は、令和4年度に文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」に採択され、同時に普通科を地域科学科（研究指定事業における「地域社会科学」）に改編して、新しいスタートを切った。

現在は地域科学科2学級、商業科1学級である。少子化により入学者が減少している中、新学科の開設による混乱、私立高校の就学支援制度の拡充、隣接する県の入試改革による生徒流出などの影響を受け、令和4年度の入学者は55人という過去最低人数でのスタートであった。

松浦市による支援

今回より、本校における普通科改革の取り組みについて紹介する。

松浦市内には、かつて複数の高校が設置されていたが、統廃合により平成23年度に1市1高となり、高校存続に危機感を抱いた市による就学支援制度が始まった。以前は、通学や下宿費用の補助、模擬試験や検定料の半額補助が大半であったが、2年前から本校の魅力・特色化のためにも充てることができるようになり、現在は年間約1400万円の補助金をいただいている。また、市役所や地元企業などからは、探究活動をはじめとしてさまざまな教育活動に人的支援をいただき、生徒の学びの

充実につながっている。

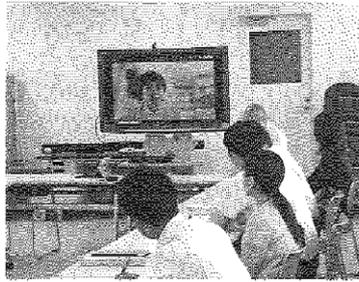
まつナビプロジェクト

本校が普通科改革に取り組むようになった背景には、①コンソーシアムを中心とした地域連携体制の整備、②地域課題探究学習「まつナビ」（2年次）での課題探究学習の充実という2点がある。

「まつナビプロジェクト」とは、地域科学科の教育課程上の特色であり、従来1年間の活動であった「まつナビ」を、3年間を通した活動としたものである。

1年次は、▽市役所や地元企業などからの説明を聞き、地域の情報収集に取り組む▽大学などの外部講師による講義を通じて探究のスキルを身に付ける▽生徒の興味・関心に基づいて課題設定を行う——という活動であり、「プレまつナビ」と呼んでいる。

2年次には、生徒が課題につい



長崎大学との  
オンライン協議

長崎大学や長崎県立大学からは、運営指導委員やコンソーシアムのメンバーである各大学の先生方から指導・助言を受けている。さらに長崎大学からは、各教科における地域素材を活用した授業づくりに伴走してもらっている。この授業実践の蓄積を活用し、令和7年度からは新たに学校設定科目「松浦学」を設置することにした。

また、ルーブリックや探究活動の改善などでも、個別に支援を受けている。長崎県立大学からは、ゼミ単位で「まつナビ」の発表会に参加してもらっており、今年度からは各班の発表内容に対する壁打ちを行ってもらっている。

### 普通科改革の展望

普通科改革では、特色・魅力あるカリキュラムおよび教育方法の開発、関係機関などとの連携協力体制の整備、そして連携協力を担

うコーディネーターの配置による調査研究が求められている。

この先に目指すものは、普通科でも特色ある学びを展開し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を身に付けることである。そのためには、▽学校や生徒の状況に応じて学びの多様性を担保する（授業改善や総合的な探究の時間・学校設定科目などで、教育課程の研究を進める）▽学校と外部との連携を強化して、生徒のキャリア意識を醸成するための支援を行う▽学びの充実のために、社会の変化に対応できる教員のスキル・マインドの養成を図る——といったことが重要だと考えている。

### 教員の自走、学校の持続可能性

地域連携による学校外での学びの充実、長い目で見ると、教員の働き方改革にもつながる。しかし、「まつナビ」のような探究活

動の充実には、やはり教員が探究について学び、生徒に伴走するスキルなどを身に付ける必要がある。本校では「まつナビ・プロジェクト活性化チーム」を組織している。各プログラムの企画・運営・改善、年間計画やルーブリックの見直しなどをチームが担い、コーディネーターと試行錯誤しながら活動内容の改善を進めるなど、教員が自走する環境は整ってきた。

本校における普通科改革の文料省研究指定は、今年度が最終である。今後は「DXハイスクール事業」という新しい展開も加わることになり、その中で教育活動の持続可能性と地域連携をより一層高める必要がある。そのため、次年度からは学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールとして、これまでのノウハウを生かしつつ、新しい学校づくりに再び乗り出すことにしている。

# 高校現場最前線

No.239

【長崎県立松浦高等学校】…①

校長 舟越 裕

学びを支える地域との連携体制

## 普通科改革の取り組み①

今回は、地域科学科での取り組み、特にその中心となる「まつナビ・プロジェクト」について説明した。今回は、その学びを支えている地域との連携体制や、本校の今後の展望について紹介する。

### まつなら高校応援団

令和4年7月、本校と地域の関係者によるコンソーシアムで、「まつナビ」の取り組みの中で、生徒が何を目標に、何をやろうとしているのか、生徒の思いが見えてこない。もっと直接、生徒と話ができる環境が欲しい」という意見が出された。コンソーシアムの役割である、生徒の興味・関心と、地域の課題やフィールドとのマッチングを、もっと円滑にできないかと

いう意見であった。

また、学校と地域とのマッチングの現場では、多くの学校では生徒が学校外の事業所などを訪問する際に、教員が事前連絡を入れた後に、生徒が連絡するという流れを取っていた。ただ、この業務は教員にとって大きな負担である。

この二つの課題を解消するため、令和5年3月に「まつなら高校応援団」を発足した。発足に当たって、本校の学びにこれまで関わっていた市内外の諸事業所に、次の3点について協力依頼をかけた。

▽「まつナビ」における地域課題解決に向けた支援▽企業による地元魅力説明会▽職場見学会・インターンシップの実施

その上で、二つの課題をクリア

するために、事前に参加事業所から、学校に提供できるリストと担当者名・メールアドレスをいただき、生徒が必要に応じて直接連絡を入れる方法にした。現在は「MATSUURA 仕事図鑑」の取次先としても支援いただき、今年度採択された「DXハイスクール事業」でも、支援を依頼している。

### まつナビ支援金

前回、松浦市役所による修学支援制度について紹介したが、その一部から、生徒の研究活動に必要な資金(事業所までの交通費、商品開発費など)を「まつナビ支援金」という形で上限3万円程度、提供している。生徒には、事前に申請書を提出させて審査し、資金活用後は報告書を提出させるなど、責任を持って活用するよう指導している。

### 高大連携

# 松浦高生が県北の探求活動発表

松浦市志佐町の県立松浦高（舟越裕校長、178人）は、地域探求の学習に取り組む県北地区の県立5校と探求フォーラムを初めて開いた。生徒らが成果を互いに発表し、グループで意見を出し合う「対話」の時間で交流を深めた。

同校は市と協働でまちの課題解決に取り組む「まつナビ」を2017年度から実施している。22年度からは「普通科」を「地域科学科」に改編し、文部科学省の「新時代に対応した高校改革推進事業」の県内唯一の指定校になっている。

今回のフォーラムは同事業の柱の一つ、「地域に根差した高校」のネットワーク構築を図るのが狙い。22日同校のほか、佐世保市の佐世保南高、佐世保北高、佐世保西高、宇久高、平戸市

## 佐世保でフォーラム



「新しい教科」をテーマにアイデアを出し合う生徒たち  
＝佐世保市、アルカスSASEBO

から猶興館高の1、2年生が参加。地域創造学部がある県立天佐世保校の学生や各校の教諭らも加わり、計約100人が集い、佐世保市三浦町のアルカスSASEBOで開いた。

生徒が探求の成果をポスターにまとめて発表したセッションでは「ネコと人間の共生」、「アジのうろこの活用方法」など多彩な16テーマが各ブースに並んだ。大人も含めた参加者が15グループに分かれ「対話」。新しい教科をテーマにアイデアを出し合った。地域探求の意義を再確認してもらおうと、ベネッセ教育総合研究所の山下真司主席研究員による講話もあった。

松浦高2年の さん(17)は「探求活動で、自分たちがアイデアだけで終わっていたテーマを他校が取り組んでいて、いいなと思った」、佐世保北高2年の さん(17)は「探求活動が社会貢献につながっていくことを学べた。他校との交流がすごく楽しい時間だった」と話した。(則行優志)

# 高校の探究学習、まち挙げ支援 地域課題の解決、提言から実践へ

令和4年度から、高校の「普通教育を主とする学科」で、普通科以外の学科を置くようになった。その一つが、地域社会の将来を担う人を育てる学科だ。長崎県立松浦高校は地元自治体や企業などの支援を受けて地域課題の探究学習に取り組む「地域科学科」を置いた最初のグループの高校だ。人口約2万人の松浦市に



まつナビで地域の人にインタビューする生徒たち＝同校提供

ある同校は、入学者の減少で一度は学校存続の危機に直面した。そこで生徒の進路に対応するため、平成26年度に商業科を設置。29年には市の協力を受け、地元をフィールドにした探究学習の「まつナビ」を2年生で始めた。その後「まつナビ・プロジェクト」として3年間のプログラムに体系化した。

まつナビ・プロジェクトは1年生で地元企業の人や市職員などの講演を聞き、生徒が課題設定した後、2年生でフィールドワークを始めるのが市や商工会議所、企業や長崎大学のメンバーからなるコンソーシアム。フィールドワークを生徒からの電話一本で受け入れてくれる「まつナビ・プロジェクト」は、市内に50カ所を数える。

プロジェクトのリーダー、茶園孝一教諭は「まつナビを始めるまでは提言止まりだった生徒たちの活動が、提言を実現させるため

年生でフィールドワークを実施。3年生で個人研究に取り組む活動だ。学習を支えるのが市や商工会議所、企業や長崎大学のメンバーからなるコンソーシアム。フィールドワークを生徒からの電話一本で受け入れてくれる「まつナビ・プロジェクト」は、市内に50カ所を数える。

プロジェクトのリーダー、茶園孝一教諭は「まつナビを始めるまでは提言止まりだった生徒たちの活動が、提言を実現させるため

の実践になってきた」と変化を口にする。

あるグループは地元の鉄道のプラットホームに、高齢者や障害のある人のために手すりを設置することを提案。生徒たちが自らが国土交通省に掛け合って実現させた。設置費用を負担したのはコンソーシアムの企業だった。別のグループは、松浦高校が指定避難所になっていることから、災害時にかまどになる防災ベンチを設置した。生徒の活動は市から年間1500万円の支援を受けており、フィールドワークの交通費などに充てている。

地域科学科とまつナビ・プロジェクトを始めてから3年。当初、落ち込んでいた入学者数も改善傾向で、県内就職者も大きく増えた。舟越裕校長は、コロナ禍の影響もあり、プロジェクトの影響とは断言できないしながらも手応えを感じている。

「まつナビでは、生徒たちが自分のやりたいテーマを設定できるようになってきた。実践を通して地元に関わる経験が、やがては故郷愛につながり、人の還流へとつながってくれと信じている。」



## アジのうろこでハンドクリーム

### 松浦高2年の3人が発案

### 試作重ね商品化模索

松浦市の松浦地域科学科2年のさん(17)ら3人が、アジのうろこを活用したハンドクリームを発売した。市が創業予定者を支援する「市ビジネスプランコンテスト」では、そのユニークな発想が本年度新設された「アイデア部門」(高大生対象)の最優秀賞に選ばれた。商品化を目指して試作を重ねており、化粧品関連会社との連携などを模索している。

同市の「アジフライの聖地」としての認知度が全国的に高まっている中、3人はアジフライの製造過程で廃棄される部分に着目。身以外はほとんど捨てられて

いることを知り、特に「ゼイゴ」と呼ばれるうろこの硬い部分の活用に思い至った。そこから抽出できるコラーゲンには保湿効果があることも分かった。

アジフライ製造会社の三陽(松浦市)から乾燥したうろこを提供してもらい、生物室で半透明のゲルを試作。昨年9月、長崎大研究者に紹介された大阪市の化粧品原料開発会社に成分分析を依頼すると、「塩分濃度が高く不純物が多い」との回答を得た。現在も改良を重ねている。

さん(17)、さん(17)は、周圀から(水産業が盛んな)





まつナビ・プロジェクト

検索

CLICK!

## 長崎県立松浦高等学校

〒859-4501 松浦市志佐町浦免 738-1

☎0956-72-0141(事務室)

☎0956-72-0142(職員室)

<http://www2.news.ed.jp/matsuura-h/>